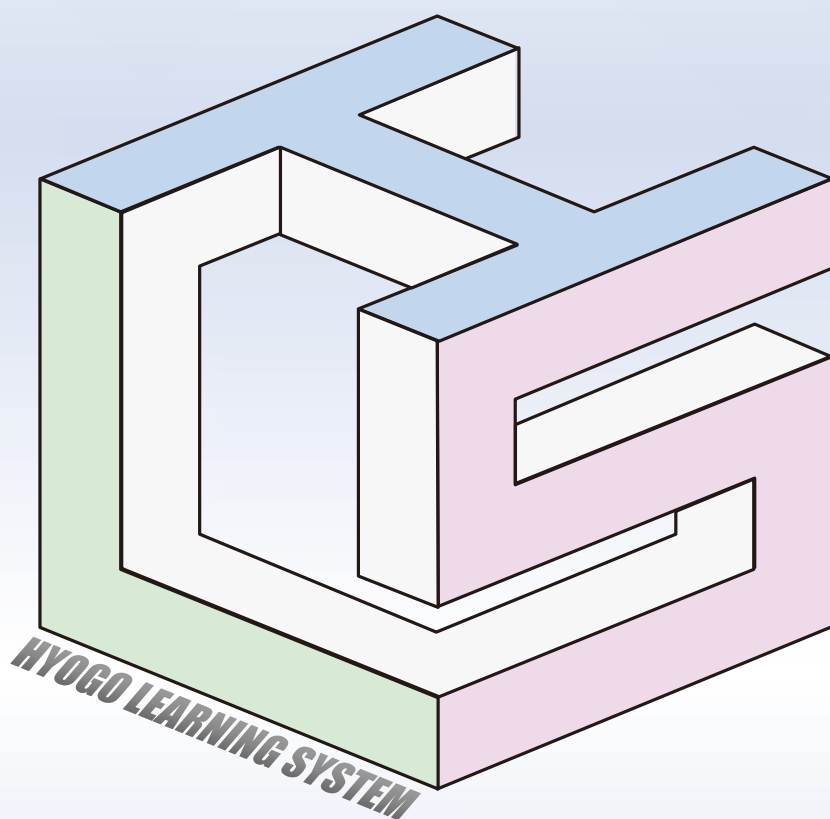


新学習システムあり方検討委員会 報告書

# すべての子ども達の可能性を引き出す 「兵庫型学習システム」の推進



令和4年1月

兵庫県教育委員会

# 目 次

I	はじめに	
1	本県の取組（新学習システムの推進）	1
2	国の動き	1
3	新しい学習システムの導入に向けて	1
II	新学習システムあり方検討委員会における検討内容	
1	国の動向と新学習システム推進上の課題	2
2	新学習システムあり方検討委員会における検討内容及び検討方法	3
3	研究協力校における実践研究	4
4	新学習システムの評価・検証に関する調査結果	6
5	新しい学習システムの構築に向けて	10
	<b>新しい学習システムの導入に向けて ～新学習システムあり方検討委員会 提言～</b>	<b>11</b>
III	兵庫型学習システム	
1	具体的な推進内容	12
2	兵庫型学習システムの導入スケジュール	13
3	兵庫型学習システムにおける教科担任制	14
目	兵庫型学習システムにおける交換授業等教科担当例	16
IV	研究協力校の取組	32
V	新学習システムあり方検討委員会について	
1	設置要綱	56
2	委員名簿	57
3	年間スケジュール	59
4	委員会の開催状況	60
5	議事録	61
目	参考資料	69

## I はじめに

### 1 本県の取組（新学習システムの推進）

本県では、平成13年度から個に応じたきめ細かな指導や心の安定を図り、多面的な児童生徒理解に基づく指導など、児童生徒の個性や能力の伸長を図ることを目的とした「新学習システム」を推進している。

平成16～20年度にかけて、小学校1～4年生に35人学級編制を導入するとともに、中学校における少人数授業などを実施してきた。加えて、平成21年度からは、学力の向上や小学校から中学校への円滑な接続を図るため、小学校5・6年生において、学級担任の交換授業による「教科担任制」と「少人数学習集団の編成」を組み合わせた「兵庫型教科担任制」の実践研究に取り組み、平成24年度から全県実施をしている。

「兵庫型教科担任制」実施校へのアンケートにおける肯定的な回答の割合について、実施当初と昨年度とを比較すると、中学校への円滑な接続については37.4ポイント(46.0%→83.4%)、学習意欲の向上については33.7ポイント(39.1%→72.8%)、多面的な児童理解に基づく生活指導については14.8ポイント(78.6%→93.4%)それぞれ上昇しており、教科担任制の取組が定着するにつれて、効果を実感する学校が増加している。

### 2 国の動き

公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の一部を改正する法律が、令和3年3月31日に公布、同年4月1日から施行された。公立の小学校（義務教育学校の前期課程を含む）の学級編制の標準が、令和3年度から7年度にかけて、学年進行により現行の40人から35人に段階的に引き下げられ、小学校の全学年が35人学級編制となる。

加えて、令和3年1月の中央教育審議会答申（以下「中教審答申」）では、「小学校高学年からの教科担任制を（令和4（2022）年度を目途に）本格的に導入する必要がある」と示され、令和3年7月の「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について（報告）」では、外国語、理科、算数及び体育について優先的に専科指導の対象とすべき教科として示された。文部科学省の令和4年度予算案では、教科担任制を推進するため、令和4年度から7年度にかけて、合計3,800人の定数改善を図ることとしている。（令和4年度は950人）

### 3 新しい学習システムの導入に向けて

国の制度変更により、新学習システムの体制維持が困難となる見込みとなったため、今年度、新学習システムあり方検討委員会を設置し、これまで本県が先導的に実施してきた新学習システムの良さを生かした、新たな学習システムの創造に向けた検討を行った。

新学習システムあり方検討委員会においては、研究協力校（小学校6校・中学校6校）における実践研究と新学習システムの評価・検証に関する調査結果を踏まえて、新たな学習システムの創造に向けた協議を行い、県教育委員会に提言を行った。

県教育委員会では、中教審答申及び提言に基づき、国の加配教員を最大限に活用し、

○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

○児童生徒の心の安定を図り多面的な理解に基づく指導

により、すべての子ども達の可能性を引き出す指導の一層の充実を図るため、新たな学習システム（「兵庫型学習システム」）を導入することにした。

各学校において、「兵庫型学習システム」の趣旨や推進内容を十分に理解した上で、地域や学校の実情に応じた教育活動が展開され、本県教育が一層充実することを期待する。

## Ⅱ 新学習システムあり方検討委員会における検討内容

### 1 国の動向と新学習システム推進上の課題

#### (1) 国の動向

##### ①35人学級編制の段階的導入

令和3年度（小学校2年生）から令和7年度（小学校6年生）まで、学年進行で5年間かけて35人学級編制を段階的に導入

##### ②小学校高学年（5・6年生）への教科担任制の導入

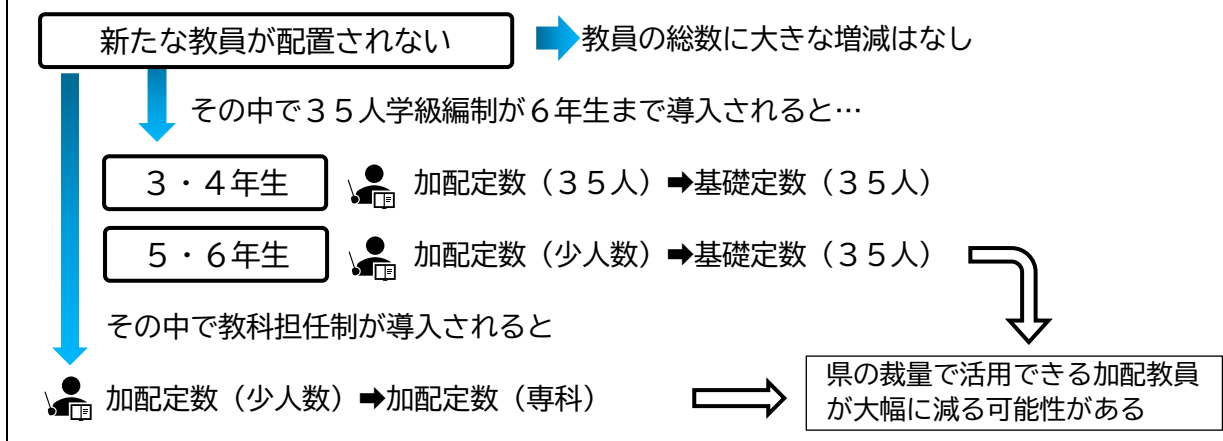
学校教育活動の充実や教員の負担軽減を図るため、令和4年度から、小学校に専科教員（算数・理科・体育・外国語を優先教科）を配置し、教科担任制を導入

#### 【国の制度改正のイメージ】

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7
35人学級	小1のみ	小2追加 【現行制度】	小3追加	小4追加	小5追加	小6追加 【学年進行完了】
教科担任制			小5、小6へ 導入			

#### (2) 新学習システム推進上の課題

##### 国の定数改善



##### 新学習システム

兵庫型教科担任制など独自に進めてきた  
「兵庫らしい教育」

→ 体制維持が困難

+ 学校規模によって  
影響が異なる

## 2 新学習システムあり方検討委員会における検討内容及び検討方法

### (1) 検討内容

#### 中央教育審議会答申（R3.1）

『令和の日本型学校教育』の  
構築を目指して」  
～全ての子供たちの可能性を引き出す、  
個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

#### 第3期ひょうご教育創造プラン(R1~5)

「兵庫が育む  
こころ豊かで自立する人づくり」  
- 「未来への道を切り拓く力」の育成-



### 新学習システムの良さを生かした、新たな学習システムの創造

#### 【主な検討内容】

- ・新学習システムの評価・検証に関すること
- ・今後の学習システムの推進内容に関すること

#### 【具体的な検討内容】

- ・小学校高学年における指導体制（兵庫型教科担任制）のあり方
- ・中学校における指導体制（少人数授業）のあり方

### (2) 検討方法

#### 研究協力校での実践研究

- ・小学校高学年における指導体制  
6校
- ・中学校における指導体制  
6校

#### 新学習システムの評価・検証に関する調査

- ・学校質問紙（全小・中学校）
- ・教員質問紙（150校）※小100校、中50校
- ・保護者質問紙（150校）
- ・児童生徒質問紙（150校）  
※教員質問紙は、児童生徒質問紙  
実施校の学級担任に依頼



### 新学習システムあり方検討委員会において、今後の推進内容を検討

- ・検討結果と研究協力校での実践等をまとめた「報告書」を全小・中学校等に配布
- ・令和4年度から新しいシステムを段階的に運用

### 3 研究協力校における実践研究

#### (1) 小学校（実践研究の詳細は、P 32～43に掲載）

研究内容	①少人数授業の加配教員の持ち時間数を減らして、学級担任の事務や配慮の必要な児童への支援にあたり、担任の負担軽減を図る	②少人数授業の加配教員を専科教員として活用し、学級担任の負担軽減を図るとともに、教科担任の教科数を増やして、より中学校に近いシステムを導入する	③少人数授業の加配教員を学級担任として活用し、一人一人の児童に目が行き届きやすい学級づくりを推進する
研究協力校	豊岡市立弘道小学校 洲本市立鮎原小学校	多可町立中町南小学校 丹波篠山市立城東小学校	宝塚市立中山桜台小学校 佐用町立佐用小学校
取組の成果	○学級担任と加配教員が協力して、支援を要する児童に関わる時間をとることができる。 ○加配教員が副担任のような関係になり、テストの採点や分析を効率的に行うことができる。	○学級担任の空き時間が増えることでゆとりをもって生活指導や個別指導に時間を割くことができる。 ○不登校傾向のある児童が遅れてくる場合に、空き時間で、学級担任が対応することができる。	○配慮の必要な児童に対し、よりきめ細かな対応ができ、クラスは落ちついた。 ○人間関係によるトラブルに学級担任が対応しなければならぬ時間がほぼなくなった。
取組の課題	●5年生は40人の状態であり、机間指導をする空間もない。 ●事務的な負担軽減は図られているが、学級担任の持ち時間としての軽減には至っていない。	●時間割の関係上理科が1時間ずつのため専科教員は準備と片付けに追われている。 ●理科の実験の場合、学級担任であれば柔軟に時間割を変更できるが、専科教員の場合は調整が難しい。	●算数の新学習システム加配教員の配置がなくなったので少人数での授業が実施できない。 ●学級数が増えて3学級（奇数学級）になったので、学級担任による交換授業が難しくなった。
その他	・加配教員が丁寧にノートを点検し、上手にまとめている児童のものをデータ化し学級担任に提供している。 ・多面的な児童理解のため、単学級においても、5年生と6年生の学級担任が交換授業をする効果は高い。	・加配教員が中高美術の免許を取得しているため、図工の専科において専門性を生かした授業ができています。	・英語の加配教員が兼務で、曜日が限定されるので、時間割の調整が難しい。 ・サポートファイルを持つ児童が多く、個別の声掛けができるようになり落ち着いた生活を送ることができた。

(2) 中学校（実践研究の詳細は、P 4 4～5 5に掲載）

内容	少人数授業の加配教員を、学級担任として活用する
研究協力校	<p>宝塚市立高司中学校      多可町立中町中学校      相生市立双葉中学校          新温泉町立夢が丘中学校   丹波市立山南中学校      洲本市立五色中学校</p>
取組の成果	<p>○教室内に机を置く余裕ができ、机間指導ができるようになった。          ○新型コロナウイルス感染症の影響もあり、教室内で給食の配膳ができない状況であったが、今年度は教室内で配膳を行うことができている。          ○理科の実験など安全面できめ細かな指導ができる。          ○一人一人の発言の機会が増え、主体的に授業に臨むことができるようになった。          ○クラスの中で役割が与えられやすくなりリーダーを育てやすくなった。          ○不登校の生徒に対し、きめ細かな指導ができるようになった。          ○年3回生徒のカウンセリングを行っているが、40人で行うのと30人で行うのでは、かかる時間が全く違い業務改善につながっている。          ○配慮が必要な生徒の中には、「今年の学級は落ち着けていい」と話している生徒もいる。</p>
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1クラス増えることで、授業時数が29時間増え、教科担任の負担が増加した。</li> <li>●少人数授業による、きめ細かな指導ができなくなった。</li> <li>●3年生になってから3学級編制にしたため、2学級のコミュニティに慣れてしまった生徒からは一部戸惑いの声があった。</li> <li>●一部の目立ちたくない生徒からは、多人数の方が全体にまぎれてよかったという声があった。</li> <li>●担当教科によって増える時数は違うので、担任業務、部活動の受け持ち等によっては負担がかなり大きくなる教員がいる。</li> <li>●加配で採用する教員の人材が見つからない。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週29時間の授業が増えて各教員の負担が大きくなるが、毎時間の授業のやりやすさや生徒指導面の問題が減ることを考えると1クラスの人数が少ない方がよいという声が非常に多い。</li> <li>・時数が大きく増えた教員の負担を軽減するために、可能な教科を合同で行うなど工夫をしている。</li> <li>・ストレッチャーで介助が必要な生徒が在籍しており、40人であれば教室に入るスペースが無かったが、教室内で授業を受けることができている。</li> <li>・加配の種類については指定されるのではなく各学校で選べる方がよい。</li> <li>・導入する学年についても各学校で事情が違うので学年を選べる方がよい。</li> <li>・担任を希望する教員については、臨時の職員を含めても余裕はない。</li> </ul>

## 4 新学習システムの評価・検証に関する調査結果

### (1) 調査概要

■調査時期	令和3年7月
■調査対象	児童：5,857人（5年：2,844 6年：3,013）
	生徒：4,709人（1年：1,592 2年：1,586 3年：1,531）
	児童保護者：5,326人（5年：2,593 6年：2,733）
	生徒保護者：4,258人（1年：1,480 2年：1,441 3年：1,337）
	小学校教員：199人（5年：99 6年：100）
	中学校教員：149人（1年：49 2年：50 3年：50）
	小学校：575人（全管理職）
	中学校：256人（全管理職）

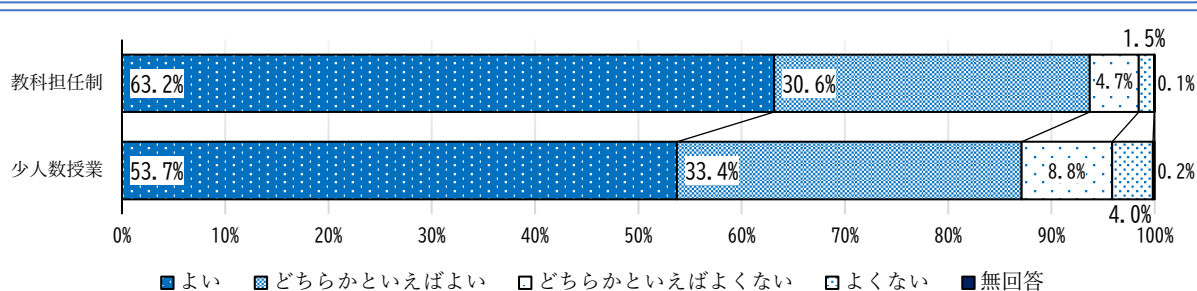
### (2) 結果概要（四捨五入により合計が100%にならないこともある）

#### ① 兵庫型教科担任制について

○児童は加配教員による少人数授業より、学級担任の交換授業による教科担任制の方が評価が高い。

【教科担任制】他のクラスの担任の先生に教えてもらうことをどう思いますか。（児童）

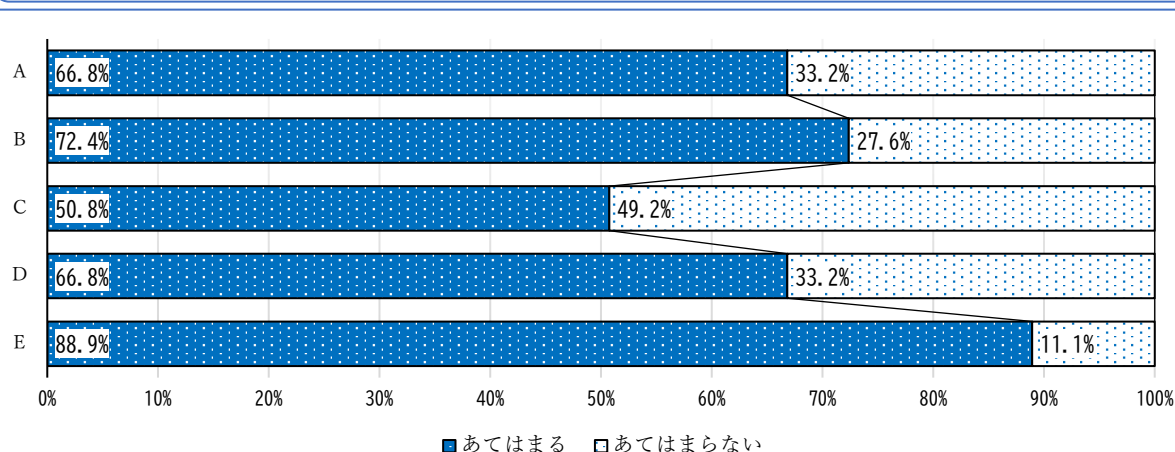
【少人数授業】クラスを2つのグループに分けて少ない人数で勉強したり、1つの教室に2人以上先生がいて勉強したりするなどのかたちで勉強することについて、どう思いますか。（児童）



○教科担任制の実践の中で多面的な児童理解ができていると回答した教員が最も多い。

■教科担任制について、あなたの実践の内容として、あてはまるものをすべて選んでください。（小学校教員）

- A 教員の専門性を発揮して、指導方法を工夫・改善をしている
- B 教材研究を深化させ、児童の興味・関心に応じた教材開発をしている
- C 他学年の学習内容を踏まえた系統的な学習指導ができている
- D 指導する教科数が減ることにより、負担軽減を図ることができている
- E 他のクラスの児童にも積極的に関わることで、多面的な児童理解ができている





## ②小学校における専科指導について

児童・生徒、児童の保護者、学校（教員・管理職）ともに、外国語で専門的な指導が必要だと回答している。児童・生徒、児童の保護者は、算数で専門的な指導が必要だとしているのに対し、学校（教員・管理職）では算数の割合が少なく、音楽や図工で専科教員による指導がふさわしいと回答している。

- 専門の先生に、より詳しく教えてもらいたい教科の順番を上から3つ選んでください。（すでに教えてもらっている教科もふくみます）（児童）
- 小学校の5、6年生の時に、専門の先生に、より詳しく教えてもらいたかった教科の順番を上から3つ選んでください。（実際に教えてもらった教科もふくみます）（生徒）
- 専科教員により詳しく教えてもらいたい教科の順に3つ選んでください。（すでに教えてもらっている教科もふくみます）（児童保護者）
- 専科教員による授業がふさわしいと思う教科の順に3つ選んでください。（小学校（教員・管理職））

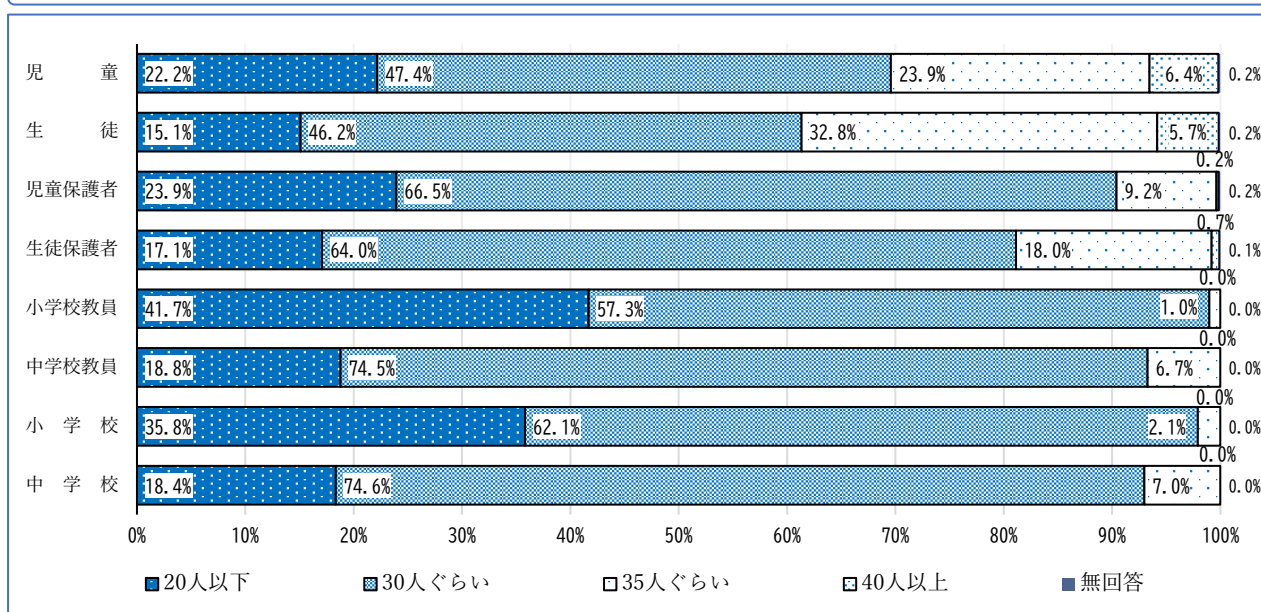
上段：ポイント（第1希望人数×3＋第2希望人数×2＋第3希望人数） 下段：割合（網掛け上位3教科）

	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語
児童	2,424	1,787	3,800	4,918	3,919	3,156	3,319	2,821	4,559	4,362
	6.9%	5.1%	10.8%	14.0%	11.2%	9.0%	9.5%	8.0%	13.0%	12.4%
生徒	2,139	1,114	3,774	4,725	3,393	2,128	1,496	1,094	1,787	6,501
	7.6%	4.0%	13.4%	16.8%	12.1%	7.6%	5.3%	3.9%	6.3%	23.1%
児童保護者	2,896	1,222	810	8,084	2,460	2,981	968	656	1,370	10,406
	9.1%	3.8%	2.5%	25.4%	7.7%	9.4%	3.0%	2.1%	4.3%	32.7%
小学校教員	8	1	16	3	141	474	173	107	23	247
	0.7%	0.1%	1.3%	0.3%	11.8%	39.7%	14.5%	9.0%	1.9%	20.7%
小学校	5	8	5	23	379	1475	471	254	28	802
	0.1%	0.2%	0.1%	0.7%	11.0%	42.8%	13.7%	7.4%	0.8%	23.2%

## ③理想のクラス規模について

児童・生徒、保護者、学校（教員・管理職）すべてで、30人ぐらいが理想のクラス規模と回答している割合が最も多い。

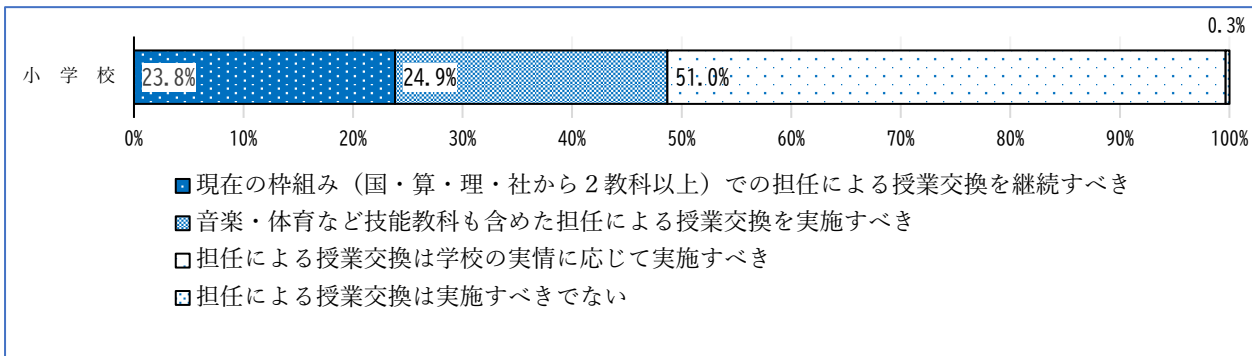
- クラスの人数は、どれくらいが良いと思いますか。あなたの考えに一番近いものを一つ選んでください。（児童・生徒・児童保護者・生徒保護者・小学校（教員・管理職）・中学校（教員・管理職））



#### ④国による教科担任制導入後の教科担任制のあり方について

小学校（管理職）の約5割が「担任の授業交換は学校の実情に応じて実施すべき」と回答しており、「授業交換は実施すべきでない」という意見はほとんどない。

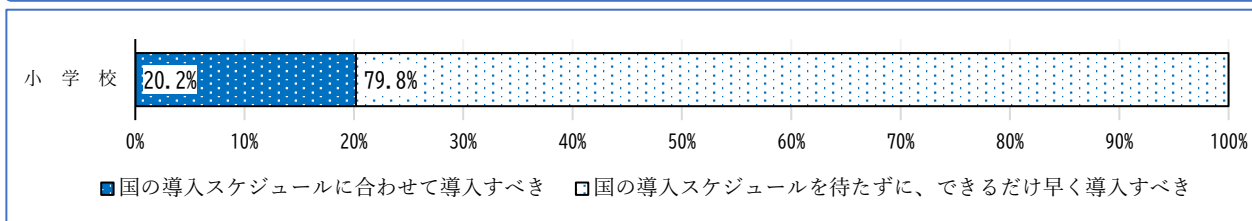
■国による教科担任制導入後の本県における教科担任制のあり方について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。（小学校・管理職）



#### ⑤国による35人学級編制の導入時期について

小学校管理職の約8割が「国の導入スケジュールを待たずに、できるだけ早く導入すべき」と回答している。

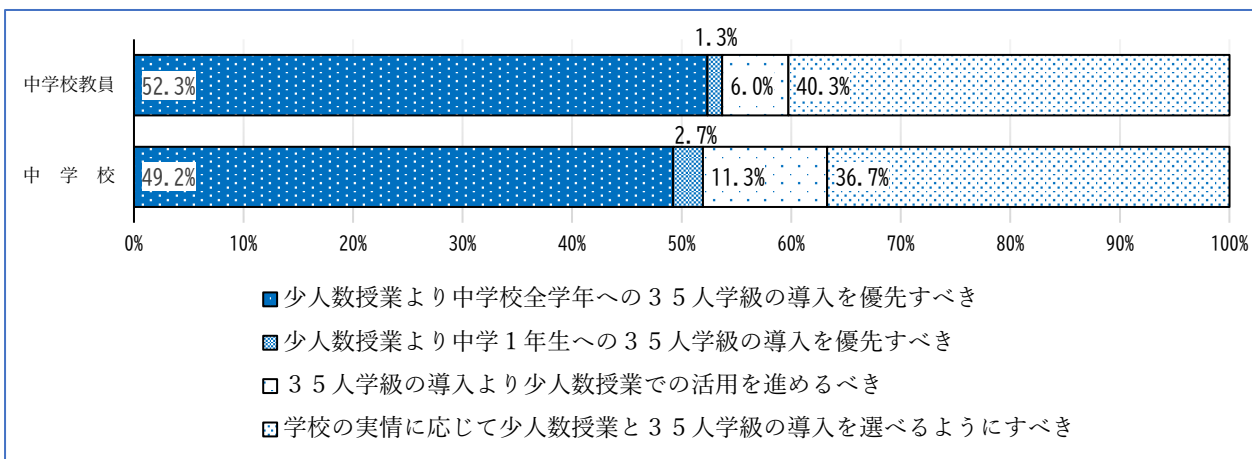
■小学校5、6年生への35人学級編制の導入時期について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。（添付資料を参考に回答願います。）（小学校・管理職）



#### ⑥中学校における加配教員の活用について

中学校教員及び中学校管理職の約5割が「少人数授業より中学校全学年への35人学級を導入すべき」、約4割が「学校の実情に応じて少人数授業と35人学級の導入を選べるようにすべき」と回答している。

■（現在の加配教員の人数が変わらない条件のもと）加配教員の活用方法について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。（中学校（教員・管理職））

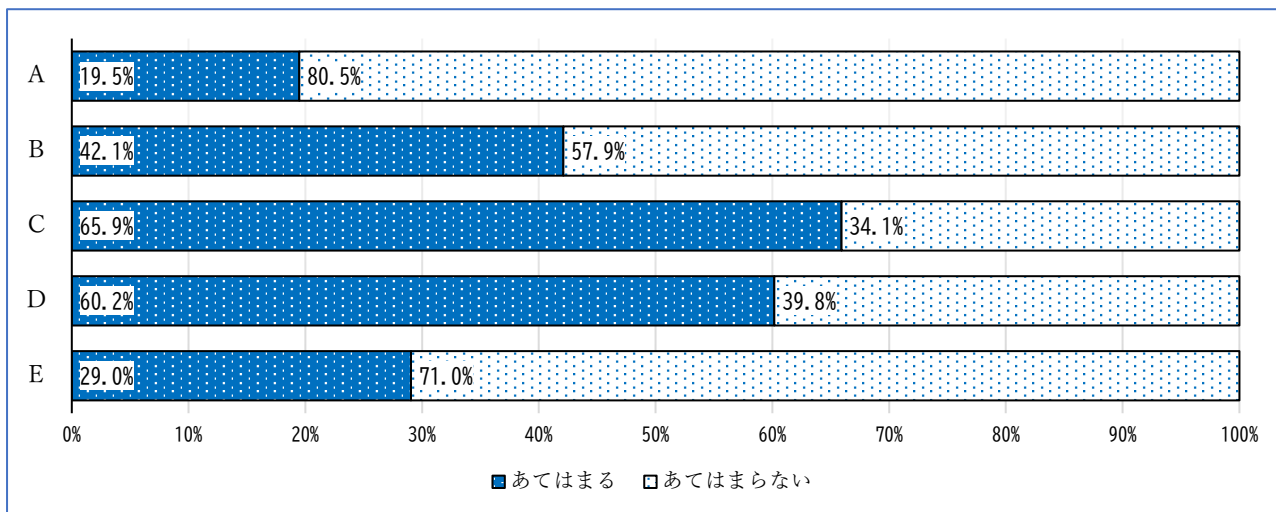


### ⑦学校運営上の課題について（小学校）

小学校管理職の約7割が「3、4年生の児童への学習指導の体制が手薄になる傾向がある」、約6割が「5、6年生の学級担任への業務負担が重くなる傾向がある」ことを課題と回答している。

■ 次の内容について、貴校の課題となっているものをすべて選んでください。（小学校・管理職）

- A 新学習システムの加配教員が見つからない
- B 学年を担当する教員が固定化される傾向にある
- C 3、4年生の児童への学習指導の体制が手薄になる傾向がある
- D 5、6年生の学級担任への業務負担が重くなる傾向にある
- E その他

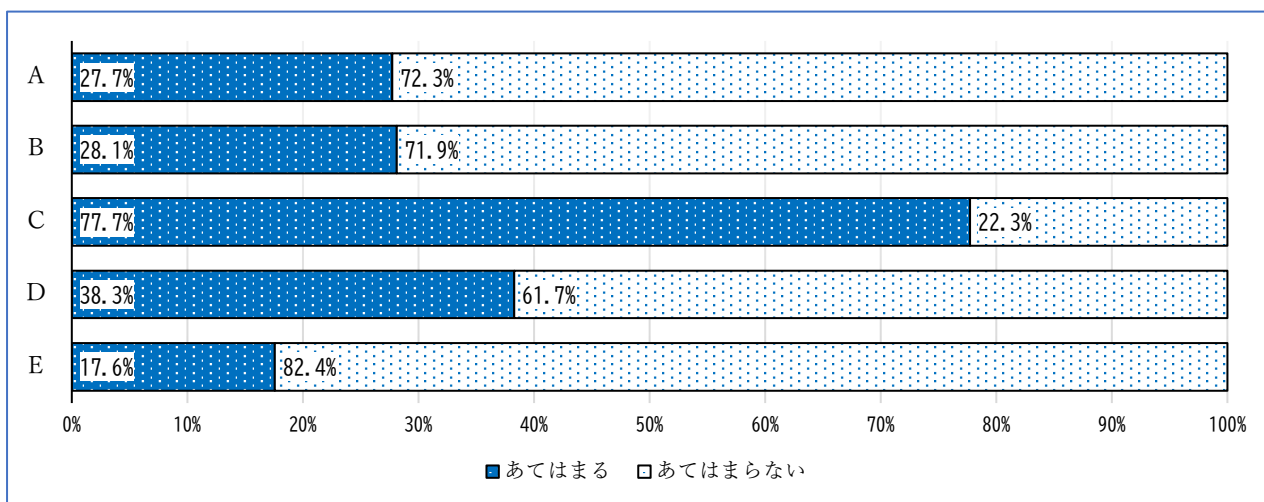


### ⑧学校運営上の課題について（中学校）

中学校管理職の約8割が「新学習システムの担当教員を学級担任にすることができない」ことを課題と回答している。

■ 次の内容について、貴校の課題となっているものをすべて選んでください。（中学校・管理職）

- A 新学習システムの加配教員が見つからない
- B 教職員の教科のバランスの関係で、新学習システムで推進したい内容ができていない
- C 新学習システムの担当教員を学級担任にすることができない
- D 学級担任への業務負担が重くなる傾向にある
- E その他



## 5 新しい学習システムの構築に向けて

研究協力校における取組や新学習システムの評価・検証に関する調査結果を踏まえて、以下の内容で、新しい学習システムの構築に向けて検討を行った。

### 小学校高学年における指導体制

#### ア 教科担任制

兵庫型教科担任制で推進している学級担任の交換授業による教科担任制について、児童生徒、保護者、学校ともに肯定的に受け止めていることから、今後は、学級担任の交換授業と国の加配による専科教員等の指導を組み合わせ、国の優先教科（算数、理科、体育、外国語）を踏まえた教科担任制の枠組みを検討する。

#### イ 35人学級編制

児童、保護者、教員、管理職のいずれにおいても「30人ぐらい」を理想のクラス規模としているが、本県の財政状況等を鑑みると早期に実現するのは困難である。

また小学校5、6年生への35人学級編制の導入時期について約8割の学校が国の導入スケジュールを待たずにできるだけ早く導入すべきと考えているが、早期導入に伴う加配教員の配置基準の変更など学校現場に与える影響を踏まえて検討する。

#### ウ 加配教員の活用のあり方

小学校6年生まで35人学級が導入される令和7年度の加配教員の配置状況を想定し、専科教員を中心とした加配教員の効果的な活用方法について検討する。

### 中学校における指導体制

生徒、保護者、教員、管理職のいずれにおいても「30人ぐらい」を理想のクラス規模としているが、本県の財政状況等を鑑みると早期に実現するのは困難である。

また、約5割の学校が、少人数授業より中学校全学年への35人学級の導入を優先すべきと考えているが、今後、現在配置している新学習システムの加配教員が減らされる可能性もあり、全学年への導入に必要な加配教員確保の見通しが立っていない。そこで、希望する学校については、1つの学年を上限として、加配教員の35人学級編制への活用を認めることを検討する。

### 小・中学校における指導体制

小中一貫校では、中学校教員の専門性を生かし、小学校高学年の教科担任制の充実を図っている取組も見られる。教員の負担に配慮しながら、中学校教員の小学校での活用など、小・中学校が連携した指導体制について検討する。

**新しい学習システムの導入に向けて  
～新学習システムあり方検討委員会 提言～**

**新学習システムあり方検討委員会での協議を踏まえ、新しい学習システムの構築にあたっては、以下の点に留意することが必要である。**

**【共通】**

- 国の加配教員を最大限に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげること。
- 小学校高学年における兵庫型教科担任制など、兵庫県が独自に進めてきた新学習システムの良さを取り入れ、きめ細かな指導の充実を図ること。

**【小学校】**

- 小学校6年生に35人学級編制が導入される令和7年度の指導体制を見据えて、段階的に新しい学習システムを導入し、移行が円滑に進むよう配慮すること。

**【中学校】**

- 学校や生徒の実情に応じて、きめ細かな指導の充実を図ることができるよう、加配教員を学級担任として、新しい学習システムが推進できるようにすること。

**新しい学習システムの運用にあたっては、以下の点に留意することが必要である。**

**【共通】**

- 教職員がそれぞれの強みや専門性を発揮し、相互にかけ合わせることで、教職員集団としての力を最大限に高めていけるよう、学校組織マネジメントの充実を図ること。
- 子どもと向き合う時間、教材研究や授業づくりにかける時間を確保するため、各学校の実情に応じた業務改善に向けた取組を進めること。
- 各学校において、新しい学習システムの趣旨や推進内容を十分に理解したうえで、地域や学校の実情に応じた教育活動を展開すること。

**【小学校】**

- 教科担任による授業の質の向上を図るため、加配教員に研修の機会を確保するなど、授業力向上に向けた取組を進めること。
- 教員の確保が難しい地域における加配教員の配置に向けて、複数校の兼務、中学校教員の活用など、県教育委員会と市町組合教育委員会とが連携して、配置方法を研究すること。

**【中学校】**

- 35人学級編制については、きめ細かな指導ができるなどのメリットと週当たりの授業時数が増えるなどのデメリットを教職員間で十分に共通理解した上で、導入の可否を検討すること。
- 35人学級編制の対象学年については、中1ギャップ解消の視点から中学1年生に固定したり、課題の見られる学年にしたりするなど、学校や生徒の実情に応じた設定が考えられる。学年を固定しない場合は、生徒の混乱を避けるため、持ち上がりで同じ集団に設定することが望ましい。そのため、学年の設定にあたっては、これから2年間の入学者数や子どもの状況を視野に入れて検討すること。

### Ⅲ 兵庫型学習システム

令和3年度新学習システムあり方検討委員会の提言に基づき、すべての子ども達の可能性を引き出す指導の一層の充実を図るため、国の加配措置を最大限に活用し、各学校において「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、児童生徒の心の安定を図り多面的な理解に基づく指導を行う新たな学習システム（「兵庫型学習システム」）を段階的に導入する。

#### 1 具体的な推進内容

##### 小学校・義務教育学校（前期課程）

小学校に教科担任加配を配置し、教科担任加配とこれまで兵庫県が独自に進めてきた ※学級担任の交換授業等 を組み合わせ、国が指定した教科担任制の優先教科（算数、理科、体育、外国語）の指導の充実を図る。

※教科担任は、学級担任間の交換授業の他に、基礎定数で配置された教員等による指導など、地域や学校の実情に応じた推進が可能

##### ①教科担任（算数・理科・体育）

□学習が高度化する小学校高学年において、専門性の高い教科指導を行い、指導体制の充実を図る。

##### ②教科担任（外国語）

□外国語科及び外国語活動の効果的な指導方法について研究するとともに、指導体制の充実を図る。

##### ③複式学級の指導体制

□複式学級のシステム上、指導が困難な学年・教科の学習指導の充実を図り、教育課程の適切な実施を図る。

##### ④少人数授業（令和5年度まで）

□児童の発達段階や学習状況、学習内容に応じて、教員の協力指導（同室複数指導）や、少人数学習集団の編成（少人数指導）により、学習・生活習慣を確立させ、学力の定着や個性の伸長を図る。（小学校5・6年生での活用を基本とする。）

##### ⑤35人学級編制（令和4年度のみ）

□1学級が35人を超える学級集団を分割し、学習指導の充実や基本的な生活習慣の確立を図る。

対象学年 令和4年度の4年生のみ ※令和5年度以降は基礎定数に移行（右頁参照）

中学校・義務教育学校（後期課程）

各学校が数学や英語などの少人数授業と35人学級編制（1学年を上限）を選択できるようにして、学校や生徒の実情に応じたきめ細かな指導の充実を図る。

①少人数授業

学習内容や生徒の学力・学習状況に応じて、学年や学級を効果的な少人数学習集団に編成し、学力の確実な定着や個性の伸長を図る。

②35人学級編制

1学級が35人を超える学級集団を分割し、学習指導の充実や基本的な生活習慣の確立を図る。

③小学校高学年教科担任（算数・理科・体育・外国語）

中学校教員を活用して小学校高学年において専門性が高い教科担任を行い指導体制の充実を図る。

2 兵庫型学習システムの導入スケジュール

	校種	内容	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
国	小学校	35人学級	1年～2年	1年～3年	1年～4年	小1～5年	小1～6年
		教科担任制		5年・6年へ導入			
				← 移行期間 →			
兵庫県	小学校	35人学級編制	3年・4年 (新学習システム)	4年 (兵庫型学習システム)			
		教科担任制		■専科教員    組み合わせ (※) ■学級担任による交換授業			
		加配教員の配置目的	■少人数授業 ■高学年専科指導 ■英語専科指導	<input type="checkbox"/> 高学年専科指導 ⇕ 選択 <input type="checkbox"/> 少人数授業	■高学年専科指導		
	中学校	35人学級	研究協力校における研究	<input type="checkbox"/> 少人数授業 ⇕ 選択 (1学年を上限) <input type="checkbox"/> 35人学級編制			
	小学校専科		中学校教員による小学校専科指導 (算数、理科、体育、外国語)				

※国からの加配教員の配当に応じて、各学校の加配教員の配置基準を見直す。

### 3 兵庫型学習システムにおける教科担任制

国は小学校高学年における教科担任制で、優先的に専科指導の対象とすべき教科について、算数、理科、体育、外国語の4教科を示している。そこで、兵庫型学習システムにおける教科担任制については以下のルールで実施することとする。

※ここでは学級担任による交換授業を実施する場合の例のみ掲載しています。その他の実施例については次々頁以降の教科担当例を参考にしてください。

#### 算数・理科・体育・外国語のうち2教科以上で教科担任を実施

##### ㊤教科担任（算数・理科・体育）加配教員配置校

例) ㊤教科担任加配教員が算数・理科・体育のいずれかを受け持ち、学級担任による交換授業または基礎定数の専科教員が残りの2教科+外国語のうち1教科以上を受け持つことにより教科担任を実施する。

㊤教科担任 (算数・理科・体育) 加配教員配置校	算数・理科・体育・外国語のうち2教科以上で教科担任を実施						
		国	算	理	社	体	外
	6年1組	👤	👤	👤	👤	👤	㊤
6年2組	👤	👤	👤	👤	👤	㊤	👤

##### ㊦教科担任（外国語）加配教員配置校

例) ㊦教科担任加配教員が外国語を受け持ち、学級担任による交換授業または基礎定数の専科教員が算数・理科・体育のうち1教科以上を受け持つことにより教科担任を実施する。

㊦教科担任（外国語） 加配教員配置校	算数・理科・体育・外国語のうち2教科以上で教科担任を実施						
		国	算	理	社	体	外
	6年1組	👤	👤	👤	👤	👤	👤
6年2組	👤	👤	👤	👤	👤	👤	㊦

##### ㊧少人数授業加配教員と㊤教科担任（算数・理科・体育）加配教員配置校

例) ㊤教科担任加配教員が算数・理科・体育のいずれかを受け持ち、学級担任による交換授業または基礎定数の専科教員が残りの2教科+外国語のうち1教科以上を受け持つことにより教科担任を実施する。㊧少人数授業加配教員は学級担任等と少人数授業を行う。

㊧少人数授業加配教員と ㊤教科担任 (算数・理科・体育) 加配教員配置校	算数・理科・体育・外国語のうち2教科以上で教科担任を実施						
		国	算	理	社	体	外
	6年1組	👤	👤㊧	👤	👤	👤	㊤
6年2組	👤	👤㊧	👤	👤	👤	㊤	👤

##### ㊨少人数授業加配教員と㊦教科担任（外国語）加配教員配置校

例) ㊦教科担任加配教員が外国語を受け持ち、学級担任による交換授業または基礎定数の専科教員が算数・理科・体育のうち1教科以上を受け持つことにより教科担任を実施する。㊨少人数授業加配教員は学級担任等と少人数授業を行う。

㊨少人数授業加配教員と ㊦教科担任（外国語） 加配教員配置校	算数・理科・体育・外国語のうち2教科以上で教科担任を実施						
		国	算	理	社	体	外
	6年1組	👤	👤㊧	👤	👤	👤	👤
6年2組	👤	👤㊧	👤	👤	👤	👤	㊦



## 算数・理科・体育・外国語のうち3教科以上で教科担任を実施

### ①教科担任（算数・理科・体育）加配教員と②教科担任（外国語）加配教員配置校

例) ②教科担任加配教員が外国語を受け持ち、①教科担任加配教員が算数・理科・体育のいずれかを受け持ち、学級担任による交換授業または基礎定数の専科教員が残りの2教科のうち1教科以上を受け持つことにより教科担任を実施する。

①教科担任 (算数、理科、体育) 加配教員と ②教科担任 (外国語) 加配教員配置校	算数・理科・体育・外国語のうち3教科以上で教科担任を実施						
		国	算	理	社	体	外
	6年1組	👤	👤	👤	👤	👤	👤
6年2組	👤	👤	👤	👤	👤	👤	👤

## 算数・理科・体育・外国語のうち1教科以上で教科担任を実施

### ③少人数授業加配教員配置校

例) 学級担任による交換授業または基礎定数の専科教員が算数・理科・体育・外国語のうち1教科以上を受け持つことにより教科担任を実施する。③少人数授業加配教員は学級担任等と少人数授業を行う。

③少人数授業 加配教員配置校	算数・理科・体育・外国語のうち1教科以上で教科担任を実施						
		国	算	理	社	体	外
	6年1組	👤	👤③	👤	👤	👤	👤
6年2組	👤	👤③	👤	👤	👤	👤	

## 算数・理科・体育・外国語で教科担任を実施できるよう努める

### ○加配教員の未配置校

算数、理科、体育、外国語で学級担任による交換授業や基礎定数の専科教員等による教科担任制が実施できるよう努める。

## 教科担任加配教員の要件

### ①教科担任（算数・理科・体育）

教科担任を実施する教科の中学校又は高等学校の免許を有する者、若しくは、**小学校の免許状を有し、かつ**教科担任を実施する教科の指導を**3年以上**経験した者

### ②教科担任（外国語）

中学校又は高等学校英語の免許状を有する者、若しくは、**小学校の免許状を有し、かつ** C E F R B 2相当（英検準1級相当）を有すること

## 【記号の見方】

- 1～6…学級担任    A…教科担任（算数・理科・体育）加配教員  
 B…教科担任（外国語）加配教員    D…少人数授業加配教員    基…基礎定数の専科教員  
 高…小学校高学年教科担任（算・理・体・外）加配教員    交換授業

※複数配置されている場合はA1・A2、基1・基2のように表記しています。

※加配教員は常勤と会計年度任用職員の場合が考えられます。

## ①教科担任（算数・理科・体育）配置校（算数・理科・体育・外国語のうち2教科以上で教科担任を実施）

## ①5年・6年それぞれ単学級の場合

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、【残りの2教科＋外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
1	5年1組	1	1	1	1	A	1	基	1	1	2	1	1
	6年1組	2	2	2	2	A	1	基	2	2	2	2	2

①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）

②学級担任による【社会】⇔【体育】の交換授業を行い教科担任。（②体育）

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、【残りの2教科＋外国語のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が受け持つ。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
2	5年1組	1	1	1	1	A	1	1	1	1	基	1	1
	6年1組	2	2	2	2	A	2	2	2	2	基	2	2

①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）

②基礎定数の専科教員が【体育】を受け持ち教科担任。（②体育）

## ②5年・6年それぞれ2学級の場合

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、5年・6年ともに【残りの2教科＋外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
3	5年1組	1	1	1	2	A	1	基1	基2	1	1	1	1
	5年2組	2	1	1	2	A	2	基1	基2	2	2	2	2
	6年1組	3	3	3	4	A	3	基1	基2	3	3	3	3
	6年2組	4	3	3	4	A	4	基1	基2	4	4	4	4

①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）

②5年・6年それぞれ学級担任による【国語（書写）】⇔【算数】の交換授業を行い教科担任。（②算数）

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、5年・6年ともに【残りの2教科＋外国語のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が受け持つ。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
4	5年1組	1	1	1	1	基1	1	基2	1	1	A	1	1
	5年2組	2	2	2	2	基1	2	基2	2	2	A	2	2
	6年1組	3	3	3	3	基1	3	基2	3	3	A	3	3
	6年2組	4	4	4	4	基1	4	基2	4	4	A	4	4

①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【体育】を受け持ち教科担任。（①体育）

②基礎定数の専科教員が【理科】を行い教科担任。（②理科）

### ③ 5年単学級・6年2学級または5年2学級・6年単学級の場合

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のを受け持ちし、5年・6年の3学級で【残りの2教科+外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
5	5年1組	1	1	1	2	A	3	基	1	1	1	1	1
	5年2組	2	1	1	2	A	3	基	2	2	2	2	2
	6年1組	3	1	1	2	A	3	基	3	3	3	3	3

①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）

②5年1組担任が【国語（書写）】、5年2組担任が【算数】、6年1組担任が【社会】をそれぞれ受け持ち【国語（書写）】⇔【算数】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（②算数）

※週当たりの持ち時間数が異なる交換授業も考えられる。（持ち時間数の差は校務分掌等で調整を図る）

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ちし、5年・6年の3学級ともに【残りの2教科+外国語のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が受け持つ。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
6	5年1組	1	1	1	1	基	1	1	1	1	A	1	1
	5年2組	2	2	2	2	基	2	2	2	2	A	2	2
	6年1組	3	3	3	3	基	3	3	3	3	A	3	3

①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【体育】を受け持ち教科担任。（①体育）

②基礎定数の専科教員が【理科】を受け持ち教科担任。（②理科）

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、5年は【残りの2教科+外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行い、6年は基礎定数の専科教員が【残りの2教科+外国語のうち1教科以上（5年と同じ）】を含めて専科指導を行い、6年担任が5年生の授業を受け持つ。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
7	5年1組	1	1	1	1	1	2	基	3	1	A	1	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基	3	2	A	2	2
	6年1組	3	3	3	3	基	3	基	3	3	A	3	3

①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【体育】を受け持ち教科担任。（①体育）

②5年1組担任が5年の【理科】、5年2組担任が5年の【社会】、6年1組担任が5・6年の【図工】、基礎定数の専科教員が6年の【理科】をそれぞれ受け持ち、【理科】⇔【社会】⇔【図工】の交換授業を行い教科担任。（②理科）

### ④ 5年・6年それぞれ3学級の場合

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、5年・6年ともに【残りの2教科+外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【教科担任加配教員が1人】

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
8	5年1組	1	1	1	2	A	3	基1	基2	1	1	1	1
	5年2組	2	1	1	2	A	3	基1	基2	2	2	2	2
	5年3組	3	1	1	2	A	3	基1	基2	3	3	3	3
	6年1組	4	4	4	5	A	6	基1	基2	4	4	4	4
	6年2組	5	4	4	5	A	6	基1	基2	5	5	5	5
	6年3組	6	4	4	5	A	6	基1	基2	6	6	6	6

①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）

②5年・6年ともに1組担任が【国語（書写）】、2組担任が【算数】、3組担任が【社会】をそれぞれ受け持ち【国語（書写）】⇔【算数】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（②算数）

④教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、5年・6年ともに【残りの2教科+外国語のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が受け持つ。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
9	5年1組	1	1	1	1	A	1	基1	1	3	基2	1	1
	5年2組	2	2	2	2	A	2	基1	2	3	基2	2	2
	5年3組	3	3	3	3	A	3	基1	3	3	基2	3	3
	6年1組	4	4	4	4	A	4	基1	4	6	基2	4	4
	6年2組	5	5	5	5	A	5	基1	5	6	基2	5	5
	6年3組	6	6	6	6	A	6	基1	6	6	基2	6	6

- ④教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ④5年・6年ともに基礎定数の専科教員が【体育】を受け持ち教科担任。（②体育）

### ⑤1学年偶数学級（4・6・8学級など）で交換授業を行う場合

④教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、【残りの2教科+外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【学年を2学級ずつ分割】

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
10	5年1組	1	1	1	1	1	2	基1	基2	1	A	1	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基1	基2	2	A	2	2
	5年3組	3	3	3	3	3	4	基1	基2	3	A	3	3
	5年4組	4	4	4	4	3	4	基1	基2	4	A	4	4
	5年5組	5	5	5	5	5	6	基1	基2	5	A	5	5
	5年6組	6	6	6	6	5	6	基1	基2	6	A	6	6

- ④教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【体育】を受け持ち教科担任。（①体育）
- ④2学級単位で学級担任の交換授業を行い、奇数学級担任が【理科】、偶数学級担任が【社会】を受け持ち、【社会】⇔【理科】の交換授業を行い教科担任。（②理科）
- ※同一学年内での交換授業は教科を統一する。

④教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、【残りの2教科+外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【学年を3学級ずつ分割】

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
11	5年1組	1	1	基3	2	A	3	基1	基2	1	1	1	1
	5年2組	2	1	基3	2	A	3	基1	基2	2	2	2	2
	5年3組	3	1	基3	2	A	3	基1	基2	3	3	3	3
	5年4組	4	4	基3	5	A	6	基1	基2	4	4	4	4
	5年5組	5	4	基3	5	A	6	基1	基2	5	5	5	5
	5年6組	6	4	基3	5	A	6	基1	基2	6	6	6	6

- ④教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ④3学級単位で学級担任による交換授業を行い、1・4組学級担任が【国語】、2・5組学級担任が【算数】、3・6組学級担任が【社会】を受け持ち、【国語】⇔【算数】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（②算数）
- ※交換授業を実施する教科は学年で統一する。
- ※④教科担任が複数配置された場合、5・6年両方とも教科担任加配教員による授業を実施する。

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、5年・6年ともに【残りの2教科+外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【教科担任加配教員が2人】

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
12	5年1組	1	1	1	2	A1	1	基1	基2	1	1	1	1
	5年2組	2	1	1	2	A1	2	基1	基2	2	2	2	2
	5年3組	3	3	3	4	A1	3	基1	基2	3	3	3	3
	5年4組	4	3	3	4	A1	4	基1	基2	4	4	4	4
	6年1組	5	5	5	6	A2	5	基1	基2	5	5	5	5
	6年2組	6	5	5	6	A2	6	基1	基2	6	6	6	6
	6年3組	7	7	7	8	A2	7	基1	基2	7	7	7	7
	6年4組	8	7	7	8	A2	8	基1	基2	8	8	8	8

- ①教科担任（算数・理科・体育）加配教員の1人目が5年の【理科】、2人目が6年の【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ②5年・6年ともに奇数学級担任が【国語（書写）】、偶数学級担任が【算数】を受け持ち、【国語（書写）】⇔【算数】の交換授業を行い教科担任。（②算数）
- ※教科担任が複数配置された場合、5・6年両方とも教科担任加配教員による授業を実施する。

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、5年・6年ともに【残りの2教科+外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【教科担任加配教員が2人】

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
13	5年1組	1	1	1	2	A1	1	基1	基2	1	1	1	1
	5年2組	2	1	1	2	A1	2	基1	基2	2	2	2	2
	5年3組	3	3	3	4	A1	3	基1	基2	3	3	3	3
	5年4組	4	3	3	4	A1	4	基1	基2	4	4	4	4
	6年1組	5	5	5	5	5	6	基1	基2	5	A2	5	5
	6年2組	6	6	6	6	5	6	基1	基2	6	A2	6	6
	6年3組	7	7	7	7	7	8	基1	基2	7	A2	7	7
	6年4組	8	8	8	8	7	8	基1	基2	8	A2	8	8

- ①教科担任（算数・理科・体育）加配教員の1人目が5年の【理科】、2人目が6年の【体育】を受け持ち教科担任。（①理科・体育）
- ②5年は奇数学級担任が【国語（書写）】、偶数学級担任が【算数】を受け持ち、【国語（書写）】⇔【算数】の交換授業を行い教科担任。（②算数）
- ③6年は奇数学級担任が【理科】、偶数学級担任が【社会】を受け持ち、【理科】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（②理科）
- ※交換授業を実施する教科は学年によって違ってもよい。
- ※教科担任加配が複数いる場合担当する教科は学年によって違ってもよい。

### ⑥ 1学年奇数学級（5・7学級など）で交換授業を行う場合

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、【残りの2教科+外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【学年を2学級と3学級に分割】

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
14	5年1組	1	1	1	2	A	1	基1	基2	1	1	1	1
	5年2組	2	1	1	2	A	2	基1	基2	2	2	2	2
	5年3組	3	3	3	4	A	5	基1	基2	3	3	3	3
	5年4組	4	3	3	4	A	5	基1	基2	4	4	4	4
	5年5組	5	3	3	4	A	5	基1	基2	5	5	5	5

- ①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ②学年を2学級と3学級に区分して交換授業を行い
  - 1・2組では1組担任が【国語（書写）】、2組担任が【算数】を受け持ち、【国語（書写）】⇔【算数】の交換授業を行い教科担任。（②算数）
  - 3組～5組は3組担任が【国語（書写）】、4組担任が【算数】、5組担任が【社会】を受け持ち、【国語（書写）】⇔【算数】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（②算数）

## ⑥教科担任（外国語）配置校（算数・理科・体育・外国語のうち2教科以上で教科担任を実施）

### ①5年・6年それぞれ単学級の場合

⑥教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、【算数・理科・体育のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
			書	読									
15	5年1組	1	1	1	1	1	2	基	1	1	1	B	1
	6年1組	2	2	2	2	1	2	基	2	2	2	B	2

- ⑥教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）
- 学級担任による【理科】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（②理科）

⑥教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、【算数、理科、体育のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が受け持つ。

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
			書	読									
16	5年1組	1	1	1	1	1	1	1	1	1	基	B	1
	6年1組	2	2	2	2	2	2	2	2	2	基	B	2

- ⑥教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）
- 基礎定数の専科教員が【体育】を受け持ち教科担任。（②体育）

### ②5年・6年それぞれ2学級の場合

⑥教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年ともに【算数・理科・体育のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
			書	読									
17	5年1組	1	1	1	1	1	2	基1	基2	1	1	B	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基1	基2	2	2	B	2
	6年1組	3	3	3	3	3	4	基1	基2	3	3	B	3
	6年2組	4	4	4	4	3	4	基1	基2	4	4	B	4

- ⑥教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）
- 5年・6年それぞれ学級担任による、【理科】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（②理科）

⑥教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年ともに【算数・理科・体育のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が受け持つ。

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
			書	読									
18	5年1組	1	1	1	1	基1	1	基2	1	1	1	B	1
	5年2組	2	2	2	2	基1	2	基2	2	2	2	B	2
	6年1組	3	3	3	3	基1	3	基2	3	3	3	B	3
	6年2組	4	4	4	4	基1	4	基2	4	4	4	B	4

- ⑥教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）
- 基礎定数の専科教員が【理科】を受け持ち教科担任。（②理科）

### ③5年単学級・6年2学級または5年2学級・6年単学級の場合

⑥教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年の3学級で【算数・理科・体育のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
			書	読									
19	5年1組	1	1	1	2	1	3	基	1	1	1	B	1
	5年2組	2	1	1	2	2	3	基	2	2	2	B	2
	6年1組	3	1	1	2	3	3	基	3	3	3	B	3

- ⑥教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）
- 5年1組担任が【国語（書写）】、5年2組担任が【算数】、6年1組担任が【社会】をそれぞれ受け持ち、【国語（書写）】⇔【算数】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（②算数）

⑧教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年の3学級ともに【算数・理科・体育のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が行う。

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
				書									
20	5年1組	1	1	1	1	基	1	1	1	1	1	B	1
	5年2組	2	2	2	2	基	2	2	2	2	2	B	2
	6年1組	3	3	3	3	基	3	3	3	3	3	B	3

⑧教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）

⑧基礎定数の専科教員が【理科】を受け持ち教科担任。（②理科）

⑧教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年は【算数・理科・体育のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行い、6年は基礎定数の専科教員が【算数・理科・体育のうち1教科以上（5年と同じ）】を含めて受け持ち、6年担任が5年生の授業を受け持つ。

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
				書									
21	5年1組	1	1	1	1	1	2	基	3	1	1	B	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基	3	2	2	B	2
	6年1組	3	3	3	3	基	3	基	3	3	3	B	3

⑧教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）

⑧5年1組担任が5年の【理科】、5年2組担任が5年の【社会】、6年1組担任が5・6年の【図工】、基礎定数の専科教員が6年の【理科】を受け持ち、【理科】⇔【社会】⇔【図工】の交換授業を行い教科担任。（②理科）

#### ④5年・6年それぞれ3学級の場合

⑧教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年ともに【算数・理科・体育のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【教科担任加配教員が1人】

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
				書									
22	5年1組	1	1	1	1	1	2	基1	基2	1	3	B	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基1	基2	2	3	B	2
	5年3組	3	3	3	3	1	2	基1	基2	3	3	B	3
	6年1組	4	4	4	4	4	5	基1	基2	4	6	B	4
	6年2組	5	5	5	5	4	5	基1	基2	5	6	B	5
	6年3組	6	6	6	6	4	5	基1	基2	6	6	B	6

⑧教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）

⑧5年・6年ともに1組担任が【理科】、2組担任が【社会】、3組担任が【体育】を受け持ち、【理科】⇔【社会】⇔【体育】の交換授業を行い教科担任。（②理科・③体育）

⑧教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年ともに【算数・理科・体育のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【教科担任加配教員が1人】

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
				書									
23	5年1組	1	1	1	1	1	2	基1	基2	1	3	B	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基1	基2	2	3	B	2
	5年3組	3	3	3	3	1	2	基1	基2	3	3	B	3
	6年1組	4	4	4	5	4	6	基1	基2	6	4	B	4
	6年2組	5	4	4	5	5	6	基1	基2	6	5	B	5
	6年3組	6	4	4	5	6	6	基1	基2	6	6	B	6

⑧教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）

⑧5年は1組担任が【理科】、2組担任が【社会】、3組担任が【体育】を担当し、【理科】⇔【社会】⇔【体育】の交換授業を行い教科担任。（②理科・③体育）

⑧6年は1組担任が【国語（書写）】、2組担任が【算数】、3組担任が【社会】を受け持ち、【国語（書写）】⇔【算数】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（②算数）

※交換授業を実施する教科は学年によって違ってもよい。

⑧教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年ともに【算数・理科・体育のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が行う。

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
				書									
24	5年1組	1	1	1	1	1	1	基1	1	3	基2	B	1
	5年2組	2	2	2	2	2	2	基1	2	3	基2	B	2
	5年3組	3	3	3	3	3	3	基1	3	3	基2	B	3
	6年1組	4	4	4	4	4	4	基1	4	6	基2	B	4
	6年2組	5	5	5	5	5	5	基1	5	6	基2	B	5
	6年3組	6	6	6	6	6	6	基1	6	6	基2	B	6

⑧教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち担当し教科担任。（①外国語）

⑧5年・6年ともに基礎定数の専科教員が【体育】を受け持ち教科担任。（②体育）

### ⑤1学年偶数学級（4・6・8学級など）で交換授業を行う場合

⑧教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、【算数・理科・体育のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【学年を2学級ずつ分割】

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
				書									
25	5年1組	1	1	1	1	1	2	基1	基2	1	1	B	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基1	基2	2	2	B	2
	5年3組	3	3	3	3	3	4	基1	基2	3	3	B	3
	5年4組	4	4	4	4	3	4	基1	基2	4	4	B	4
	5年5組	5	5	5	5	5	6	基1	基2	5	5	B	5
	5年6組	6	6	6	6	5	6	基1	基2	6	6	B	6

⑧教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）

⑧2学級単位で交換授業を行い、奇数学級担任が【理科】、偶数学級担任が【社会】を受け持ち、【社会】⇔【理科】の交換授業を行い教科担任。（②理科）

※学年内での交換授業は教科を統一する。

⑧教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、【算数・理科・体育のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【学年を3学級ずつ分割】

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
				書									
26	5年1組	1	1	1	2	1	3	基1	基2	1	1	B	1
	5年2組	2	1	1	2	2	3	基1	基2	2	2	B	2
	5年3組	3	1	1	2	3	3	基1	基2	3	3	B	3
	5年4組	4	4	4	5	4	6	基1	基2	4	4	B	4
	5年5組	5	4	4	5	5	6	基1	基2	5	5	B	5
	5年6組	6	4	4	5	6	6	基1	基2	6	6	B	6

⑧教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）

⑧3学級単位で交換授業を行い、1・4組学級担任が【国語（書写）】、2・5組学級担任が【算数】、3・6組学級担任が【社会】を受け持ち、【国語（書写）】⇔【算数】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（②算数）



⑧教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年ともに【算数・理科・体育のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【教科担任加配教員が2人】

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
				書									
27	5年1組	1	1	1	1	1	2	基1	基2	1	1	B1	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基1	基2	2	2	B1	2
	5年3組	3	3	3	3	3	4	基1	基2	3	3	B1	3
	5年4組	4	4	4	4	3	4	基1	基2	4	4	B1	4
	6年1組	5	5	5	5	5	6	基1	基2	5	5	B2	5
	6年2組	6	6	6	6	5	6	基1	基2	6	6	B2	6
	6年3組	7	7	7	7	7	8	基1	基2	7	7	B2	7
	6年4組	8	8	8	8	7	8	基1	基2	8	8	B2	8

⑧教科担任（外国語）加配教員の1人目が5年生の【外国語】、2人目が6年生の【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）

⑨5年・6年ともに奇数学級担任が【理科】、偶数学級担任が【社会】を担受け持ち、【理科】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（②理科）

※5年生と6年生をそれぞれ別の教科担任（外国語）加配教員が担当することも可。

### ⑥1学年奇数学級（5・7学級など）で交換授業を行う場合

⑧教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、【算数・理科・体育のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【学年を2学級と3学級に分割】

例	学級	担任	国語		算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
				書									
28	5年1組	1	1	1	1	1	2	基1	基2	1	1	B	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基1	基2	2	2	B	2
	5年3組	3	3	3	3	3	4	基1	基2	3	5	B	3
	5年4組	4	4	4	4	3	4	基1	基2	4	5	B	4
	5年5組	5	5	5	5	3	4	基1	基2	5	5	B	5

⑧教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）

⑨学年を2学級と3学級に区分して交換授業を行い、

→1・2組は1組担任が【理科】、2組担任が【社会】を受け持ち、【社会】⇔【理科】の交換授業を行い教科担任。（②理科）

→3～5組は3組担任が【理科】、4組担任が【社会】、5組担任が【体育】を受け持ち、【理科】⇔【社会】⇔【体育】の交換授業を行い教科担任。（②理科・③体育）

**㊤教科担任（算数・理科・体育）と㊦教科担任（外国語）配置校（算数・理科・体育・外国語のうち3教科以上で教科担任を実施）**

**① 5年・6年それぞれ単学級の場合**

㊤教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、㊦教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、【残りの2教科のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
29	5年1組	1	1	1	1	1	2	基	1	1	A	B	1
	6年1組	2	2	2	2	1	2	基	2	2	A	B	2

- ㊤教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【体育】を受け持ち教科担任。（①体育）
- ㊦教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）
- 学級担任による【理科】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（③理科）

㊤教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、㊦教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、【残りの2教科のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が受け持つ。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
30	5年1組	1	1	1	1	A	1	1	1	1	基	B	1
	6年1組	2	2	2	2	A	2	2	2	2	基	B	2

- ㊤教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ㊦教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）
- 基礎定数の専科教員が【体育】を受け持ち教科担任。（③体育）

**② 5年・6年それぞれ2学級の場合**

㊤教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、㊦教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年ともに【残りの2教科のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
31	5年1組	1	1	1	1	1	2	基1	基2	1	A	B	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基1	基2	2	A	B	2
	6年1組	3	3	3	3	3	4	基1	基2	3	A	B	3
	6年2組	4	4	4	4	3	4	基1	基2	4	A	B	4

- ㊤教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【体育】を受け持ち教科担任。（①体育）
- ㊦教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）
- 5年・6年それぞれ学級担任による【理科】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（③理科）

㊤教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、㊦教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年ともに【残りの2教科のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が受け持つ。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
32	5年1組	1	1	1	1	基1	1	基2	1	1	A	B	1
	5年2組	2	2	2	2	基1	2	基2	2	2	A	B	2
	6年1組	3	3	3	3	基1	3	基2	3	3	A	B	3
	6年2組	4	4	4	4	基1	4	基2	4	4	A	B	4

- ㊤教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【体育】を受け持ち教科担任。（①体育）
- ㊦教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）
- 基礎定数の専科教員が【理科】を受け持ち教科担任。（③理科）

### ③ 5年単学級・6年2学級または5年2学級・6年単学級の場合

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、②教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年の3学級で【残りの2教科のうち1教科以上】を含めて担任による交換授業を行う。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
33	5年1組	1	1	基2	2	A	3	基1	1	1	1	B	1
	5年2組	2	1	基2	2	A	3	基1	2	2	2	B	2
	6年1組	3	1	基2	2	A	3	基1	3	3	3	B	3

- ①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ②教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）
- 5年1組担任が【国語】、5年2組担任が【算数】、6年1組担任が【社会】を受け持ち、【国語】⇔【算数】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（③算数）

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、②教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年の3学級ともに【残りの2教科のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が受け持つ。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
34	5年1組	1	1	1	基	A	1	1	1	1	1	B	1
	5年2組	2	2	2	基	A	2	2	2	2	2	B	2
	6年1組	3	3	3	基	A	3	3	3	3	3	B	3

- ①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ②教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）
- 基礎定数の専科教員が【算数】を受け持ち教科担任。（③算数）

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、②教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年は【残りの2教科のうち1教科以上】を含めて担任による交換授業を行い、6年は基礎定数の専科教員が【残りの2教科のうち1教科以上（5年と同じ）】を含めて専科指導を行い、6年担任が5年生の授業を受け持つ。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
35	5年1組	1	1	1	1	1	2	基	3	1	A	B	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基	3	2	A	B	2
	6年1組	3	3	3	3	基	3	基	3	3	A	B	3

- ①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【体育】を受け持ち教科担任。（①体育）
- ②教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）
- 5年1組担任が5年の【理科】、5年2組担任が5年の【社会】、6年1組担任が5・6年の【図工】、基礎定数の専科教員が6年の【理科】を受け持ち、【理科】⇔【社会】⇔【図工】の交換授業を行い教科担任。（③理科）

### ④ 5年・6年それぞれ3学級の場合

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、②教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年ともに【残りの2教科のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。

【教科担任加配教員が2人】													
例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
36	5年1組	1	1	1	2	A 1	3	基1	基2	1	1	B	1
	5年2組	2	1	1	2	A 1	3	基1	基2	2	2	B	2
	5年3組	3	1	1	2	A 1	3	基1	基2	3	3	B	3
	6年1組	4	4	4	5	A 2	6	基1	基2	4	4	B	4
	6年2組	5	4	4	5	A 2	6	基1	基2	5	5	B	5
	6年3組	6	4	4	5	A 2	6	基1	基2	6	6	B	6

- ①教科担任（算数・理科・体育）加配教員の1人目が5年の【理科】、2人目が6年の【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ②教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）
- 5年・6年ともに1組担任が【国語（書写）】、2組担任が【算数】、3組担任が【社会】を受け持ち、【国語（書写）】⇔【算数】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（③算数）

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、②教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、5年・6年ともに【残りの2教科のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が受け持つ。

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
37	5年1組	1	1	1	1	A	1	基1	1	3	基2	B	1
	5年2組	2	2	2	2	A	2	基1	2	3	基2	B	2
	5年2組	3	3	3	3	A	3	基1	3	3	基2	B	3
	6年1組	4	4	4	4	A	4	基1	4	6	基2	B	4
	6年2組	5	5	5	5	A	5	基1	5	6	基2	B	5
	6年2組	6	6	6	6	A	6	基1	6	6	基2	B	6

- ①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ②教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）
- 5年・6年ともに基礎定数の専科教員が【体育】を受け持ち教科担任。（③体育）

### ⑤ 1学年偶数学級（4・6・8学級など）で交換授業を行う場合

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、②教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、【残りの2教科のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【学年を2学級ずつ分割】

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
38	5年1組	1	1	1	1	1	2	基1	基2	1	A	B	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基1	基2	2	A	B	2
	5年3組	3	3	3	3	3	4	基1	基2	3	A	B	3
	5年4組	4	4	4	4	3	4	基1	基2	4	A	B	4
	5年5組	5	5	5	5	5	6	基1	基2	5	A	B	5
	5年6組	6	6	6	6	5	6	基1	基2	6	A	B	6

- ①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【体育】を受け持ち教科担任。（②体育）
- ②教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）
- 5年は2学級単位で交換授業を行い、奇数学級担任が【理科】、偶数学級担任が【社会】を受け持ち、【社会】⇔【理科】の交換授業を行い教科担任。（③理科）
- ※交換授業を実施する教科は学年で統一する。

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、②教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、【残りの2教科のうち1教科以上】を含めて担任による交換授業を行う。【学年を3学級ずつ分割】

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
39	5年1組	1	1	1	2	A	3	基1	基2	1	1	B	1
	5年2組	2	1	1	2	A	3	基1	基2	2	2	B	2
	5年3組	3	1	1	2	A	3	基1	基2	3	3	B	3
	5年4組	4	4	4	5	A	6	基1	基2	4	4	B	4
	5年5組	5	4	4	5	A	6	基1	基2	5	5	B	5
	5年6組	6	4	4	5	A	6	基1	基2	6	6	B	6

- ①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ②教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）
- 3学級単位で交換授業を行い、1・4組学級担任が【国語（書写）】、2・5組学級担任が【算数】、3・6組学級担任が【社会】を受け持ち、【国語（書写）】⇔【算数】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（③算数）

⑥ 1学年奇数学級（5・7学級など）で交換授業を行う場合

④教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、⑤教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、【残りの2教科のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【学年を2学級と3学級に分割】

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
40	5年1組	1	1	1	2	A	1	基1	基2	1	1	B	1
	5年2組	2	1	1	2	A	2	基1	基2	2	2	B	2
	5年3組	3	3	3	4	A	5	基1	基2	3	3	B	3
	5年4組	4	3	3	4	A	5	基1	基2	4	4	B	4
	5年5組	5	3	3	4	A	5	基1	基2	5	5	B	5

- ④教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ⑤教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）
- ④学年を2学級と3学級に区分して交換授業を行い、
  - 1・2組は1組担任が【国語（書写）】、2組担任が【算数】を受け持ち、【国語（書写）】⇔【算数】の交換授業を行い教科担任。（③算数）
  - 3組～5組は3組担任が【国語（書写）】、4組担任が【算数】、5組担任が【社会】を受け持ち、【国語（書写）】⇔【算数】⇔【社会】の交換授業を行い教科担任。（③算数）

⑤教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、④教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかで教科担任を実施し、【残りの2教科のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行う。【学年を2学級と3学級に分割】

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
41	5年1組	1	1	1	1	1	2	基1	基2	1	A	B	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基1	基2	2	A	B	2
	5年3組	3	3	3	3	3	4	基1	基2	3	A	B	3
	5年4組	4	4	4	4	3	4	基1	5	4	A	B	4
	5年5組	5	5	5	5	基2	5	基1	5	5	A	B	5

- ⑤教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（①外国語）
- ④教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【体育】を受け持ち教科担任。（②体育）
- ④1～4組は2学級単位で交換授業を行い、奇数学級担任が【理科】、偶数学級担任が【社会】を受け持ち、【社会】⇔【理科】の交換授業を行い教科担任。（③理科）
- ④5組担任は4・5組の【図工】、基礎定数の専科教員は【理科】を受け持ち【理科】⇔【図工】の交換授業を行い教科担任。（③理科）

①少人数授業配置校（算数・理科・体育・外国語のうち1教科以上で教科担任を実施）

① 5年・6年それぞれ単学級の場合

【算数・理科・体育・外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行い、少人数授業加配教員はいずれかの教科で少人数授業を行う。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
42	5年1組	1	1	1	1/D	1/D	2	基	1	1	1	1	1
	6年1組	2	2	2	2/D	1/D	2	基	2	2	2	2	2

- ☞学級担任による【社会】⇔【理科】の交換授業を行い教科担任。（①理科）
- ☞少人数授業加配教員は【算数・理科】で少人数授業。

【算数・理科・体育・外国語のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が行い、少人数授業加配教員はいずれかの教科で少人数授業を行う。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
43	5年1組	1	1	1	1/D	基/D	1	1	1	1	1	1	1
	6年1組	2	2	2	2/D	基/D	2	2	2	2	2	2	2

- ☞基礎定数の専科教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ☞少人数授業加配教員は【算数・理科】で少人数授業。

② 5年・6年それぞれ2学級の場合

5年・6年ともに【算数・理科・体育・外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行い、少人数授業加配教員はいずれかの教科で少人数授業を行う。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
44	5年1組	1	1	1	1/D	1	2	基1	基2	1	1	1	1
	5年2組	2	2	2	2/D	1	2	基1	基2	2	2	2	2
	6年1組	3	3	3	3/D	3	4	基1	基2	3	3	3	3
	6年2組	4	4	4	4/D	3	4	基1	基2	4	4	4	4

- ☞5年・6年それぞれ学級担任による【社会】⇔【理科】の交換授業を行い教科担任。（①理科）
- ☞少人数授業加配教員は【算数】で少人数授業。

5年・6年ともに【算数・理科・体育・外国語のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が行い、少人数授業加配教員はいずれかの教科で少人数授業を行う。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
45	5年1組	1	1	1	1/D	基1	1	基2	1	1	1	1	1
	5年2組	2	2	2	2/D	基1	2	基2	2	2	2	2	2
	6年1組	3	3	3	3/D	基1	3	基2	3	3	3	3	3
	6年2組	4	4	4	4/D	基1	4	基2	4	4	4	4	4

- ☞基礎定数の専科教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）
- ☞少人数授業加配教員は【算数】で少人数授業を実施。

5年・6年ともに【算数・理科・体育・外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行い、少人数授業加配教員はいずれかの教科で少人数授業を行う。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
46	5年1組	1	1	1	1/2/D	1/D	2	基1	基2	1	1	1	1
	5年2組	2	2	2	1/2/D	1/D	2	基1	基2	2	2	2	2
	6年1組	3	3	3	3/4/D	3/D	4	基1	基2	3	3	3	3
	6年2組	4	4	4	3/4/D	3/D	4	基1	基2	4	4	4	4

- 5年・6年それぞれ学級担任による【社会】⇔【理科】の交換授業を行い教科担任。(①理科)
- 少人数授業加配教員は【算数】で学年分割による少人数授業、【理科】は学級分割による少人数授業。
- ※【理科】については、学年分割による実施や、週3時間のうち、実験・観察等の2時間の少人数授業の実施も可能

5年・6年ともに【算数・理科・体育・外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行い、少人数授業加配教員はいずれかの教科で少人数授業を行う。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
47	5年1組	1	1	1	1	1/D	2	基1	基2	1	1	1	1
	5年2組	2	2	2	2	1/D	2	基1	基2	2	2	2	2
	6年1組	3	3	3	3/D	3	4	基1	基2	3	3	3	3
	6年2組	4	4	4	4/D	3	4	基1	基2	4	4	4	4

- 5年・6年それぞれ学級担任による【社会】⇔【理科】の交換授業を行い教科担任。(①理科)
- 少人数授業加配教員は、5年生は【理科】で少人数授業、6年生は【算数】で少人数授業。
- ※少人数授業をする教科は学年によって違っていてもよい。

### ③ 5年単学級・6年2学級または5年2学級・6年単学級の場合

5年・6年の3学級で【算数・理科・体育・外国語のうち1教科以上】を含めて学級担任による交換授業を行い、少人数授業加配教員はいずれかの教科で少人数授業を行う。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
48	5年1組	1	1	1	2/D	3	1	基	1	3	1	1	1
	5年2組	2	1	1	2/D	3	2	基	2	3	2	2	2
	6年1組	3	1	1	2/D	3	3	基	3	3	3	3	3

- 5年1組担任が【国語(書写)】、5年2組担任が【算数】、6年1組担任が【理科・家庭】をそれぞれ受け持ち【国語(書写)】⇔【算数】⇔【理科・家庭】の交換授業を行い教科担任。(①理科)
- 少人数授業加配教員は【算数】で少人数授業。

5年・6年の3学級ともに【算数・理科・体育・外国語のうち1教科以上】を基礎定数の専科教員が行い、少人数授業加配教員はいずれかの教科で少人数授業を行う。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
49	5年1組	1	1	1	1/D	基	1	1	1	1	1	1	1
	5年2組	2	2	2	2/D	基	2	2	2	2	2	2	2
	6年1組	3	3	3	3/D	基	3	3	3	3	3	3	3

- 基礎定数の専科教員が【理科】を受け持ち教科担任(①理科)
- 少人数授業加配教員は【算数】で少人数授業。

## 参 考 中学校との兼務を取り入れた例

義務教育学校、併設型小中学校等は中学校の◎小学校高学年教科担任（算・理・体・外）加配教員を活用し次のような教科担任を実施することも可能です。

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、◎小学校高学年教科担任加配教員が【外国語】を受け持つ。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
50	5年1組	1	1	1	1	A	1	基1	基2	1	1	高	1
	5年2組	2	2	2	2	A	2	基1	基2	2	2	高	2
	6年1組	3	3	3	3	A	3	基1	基2	3	3	高	3
	6年2組	4	4	4	4	A	4	基1	基2	4	4	高	4

①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）

◎小学校高学年教科担任（算・理・体・外）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、②教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、◎小学校高学年教科担任加配教員が【残りの2教科のうち1教科】を受け持つ。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
51	5年1組	1	1	1	1	A	1	基1	基2	1	高	B	1
	5年2組	2	2	2	2	A	2	基1	基2	2	高	B	2
	6年1組	3	3	3	3	A	3	基1	基2	3	高	B	3
	6年2組	4	4	4	4	A	4	基1	基2	4	高	B	4

①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）

②教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）

◎小学校高学年教科担任（算・理・体・外）加配教員が【体育】を受け持ち教科担任。（③体育）

①教科担任加配教員が【算数・理科・体育】のいずれかを受け持ち、②教科担任加配教員が【外国語】を受け持ち、◎小学校高学年教科担任が【残りの2教科のうち1教科】を受け持ち、5年・6年ともに【残りの1教科】を含めて学級担任による交換授業を行う。

例	学級	担任	国語	書写	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
52	5年1組	1	1	1	2	A	1	基1	基2	1	高	B	1
	5年2組	2	1	1	2	A	2	基1	基2	2	高	B	2
	6年1組	3	3	3	4	A	3	基1	基2	3	高	B	3
	6年2組	4	3	3	4	A	4	基1	基2	4	高	B	4

①教科担任（算数・理科・体育）加配教員が【理科】を受け持ち教科担任。（①理科）

②教科担任（外国語）加配教員が【外国語】を受け持ち教科担任。（②外国語）

◎小学校高学年教科担任（算・理・体・外）加配教員が【体育】を受け持ち教科担任。（③体育）

5年・6年それぞれ学級担任による【国語（書写）】⇔【算数】の交換授業を行い教科担任。（④算数）



**△ 注 意 △**

下記に挙げる例は本県における教科担任制とはみなされないのでご注意ください。

(1) どちらかの学年が交換授業を行っていない

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
53	5年1組	1	1	1	1	1	2	基	1	1	1	B	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基	2	2	2	B	2
	6年1組	3	3	3	3	3	3	基	3	3	3	B	3

☞ 5年・6年両方の学年が交換授業を行わなければならない。

(2) 1学級だけ交換授業を行っていない

例	学級	担任	国語	書	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
54	5年1組	1	1	1	1	1	2	基1	基2	1	1	B	1
	5年2組	2	2	2	2	1	2	基1	基2	2	2	B	2
	5年3組	3	3	3	3	3	4	基1	基2	3	3	B	3
	5年4組	4	4	4	4	3	4	基1	基2	4	4	B	4
	5年5組	5	5	5	5	5	5	基1	基2	5	5	B	6

☞ 同一学年内ですべてのクラスで実施しなければならない。

## IV 研究協力校の取組

少人数授業に関する加配教員の持ち時間数を減らして、学級担任の事務や配慮の必要な児童への支援にあたり、担任の負担軽減を図る

豊岡市立  
弘道小学校

### 学校の概要

#### 【加配教員DATA】

常勤（持ち時間16時間/週）



月	火	水	木	金
5算	5算	6算	6算	6算
6算	6算	5算	5算	5算
	5理	6理	6理	
	5理		6理	5理

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	1	1	2	2	1	1	2	10
児童数	28	32	38	38	40	30	8	214
教員数	15人（内訳：学級担任 10人、学級担任外で時間割に入っている教員 5人）							

#### 地域及び学校の状況

歴史と伝統ある学校であり、地域には学校を全面的に応援しようとする風土がある。地域力の高い地盤に支えられながら、地域とともにある学校を目指して取り組んでいる。近年の少子化の影響を受け児童数が減少し、5年生はこれまでの2学級から学級減となり、1学級40人という状況である。このような状態が今後2年間続く見込みであり、大変厳しい状況となっている。

特性のある児童や特別な支援を要する児童も多数在籍しており、担任だけで一人一人に応じたきめ細かな指導の質を高めていくには限界がある。今年度は、新学習システム加配教員を効果的に活用しながら個に応じた指導の充実を図っているところである。

### 具体的な実践事例

#### 1 実践のねらい

担任の負担を軽減するために既存の新学習システム加配教員の役割の見直しを図り、担任の事務負担の軽減を図るとともに、配慮を要する児童に個別指導を行うことにより新学習システムの目的である児童一人一人に応じたきめ細かな指導を行う。

#### 2 取組の工夫

##### (1) 担任の負担軽減

授業で使用するワークシートやプリントの作成・印刷や、点検や採点業務等の事務的業務は担任にとって軽減を図りたいものの一つである。そこで、加配教員が担任と連携し、教材研究、ワークシートの作成・印刷、ノート点検や採点業務及び結果の入力作業を行い担任の負担軽減を図る。

また理科の実験や植物の栽培・世話等は担任にとって、とても時間を要する作業である。そこで、加配教員が、必要な実験準備、予備実験、後片付け等を行い、児童に実験の説明をする際は、加配教員が説明する等自身の専門性を活かしながら担任をサポートしたり、植物の栽培・世話を加配教員が責任をもって行ったりすることで担任の教科指導の負担を軽減する。

加えて、加配教員が児童のノートを点検し、児童の学習状況の把握に努めるとともに、授業で活用できそうなノートをデータ化し授業の際に提示できるよう準備する等授業支援を行う。



実験準備と実験の説明をする加配教員

##### (2) 配慮を要する児童への個別的な関わり

40人学級の児童の中には、授業中におけるきめ細かな指導はもちろんのこと、さらなる支援が必要な児童もいるため個に応じた指導や、放課後に補充学習等を行う。また、加配教員が、小テスト等の点検を通して掴んだ児童のつまずきを担任に速やか

に情報提供し、一人一人の個に応じた指導、支援に生かす。

### 3 成果

#### (1) 担任の負担が軽減した

加配教員が事務的な業務や、教科指導のサポートを行うことで、担任は心に余裕をもって児童に関わることができてきた。さらに、学校全体に関わる校務分掌の企画等においても、時間的・精神的にゆとりができ、学校の教育活動全体を見渡しなが準備、計画ができるようになり、学校の教育活動全体の質的向上につながった。

#### (2) 配慮を要する児童への適切な指導ができた

配慮を要する児童に対しては、学校生活の中で時間的に余裕を持たず、関わりたくても関わりきれないケースが多かった。しかし、担任と加配教員が今まで以上に、計画的、協働的に業務を行っていくことで、担任の時間確保と負担軽減につながり、一人一人に応じた適切な指導、支援の質的向上につながった。

### 4 課題

#### (1) 担任と加配教員との打合せ時間の確保

個に応じたきめ細かな指導を行っていくためには、担任と加配教員との綿密な打合せの時間が大切であるが、なかなかもちにくい状況である。

特に高学年の担任は学校全体を動かす活動に関わることが多く、放課後も児童とともに作業することが多いため、すきま時間等を利用し短時間で打合せを行っているのが実態である。

#### (2) さらなるきめ細かな指導

1学級あたりの人数が40人に近い学級がほとんどの本校にとっては、一人一人に応じた適切な指導、支援を図る体制づくりが大きな課題である。

5、6年の児童に対するきめ細かな指導、支援がまだ十分とはいえないため、多くの教員で組織的にサポートし合える指導体制の構築が必要である。

### 5 課題への対応

#### (1) 打合せ日時の設定

担任と加配教員が計画的、定期的な打合せが行えるよう、ノー会議デーを活用し、ノー会議デーに打合せを行えるよう日時を設定するなど、打合せが確実にできる体制を整える。同時に、ICT等を効果的に活用しながら、情報共有の効率化を図り、打合せ時間の短縮にも努める。

また、関係教員等で月、学期ごとに成果と課題を確認し合う場を設け、個に応じた支援の充実に向け、ブラッシュアップを図っていく。そこで話し合われたことを全職員で共有し、指導、支援の質的向上につなげていく。

#### (2) 組織的なサポート体制


配慮の必要な児童への教師の働きかけや関わりによる児童の変容を記録し、検証していく。それに基づいて、保護者に丁寧に情報提供するとともに、児童や保護者の思いや願いに寄り添った指導、支援を行っていく。児童への指導、支援内容及びそれに伴う児童の変容を記録した綴りを全職員で回覧し、指導、支援の質的向上につなげていく。

さらに、校内の支援体制を見直し、全職員が心にゆとりを持ちながら協働的に児童を支援できる体制づくりに取り組んでいく。

洲本市立  
鮎原小学校

学校の概要

【加配教員DATA】  
常勤（持ち時間 17時間/週）



月	火	水	木	金
5算	5算	6理	5理	1算
		5算		1家
6理	5図	6音	5算	
5音	5理	6算	5図	
5理				6理

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7
児童数	18	17	19	23	26	23	3	129
教員数	11人（内訳：学級担任 7人、学級担任外で時間割に入っている教員 4人）							

**地域及び学校の状況**  
大規模宅地開発の影響により、児童の急増（最大児童数346名）と急減の20年間であった。ただし、いまだに約7割の児童が当該の住宅地から通学しており、旧来からの地区住民と子ども達の関係は深まっているとはいえない。ただし、体験活動やオープンスクールなどでは地区住民が多数参画するなど、郷土の小学校を盛り上げようとする意識は非常に強い。

具体的な実践事例

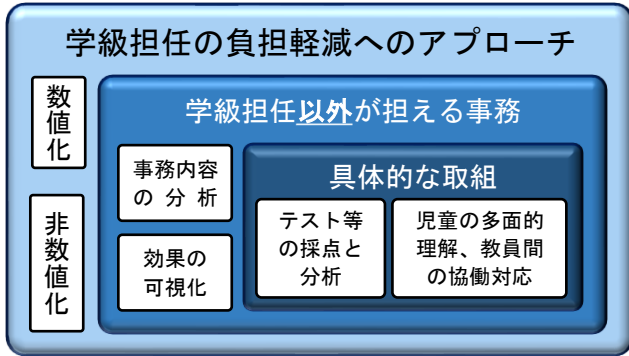
1 実践のねらい

- 学級担任が従来担っている事務のうち、学級担任にしかできない事務と担任外でも分担できる事務の整理を図る。
- 具体的な数値化ができる事務を抽出することにより、年間の軽減できる時間数を求める。
- 通常学級に在籍している発達等に課題が見られる子ども達を多面的に理解し、その理解を基に支援することを視野に入れた対応を行うことにより、学級担任が「抱え込む」などの数値化できない心理的負担を軽減する。

2 取組の工夫

(1) 数値化できる事務の抽出

事務を分担する対象には具体的な効果が数値化できるものとして採点業務とその分析を対象とした。また、その対象教科を当該の新学習担当が前年度まで「がんばり学びタイム」等で指導していた算数と採点ミスが生じにくい社会とした。  
(理科については当該加配教員が教科担当であるため除外)



(2) 非数値化ではあるが担当できる多面的な支援

通級指導を受けている児童や、受けていないものの支援を必要とする児童に対して直接・間接の支援を行う。また、学級担任と情報共有の推進を図ることにより、該当する児童の問題行動などの現出を未然に防止する。さらには、小さな学級集団で年数を重ねてきた児童に、担任以外の中立的立場から児童が話しかけやすい対応をすることにより、心の安定を図る。

3 成果

(1) 授業時数以外の軽減効果を数値化

算数と社会の採点関連業務を担当することにより、担任の事務負担軽減を数値化することができた。当初は予定していなかった、得点入力作業、解答の分析などを含め

ることにより、表のような結果となっている。軽減された時間を2名の学級担任は、教材研究や児童理解、その他の事務に充当することができた。

表 担任の事務負担軽減（令和3年10月末時点）

学 年	5 年 生		6 年 生	
教 科	社 会	算 数	社 会	算 数
教科別 小 計	3回×75分 = 225分	6回×75分 = 450分	4回×75分 = 300分	6回×75分 = 450分
合 計	675分（11時間15分）		750分（12時間30分）	

※単元あたりの採点業務に60分、入力作業に15分、計75分として算出

## (2) 支援を必要とする児童への細かな対応

該当学級は単学級かつ30人未満の人間関係が固定化している。さらには支援を必要とする児童が漸増という状況にある。担任の視点からだけではなく、多面的に児童を捉え、教職員間で共有することにより、児童個別の困り感を早期に発見し、課題の未然防止に取り組むことにより、学級担任の抱え込みによる心理的な負担感を大きく軽減することができた。

## (3) 日常における児童への細かな対応

学級担任以外の中立的な立場であることから、児童の心の安定を図ることができた。また、授業時数が少ないことから児童及び児童間の突発的なことに対応することが容易となり、早期の対応により問題が大きくなることを防ぐことができた。

## 4 課題

### (1) 新たな視点の構築

新学習システムの目的は学力向上であるが、近年は教員の授業時数の負担を軽減するという側面もあり、そのことが意識内在化されている。特に小学校においては、学習指導要領改訂毎に総授業時数が拡大されるなど、週あたりの授業時数が拡大する中勤務時間内での、教材研究は困難を極めている。

こうした実態を踏まえ様々な視点から業務に対する新たな視点を構築してきたが、教職員の新学習システムに対する意識変容には至っていない。

### (2) 学級担任の役割意識と保護者の思い

学級担任が児童の情報等を網羅的に掌握し、対応するという旧来の意識が固着化している。他方、保護者にとっては、専門的な知識を有する教員が教科担任制となることを積極的に受け入れる意向が強いとの報道がある。こうしたことを踏まえ、研究協力校として学級担任の役割意識を再構築する必要性を強く感じた。

## 5 課題への対応

### (1) 新たな視点への対応

効率的に業務を遂行するために学級担任の担っている業務を改めて確認するとともに、業務の厳選と学級担任以外の者への業務移管の促進を図る。併せて、児童の健全な成長を支えるために、学校教育が担うべき役割と家庭が担うべき役割の明確化、さらには保護者や地域住民に新学習システムの趣旨や教職員の勤務の実態について、理解を求める必要がある。

### (2) 学級担任の役割意識と保護者の思いへの対応

新学習システムについて広報するとともに、多面的な児童理解の必要性を説く。

加配教員を専科教員として活用し、教科担任の教科数をさらに増やして、より中学校に近いシステムを導入する

多可町立  
中町南小学校

学校の概要

【加配教員DATA】		月	火	水	木	金
常勤（持ち時間 21時間/週）			42理	31理	62理	
理科専科			41理	51理	61理	
		52理	61理	61理	42理	51理
		51理	62理	52理	41理	52理
		31理	31理	62理		42理
						41理

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	1	2	1	2	2	2	4	14
児童数	35	40	32	47	44	40	17	255
教員数	18人（内訳：学級担任 14人、学級担任外で時間割に入っている教員 4人）							

**地域及び学校の状況**  
 全児童数は255人で、少子化により20年前の児童数の約半分となっている。近年は、定数40人前後のクラスが多くなり、担任の教材研究等への負担が多くなっている。また、特別に支援を要する児童が増加傾向にあり、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等、担任の業務が増えている。

具体的な実践事例

1 実践のねらい

- 教科担任の教科数を増やすことにより児童の学力向上に努めるとともに各学級担任の教材研究等の負担軽減につなげる。
- 複数の教員が連携して児童の成長や発達を見守り指導する。

2 取組の工夫

(1) 中学校に近い専科教員配置

高学年専科教員として、算数、理科、英語、音楽、家庭科を配置する。算数、理科、音楽、家庭科の授業においては、教材の準備を適切に行い、専門性を生かした指導を行う。英語の授業は、ALTとの打ち合わせが必要であり、教材の準備と合わせて事前の連携を密にして指導を行う。社会と体育は、それぞれ専門性が高いクラス担任が交換授業を行い、教科担任制として指導を行う。

(2) 学級担任と連携した同室複数指導及び少人数授業

算数では、専科教員が主導で授業を進めながら基礎・基本の学力が十分でない児童に対して、学級担任が支援にまわり同室複数で指導を行う。また、必要に応じて専科と学級担任による2つに分けた少人数指導を取り入れながらきめ細かな指導を行う。

(3) 複数の教員による生徒指導

教科担任制により、複数の教員が児童に関わるため、生徒指導担当やいじめ対策担当の下、校務支援システムによる生徒指導台帳や個人カルテの活用を通して児童のトラブル等の早期発見、早期対応について共通理解を図りながら生徒指導に取り組む。

3 成果

(1) 専科教員による学級担任の負担軽減

専科教員の配置により、実験や実習等が多い教科では、専門性を生かして学習内容を系統立てて指導ができています。そして、実験や実習の準備等について、学級担任が行わなくてもよいため、担任の負担軽減につながっている。また、担任の交換授業は、教材研究が1教科に絞られることにより、担任による教材研究の負担も少なくなっている。

## (2) 児童の学習意欲の向上

アンケート調査の結果より、5年生では95.8%、6年生では100%の児童が担任以外の先生に教えてもらうことを望んでいる。また専科教員を複数配置したことにより、5年生で91.6%、6年生で90.4%の児童が担任外の先生に教えてもらってよく分かる授業が増えたと回答した。専科教員による専門性の高い指導により児童の学習意欲の向上につながっている。

## (3) 多面的な生徒指導

専科教員が授業中以外にも学級担任と連携しながら、支援を要する児童や生徒指導上に課題がある児童に対して関わることにより、多面的な生徒指導や組織的な取組ができ担任の負担軽減につながっている。特に、個人の情報については校務支援システムを活用して情報共有を図っている。

## 4 課題

### (1) 個に応じた指導が不十分

専科教員による専門性の高い指導により学習意欲は向上しているが、個の理解度や学力に差がある場合、少人数授業とは違い専科教員のみだと児童一人一人が求めるきめ細かな学習支援が十分にできない。

### (2) 時間割の調整が難しい

小学校の場合、学級担任が柔軟に教科の時間割を調整することができるが、専科教員は複数の学年・学級を担当しているため、単元によっては経過観察などをする場合、時間割の調整が難しいことがある。また、毎時間の準備片付け等に非常に時間がかかることが課題である。

## 5 課題への対応

### (1) 個に応じた指導の充実

個に応じた学習ができるようICT機器を効果的に活用したり、家庭と連携して児童のつまづきを明確にした指導を行ったりして、一人一人が自信を持って学習に取り組めるようにする。また、支援を要する児童や生徒指導上に課題がある児童についての情報は、校務支援システムを活用して共有する。

また、学級担任と専科教員が短時間で、計画的・定期的に打ち合わせを行い、授業の内容や時間割調整、児童の様子等を話し合うことで、児童一人一人の実態に応じた指導につなげていく。また、特別な支援が必要な児童に対するきめ細かな指導についても、情報共有を進めていく。

### (2) 時間割の調整方法

単元によって経過観察をする授業の場合、学級担任と連携を図りながら事前に教材等を与え、観察ができるように指導している。また、日によって2時間続きの時間割を計画し進めていく。天候等により、時間割がどうしても計画できない場合は、デジタル教科書を使用し、動画を活用して授業を補っていく。

また、教務が校務支援システムで予定時数を把握し、行事等を鑑み、学級担任と調整していく。

加配教員を専科教員として活用し、教科担任の教科数をさらに増やして、より中学校に近いシステムを導入する

丹波篠山市立  
城東小学校

学校の概要

<b>【加配教員DATA】</b> 常勤（持ち時間 2 1 時間／週） 理科・図工・家庭専科	月	火	水	木	金
					5 図
	3 理	5 理	4 理	3 理	5 図
	5 理	6 図	6 家	5 家	4 図
	5 理	6 図	6 家	5 家	4 図
	6 理	4 理		6 理	

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	合 計
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7
児童数	1 6	1 5	1 6	2 1	1 5	2 8	3	1 1 4
教員数	1 3 人（内訳：学級担任 7 人、学級担任外で時間割に入っている教員 6 人）							

**地域及び学校の状況**  
 丹波篠山市の東部に位置し、児童数は 1 1 4 名、学級数は特別支援学級を含む 7 学級を有する。平成 2 2 年 4 月 1 日に 3 校（日置小学校、後川小学校、雲部小学校）が統合した統合校である。令和 2 年度には、統合 1 0 周年を迎え、記念行事を学校運営協議会が中心となり実施したところである。地域特産物の黒大豆を活用した学習を深めている。また、保護者や地域、隣接する給食センターと連携した食育を推進している。平成 2 6 年度からコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を設置し、地域と一体になって子どもたちを育む地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。

具体的な実践事例

1 実践のねらい

- より中学校に近いシステムを導入することで、担任の負担軽減につなげる。
- 空き時間を担任と児童と向き合う時間に充てることで、授業改善や生徒指導体制の構築を図る。

2 取組の工夫

(1) 校内の指導体制の構築

小学校高学年における専科指導の推進加配教員（以下、加配教員）の配置により、定数内を含む 2 名の専科教員を効果的に活用できる校内の指導体制の工夫を行う。まず、加配教員の教科を決定するにあたり、授業の準備や教材研究の負担が大きい理科、図工科、家庭科を選定。理科について、特に高学年は実験が多く、休み時間や放課後も含めて、予備実験や実験準備、片付け等に多くの時間を費やしている状況にある。図工科や家庭科においても同様であり、担任だけでは負担の大きい教科である。そこで、その 3 教科を専科教員の担当教科とし、担任の負担軽減を図る。

次に、定数内の専科教員は、高学年の外国語科を担当する。外国語科は、週 2 時間ではあるが、本校では A L T や J T E が交互に指導するため、それぞれに連絡調整や打合せを行い、授業の準備等をする必要がある。高学年担任にとっては負担の大きい教科であるため、専科教員が担当することにより、負担軽減を図る。また、専科教員が、生徒指導の担当をすることで、児童のトラブルなど指導が必要な場合には早期対応し、いじめの未然防止等早期に指導や支援ができる体制の構築を図る。

(2) 教員の専門性を生かした指導体制

5 年生担任は現在体育科の教科等指導員であり、6 年生の担任は、過去に音楽科で教科等指導員の経験がある。その専門性を生かして、5 年生担任が 5 ・ 6 年の体育、6 年生担任が 5 ・ 6 年の音楽を担当し、より中学校に近いシステムをめざした教科担



任制をとる。また、理科や図工、家庭科を担当する加配教員においては、中高美術科免許を取得しており、それぞれの教員の専門性を生かした指導体制をとる。

### 3 成果

#### (1) 児童と向き合う時間確保により不登校の解消

6年生には、昨年度不登校の児童や不登校傾向の日本語指導の必要な児童が在籍していたが、現在、不登校が解消している。解消した理由は様々あると考えられるが、担任の空き時間が増えたことで、課題のある児童に対し、個々の課題に応じた丁寧な対応に時間を充てられたことが、不登校解消の理由の一つとして挙げられる。例えば、遅れて登校することが多かった児童に対して、登校する時間帯に担任が出迎えることができた。また、ケース会議等を適宜実施することで、担任から対象の児童の情報を全教職員で共有することができた。ケース会議において、不登校の時期の学習内容が十分理解できていないことが学校への行きづらさの要因の一つであることが分かり、学習への不安を解消できるよう、休み時間等には担任が関わり、放課後にはがんばり学びタイムを活用するなど、学習保障を行うことができた。このように、多面的な生徒指導や組織的・協力的な指導体制の充実が図れた。

#### (2) 学習を通じた児童とのつながり

高学年の担任は、空き時間を活用し、一人一人の学習の感想ノートやふり返りに対して、今まで以上に丁寧にコメントを返すことができるなど、個に対する対応がしやすくなったと実感している。体育科を担当している教員は、体育の授業後のふり返りを通して、児童の学習の様子から、オリジナルの教具の開発を行うことができた。授業における習熟度やつまづきを把握することにより、専門性を活かすだけでなく授業改善にもつながっている。

### 4 課題

#### 時間割の調整が難しい

柔軟な教育課程の編成が課題である。小学校では、学級担任の裁量で柔軟に時間割を組み替えやすいが、専科教員が複数の学年や教科を担当していることから、調整が難しいことが課題である。例えば、理科の学習で、道管の吸水実験なら、朝の時間に実験を開始して、午後にその結果を観察するといった柔軟に時間割を調整することが難しい。

### 5 課題への対応

#### 時間割調整の工夫

年間を通じた計画的な教育課程の編成が必要である。そのため、教員が教科の特性を理解して、カリキュラムマネジメントを行う。その上で、学期ごとに見直しを行い、担任と専科教員が協議しながら、よりよい教育課程編成に努めていく。

宝塚市立  
中山桜台小学校

学校の概要

**【加配教員DATA】**  
 常勤（持ち時時間 2 2 時間／週）  
 担任：5年2組  
 ※太字は専科



月	火	水	木	金
算	家	算	体	図
総	家	体	外	図
音	理	社	ト	理
国	道	音	算	理
社	算	国	社	国
体	総	外		特

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	合 計
学級数	2	3	3	3	3	2	4	20
児童数	66	84	77	72	76	67	17	459
教員数	22人（内訳：学級担任 20人、学級担任外で時間割に入っている教員 2人）							

**地域及び学校の状況**  
 山間に開発された住宅地の中の小学校として45年前に開校した。その後、在校生の増加から、近くに中山五月台小学校が開校した。40年以上経って中山五月台小学校の人数が全校生100人程度と減少したため、令和4年度4月に統合し、新たに「中山台小学校」として中山桜台小学校の校舎を使用して開校する。昨年度まで3クラス編制であった5年生が今年度2クラスになった場合、人間関係によりクラス分けをしていた部分ができなくなり、学級運営に大きく影響が出ることが予想される。

具体的な実践事例

1 実践のねらい

- 人間関係で配慮が必要な児童を分散させ落ち着いた学級編制を行う。
- 行事の運営等をより多くの担任で分担し業務改善・負担軽減を図る。
- 交換授業や小中連携を活用し、より多くの人とのつながりをつくる。

2 取組の工夫

(1) 人間関係を考慮した学級編制

従来は4年生から5年生になる時に1学級減となり、人数が増える中で児童の人間関係を考慮して学級編制を行うことが難しかった。統合の前年度として、新しい学校で最高学年となる5年生を3学級にし、人間関係を考慮したクラス分けを行う。

(2) 担任業務の分担

5年生では自然学校等で新型コロナウイルス感染症拡大防止等により計画変更あり業務が増えることが予想されたため、担任3人で業務を分担し業務改善にもつなげる。また、本校は次年度に隣の小学校との統合を控えており、2校での交流学习も実施を予定しているが担任が1名増えることで各自の仕事を分担し、余裕を持って取り組み、スムーズに運営することができる。

(3) より多くの人とのつながり

子ども達が担任だけでなく多くの人と関わる機会を多くしていきたいと考え、道徳の授業については、他の学級の担任と一緒に学ぶことができるよう学級担任が教材を分担してローテーションで授業を行う。また、中学校教員が小学校で授業を行う機会を設け小中連携を進める。

3 成果

(1) 学級経営

少人数の学級となり、人間関係を考慮してクラス分けを行うことができたため、どの学級も落ち着いて学校生活を送っている。また、少人数で教員もきめ細かに児童に対応することができた。

## (2) 担任の業務改善

新型コロナウイルス拡大のため、自然学校や、統合に向けた交流事業の計画の変更を余儀なくされることが多かったが、教員が1名増えたことで、それぞれが役割分担を行って業務に取り組み、業務改善につながった。

## (3) 多角的なアプローチ

道徳でもローテーション授業を行う中で、学年の児童をどの担任も知ることができ、生活指導事案の際にも聞き取りや連携をスムーズに行うことができた。また、中学校の教員から授業を受けることで、中学校進学を楽しみにして学習する姿が見られた。

## 4 課題

### (1) 算数におけるきめ細かな指導

前年度まで高学年は、算数の授業を新学習システムの少人数授業としてハーフで行い、少人数できめ細かに学習指導に取り組むことができた。本年度、5年生を3学級にさせていただいたことで、少人数指導はできなくなった。昨年度までは、新学習システム担当教員が、高学年算数についての学習計画、教材作成、宿題プリントの作成や答え合わせなど、多くの役割を担っていたが、今年度は配置がないため、それらをすべて担任が行うことになった。

### (2) 緊急時の対応

本年度の新学習システムの配置は、学級担任のみとなっていて、外国語専科も週に2日、10時間の配置のため、授業に入っている。急に対応しなければならない事案があっても、対応することができるのは校長と教頭の2人だけである。コロナ禍で特別休暇を取得した教員のクラスへの対応、児童の欠席連絡への対応、問い合わせへの対応、不登校児童の別室対応、落ち着かなくて教室に入れなくなった児童への対応などについて、少しでも共に動くことのできる教員がいないのは大変厳しい状態である。

### (3) 時間割編成

外国語専科の来校曜日がALTとの関係から固定され、その決定も遅くなることから教科担任制を取り入れた時間割の構成が大変難しかった。

## 5 課題への対応

### (1) ICTの活用

新学習システム担当教員が行っていた教材作成などの代わりに、本年度から配布されたタブレットを活用しドリル学習などを取り入れたり、デジタル教科書の活用で学習準備等の効率化を図ったりしてきた。

### (2) 外部人材の活用

スクールサポーターや、市の制度である「学びのパートナー」等の人材発掘、大学のインターンシップの受け入れなどを積極的に行いながら、必要な児童のサポート体制の充実に努めた。

### (3) 時間割編成への対応

年間を通しての時間割作成は不可能であった。3学級の5年生では兵庫型教科担任制を行うための特別時間割を組んで対応した。

佐用町立  
佐用小学校

学校の概要

【加配教員DATA】  
 常勤（持ち時間 2.5 時間／週）  
 担任：5年2組  
 ※太字は専科



月	火	水	木	金
算	算	算	国	音
道	国	国	社	体
国	社	社	音	国
体	社	社	家	外
総	体	学	算	社
総	図	ク委	外	算

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	合 計
学級数	2	2	2	2	2	1	2	13
児童数	39	42	36	56	39	36	6	254
教員数	21人（内訳：学級担任 13人、学級担任外で時間割に入っている教員 8人）							

**地域及び学校の状況**  
 平成26年度および令和2年度に学校統合を行い、115km<sup>2</sup>の広大な校区となり、徒歩および6路線のバスで254名の児童が登校している。令和2年度の統合の際には、コロナ禍にあって、新しい環境に十分馴染めない状況の中で学校統合となったため、児童はもちろん、保護者にとっても参観日等の来校機会が制限されるなかで、雰囲気や様子がよくわかる学校には成り得ていない。サポートファイルを持つ児童が35名、教室に入りにくい児童4名、起立性調節障害1名等、人数の割に課題を抱える児童が多い。そのため個に応じた指導を充実させる必要がある。

具体的な実践事例

1 実践のねらい

児童にとって落ち着いた学習環境をつくることで、教師が児童一人一人を適切に見とり、適切に支援しながら学級経営を行う。

2 取組の工夫

(1) 人間関係を考慮した学級編制

大人数にあっては、互いに過度に刺激しあう人間関係や騒がしい雰囲気を引き起こす児童等によりトラブルになりがちであるため、人間関係を考慮した学級編制を行う。刺激し合う度合いを減らしながら、体育・総合的な学習の時間の授業を合同で行ったり、自然学校において学級の枠を外して班編成を行ったりして、幅広い人間関係の構築の機会をつくる。

(2) 児童一人一人を適切に見取る

1学級の人数が減ることにより、学習内容の理解や定着など個々の学びをより丁寧に見取ることが可能になるため、児童の実態に合わせて学習形態や学習方法等を工夫しながら、児童に寄り添った授業づくりを行う。また担任を中心に、児童のサインや変化に早期に気づき、対応を行うことで、問題行動の発生を未然に防ぐ。

3 成果

(1) 落ち着いた学級経営ができるようになった

配慮が必要な児童が増えている中で、人間関係を考慮した学級編制に加え1学級あたりの人数が減り、教員が増えることは、学級経営の安定につながり学校の組織的な対応にもつながっている。

(2) 個別の関わりがしやすくなりよりきめ細かに対応できるようになった

児童にとって発言する機会が増えるとともに、周りから認められる機会が増えたことで、自己肯定感の高まりが見られる。また教師にとって、個別の関わりがしやすくなり、特にグループワークにおいては、効果的な見取りが行いやすくなり、児童への

支援やアドバイスを適切に行うことができている。さらに、振り返りや個々の到達度チェック等より丁寧に細かく学習評価を行うことができ、指導と評価の一体化の推進につながっている。

また、日常的な見取り、関わり、面談等から、トラブルや問題行動につながる芽をいち早く発見し、早期に解決し、新たなスタートを支援する体制ができつつある。こうした取り組みが、児童の人間関係にもよい影響をもたらし、心の安定につながっていると考えられる。

### (3) 勤務時間の適正化と教員の実践的指導力の向上

単学級で1クラスあたりの児童数が増えると、当然のことながら勤務時間は長くなる傾向にある。2クラスにすることで学校行事や授業準備、学年事務の分担ができ、教員の負担軽減に一定の効果があった。また2クラスであることで学年部において学級経営や指導方法の工夫などOJTの推進により教員の実践的指導力が向上した。

## 4 課題

### (1) 小規模校での時間割編成の難しさ

単学級が混じる小規模校（5年生2クラス・6年生1クラス）における兵庫型教科担任制の実施は困難である。本加配では、担任間の授業交換による「教科担任制」が求められるが、時間割の調整が難しく、教員の負担軽減につながりにくい。

### (2) 継続的な支援の必要性

統合により新しい環境になじめない多くの児童にとって、本加配による少人数学級編成は大変効果があった。しかしながら、それは短期間で解消できるものではなく、またコロナ禍であることを踏まえると、今後も継続して支援していく必要がある。

## 5 課題への対応

### (1) 佐用型連携教育による中学校への円滑な接続

中学校教員による小学校乗り入れ授業(教科担任)、中学生による6年生への「創自」(掃除)指導、中学校教員による小学校訪問(児童理解)などを行い、兵庫型教科担任制の目的を補う。

### (2) 統合による魅力ある学校づくり

少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育の推進が求められ、今後も学校統合は進むと予測される。統合による成果を保護者も地域住民も求めているが、ぎりぎり複数学級になる学校では、変化が落ち着く前に学級減が進んでいく。新学習システムでは、中学校での教科担任制への円滑な移行と学力向上の観点の主眼であったが新しい視点として本加配などで、少なくとも統合後の3年間は、全学年35人以下学級を維持する。

少人数授業のための加配教員を、少人数学級編制のための加配教員として活用する

宝塚市立  
高司中学校

学校の概要

<b>【加配教員DATA】</b> 常勤（持ち時間20時間/週） 担任：1年1組 担当教科：国語	月	火	水	木	金
	○	○		○	○
		○	○		○
	○			○	○
	○	○	○		
	○		○		○
	○	○	○		○

	1年	2年	3年	特別支援	合計
学級数	4	3	3	5	15
生徒数	110	106	112	30	358
教員数	26人（内訳：学級担任 15人、学級担任外で時間割に入っている教員 11人）				

**地域及び学校の状況**  
 本校は地域に密着した学校であり、保護者が本校の卒業生という家庭も多い。家庭の状況が複雑で、人権上の課題を有する生徒が多数在籍している。また、経済的に厳しい家庭も多く、保護者が子どもにしっかり向き合えず、不登校になる生徒も多い。最近では特別支援学級の生徒が急増（1年13名、2年12名、3年5名）し、今年度はストレッチャーで学校生活を送る生徒が在籍するため教室内の空間確保が課題となっている。

具体的な実践事例

1 実践のねらい

- クラスの生徒数を少なくし、学習面、生活面においてきめ細かな指導を実践する。
- 10名を超える特別支援学級の生徒をより分散させ、教室内に空間を確保する。
- ストレッチャーを使用する生徒が活動する空間を教室内に確保する。

2 取組の工夫

(1) きめ細かな指導

1クラスの生徒が30名程度にすることにより、授業で教科担任の目が行き届きやすくなる。また、担任が行うカウンセリングも時間をかけて行う。

(2) 落ち着ける交流学級

特別支援の交流学級では1クラスあたり4～5名が交流を行っている。40名近い学級では教室内に机を置くスペースの確保も難しい。また、特別支援学級の生徒に加えて担任等の教員4～5名と一緒に授業を受けることになり、交流学級の担任を合わせると5、6名の大人が教室にいることになり、落ち着かないと感じている生徒も少なくない。交流学級をより分散させ密を回避し、より落ち着いて効果的な学習ができる環境を整える。

(3) ストレッチャーの空間確保

教室内にストレッチャーが入るスペースを確保し、交流学級で一緒に学習を行う。

3 成果

(1) 生徒指導面でのきめ細かな対応ができた

1クラスの生徒が30名程度になり、授業やカウンセリングなど、生徒に対する指導をきめ細かに行うことができた。特に本校は不登校生徒が増えてきており、全員のカウンセリングに時間をかけて担任が行うことができるようになり、生徒の実態をより詳細につかむことができた。また不登校傾向の生徒については、早い段階で保護者と話し合いを持ち、解決している例も見られた。

## (2) 交流学級の担任の負担軽減に繋がった

1クラスあたりの特別支援学級の生徒数が少なくなったことにより、家庭訪問、三者懇談、カウンセリングなどをはじめ交流学級の担任の負担軽減につながった。また、交流学級での授業で支援を要する生徒に寄り添う教員の数が少なくなり、生徒が落ち着いて学習する環境が整えられた。

## (3) ストレッチャーの空間を確保することができた

ストレッチャーの生徒が教室後方のドアの近くに十分なスペースを確保することができ、医療器具用の電源を確保したり、教室移動がスムーズにできたりする環境を作ることができた。

また、廊下等で行わなければならないと考えていた痰の吸引や胃瘻なども教室で実施できている。

空間の確保においては人と人の間隔も他学年に比べて大きく取ることができ、コロナ禍の中で安心感が大きい。

## 4 課題

### (1) 学級担任の確保が難しい

学級数が増えるということは、担任も増えることになり、担任の確保が難しくなる可能性がある。

### (2) 教科担任の授業時間数が増加した

1クラスの人数が少なくなったことで、きめ細かな指導が可能になったが、反面1クラス増えたことにより、教科担任の授業時間数が増加して負担が増した。

### (3) 少人数指導の加配教員がいなくなった

昨年度までは少人数指導で2教科（数学・英語）の加配教員を配置していただいたが、今年度はそのうち1名を学級担任として活用したため、英語科でのきめ細かな指導ができなくなった。

## 5 課題への対応

### (1) 学級担任確保への対応

特別支援学級のクラス数の急増に伴って、担任の確保（通常の学級も含めて）が難しくなっているが、通常のクラスには必ず1名ずつ副担任を置き、事務仕事など分担して行っている。

### (2) 教科担任の授業時間数が増加したことへの対応

時数が増加した教員は、担任の補助で入る授業時数を減らすなど、持ち時間の調整を行いバランスを取った。

### (3) 少人数指導の加配教員がいなくなったことへの対応

少人数授業のための加配教員を少人数学級編制のための加配教員としたので、英語科が手薄になったが、ALTの活用や市の加配教員の配置で対応できた。また、ICT機器やLL教室の活用によって生徒が興味を持てる授業づくりができた。

少人数授業のための加配教員を、少人数学級編制のための加配教員として活用する

新温泉町立  
夢が丘中学校

学校の概要

【加配教員DATA】  
 常勤（持ち時間20時間/週）  
 担任：2年1組  
 担当教科：英語



月	火	水	木	金
	○		○	
	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○				○
	○	○	○	○
○	○			○

	1年	2年	3年	特別支援	合計
学級数	1	2	2	2	7
生徒数	35	36	42	7	120
教員数	13人（内訳：学級担任 7人、学級担任外で時間割に入っている教員 6人）				

**地域及び学校の状況**  
 観光地と農村地を主な校区としており、三世帯同居の家庭が多く、学校に対しては協力的である。生徒は、明るく、素直で、学習や生徒会活動・部活動にも一生懸命取り組んでいる。しかし、学習の理解度に差があり、個に応じたきめ細かな指導を充実させる必要がある。また、生徒一人一人の個性を十分にいかしながら達成感や自己有用感を高めさせ、自主的・実践的な態度を育成することが必要である。

具体的な実践事例

1 実践のねらい

- 生徒の学習のつまずきに早期に対応するなどきめ細かな指導を行い基礎学力の向上を図る。
- 一人一人の生徒と向き合う時間を確保し、生徒理解や信頼関係の構築を促進する。

2 取組の工夫

(1) 基礎学力向上の取組

全教科で少人数授業が可能となるため、各教科で生徒の学習状況や興味・関心等、実態把握を丁寧に行いながら、学習のつまずきに早期に対応する等、きめ細かな指導を計画的に推進する。また、ICTの活用やグループ学習、習熟度に応じた個別学習等、指導方法の工夫を行い、成果と課題について検証を行う。

(2) 生徒指導上の取組

少人数の学級担任が実現し、定期的な教育相談や個人懇談を行い、毎日の生活記録ノートを丁寧に点検することにより、生徒理解や信頼関係の構築を促進する。また、不登校傾向の生徒に対する家庭訪問や保護者との面談を計画的に進め、実態把握やよりよい支援のあり方について共通理解を図り、専門機関等とも連携し指導する。



1年時は1学級であり「密」の状態



2学級編制となり教室にゆとりがある



2学級合同で行った「総合的な学習」



### 3 成果

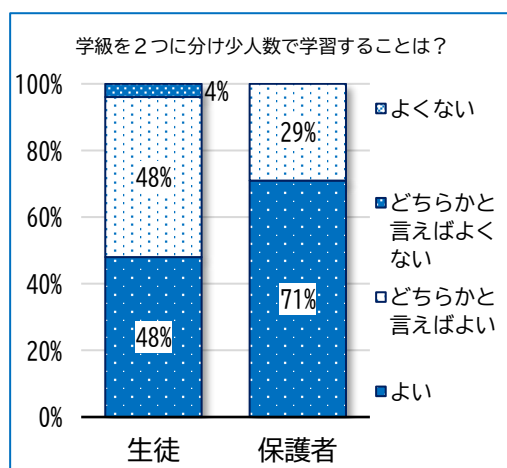
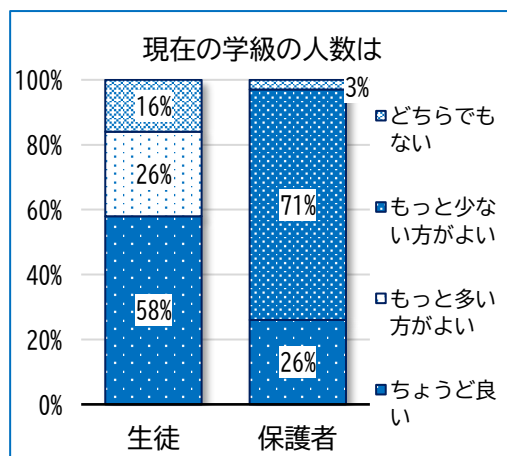
#### (1) 基礎学力向上の成果

教室の密集状態が解消されたことにより、生徒の集中力が高まり、落ち着いて授業に取り組む学習環境が確保できている。また、実験、実技、実習等を伴う授業では、個々の生徒の動きを把握しやすく、個に応じた助言ができる。安全面でも、理科や保健体育の授業において危険を防止し、行き届いた指導ができています。生徒の反応として、「授業に集中しやすくなった」

「学習内容がよくわかるようになった」等の感想が多く聞かれる。また、昨年度、授業時の発言が少なかった生徒が意欲的に発表するようになるなど、良い変化も見られる。

#### (2) 生徒指導面の成果

生徒の学級内での役割意識が高まり、一人一人が責任をもって係・当番活動や生徒会活動に取り組んでいる。また、学級担任が教育相談の時間や生徒の生活記録・自主学習ノートを点検しコメントを記入する等の時間が確保でき、生徒理解や生徒との信頼関係構築につながっている。さらに、不登校傾向のある生徒を学級編制で2学級に分けることができ、学級担任による家庭訪問や時間差登校等への対応が円滑にできている。保護者の関心は高く、高い評価を受けている。



### 4 課題

#### (1) 授業時数等の増加

今年度の本事業により週あたりの総授業数が、1学級分29時間増加し、教員一人あたりの担当授業時数も増加した。また、わずか1学級ではあるが、清掃場所が増えた。そのことから、清掃指導にあたる教員が、複数の場所を巡回しなければならないようになった。

#### (2) 時間割変更等の対応

2年生の学級担任が2名必要となり、学級担任の出張時の時間割の変更や、学級担任の業務の代替（学級活動、給食・清掃指導等）の対応がしにくい状況が生じている。

### 5 課題への対応

#### (1) 授業時数等の増加への対応

トライやる・ウィークの事前・事後指導では、総合的な学習の時間を2学級合同で実施した。学年団の職員で役割分担を行い、負担の軽減を図った。

#### (2) 時間割変更等への対応

1週間単位で時間割変更を行い、授業の過不足が生じないように調整を行っている。また、学級担任の業務の代替は学年職員を中心に全教職員で行っている。

丹波市立  
山南中学校

学校の概要

【加配教員DATA】

常勤（持ち時間 22 時間/週）

担任：2 年 1 組

担当教科：数学



月	火	水	木	金
	○	○	○	○
○		○	○	○
○	○	○		
○	○		○	○
○	○	○	○	○
○	○			○

	1 年	2 年	3 年	特別支援	合計
学級数	2	2	2	2	8
生徒数	49	39	42	3	133
教員数	17 人（内訳：学級担任 8 人、学級担任外で時間割に入っている教員 9 人）				

地域及び学校の状況

校区は、丹波山地の南西に位置し、檜皮茸、釣り具、花卉などの地場産業のほか足利尊氏ゆかりの地として名所・史跡・古社寺などの観光資源に恵まれている。さらに近年恐竜の化石が発見され、それをいかした事業の取組も進められている。学校では伝統的にボランティア活動や人権学習に積極的に取り組んでいる。最近では生徒数が減少し、同じ地域にある中学校と令和 5 年度に統合することが決定しており、今その準備が進められている。

具体的な実践事例

1 実践のねらい

生徒一人一人と関わる時間を増大させ、きめ細かな支援の充実を図る。

2 取組の工夫

(1) 少人数による学級編制の実施

本校において少人数学級編制の対象とした学年は特別支援学級生徒を含めると 40 名を超える学級であった。そのため、授業中も個々の生徒に対応しきれない場面もあった。そこで、本事業により、少人数授業のための加配を、少人数学級編制のために活用し、生徒一人一人と関わる時間の増大ときめの細かな支援の充実に取り組んだ。

(2) 時間割の弾力的編成

少人数学級を編制することで担任が生徒一人一人と関わる時間の増大を図ったが、クラス数が増加することで全体の授業時間数も増加する。そのため、時間割を弾力的に運用し、負担を軽減しながら生徒と関わる時間の増大を図った。

3 成果

(1) 落ち着いて生活できる生徒が増えた

学級の人数が減少したことで「落ち着いて生活できるようになった」【問 1】、「授業が受けやすくなった」と肯定的に答えた生徒はどちらも 8 割を超え、教員も「授業がしやすくなった」など、同じ感覚を持っている。また、7 割近くの生徒が先生と関わる機会が増えたと回答し、信頼関係の構築にもつながった。

(2) 主体的に行動する生徒が増えた

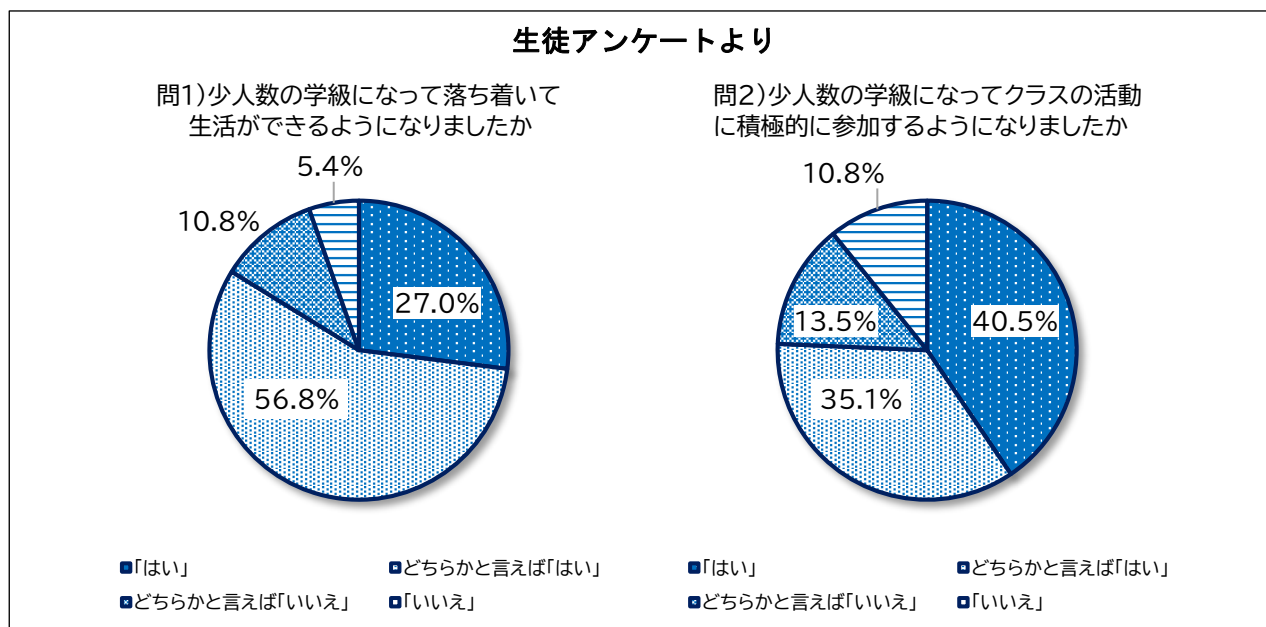
授業に関しても主体的に取り組む生徒が増加し、発表する機会も増えた。また、学級活動などにも積極的に関わる生徒が増加し、アンケート【問 2】では 7 割を超えた。

(3) 不登校傾向の生徒への支援が手厚くなった

担任としてはクラスの人減で日々の担任業務が軽減された。そして、その分生徒一人一人と関わる時間が増えたと感じており、特に不登校傾向の生徒に対して、関わ

る時間が増加し、今まで以上にきめ細かな支援が実施できていると感じている。

また、授業中にも机間指導等がしやすくなり、個別に生徒と関わる頻度が増加し、個に応じた指導がしやすくなったと感じる教員が増加した。また、小規模校では今回のように学級編制の弾力的運用を実施したい場合でも、担任の確保ができない時があった。このシステムが活用できれば、そういったことの解消につながる。



#### 4 課題

##### (1) 授業時数の増加

授業時数増加への対応が課題である。中学校ではこの影響は教科によって異なり、教員の負担の格差が広まった。特に小規模校では増加分を一人で対応しなければならない場合が多く、負担の重くなった者の分掌等をいかに軽減していくかが課題である。

##### (2) 時間割運用の複雑化

クラス数の増加により、日ごとの時間割編成はもちろん職員の出張時の対応など時間割の運用は以前より複雑になり、担当者の負担は増加した。

#### 5 課題への対応

##### (1) 弾力的な時間割編成

ローテーション授業や合同授業などを各教科で工夫しながら、状況に応じて実施し、授業時数の増加による負担軽減に取り組んだ。

##### (2) ICTの活用

日ごとの業務改善の観点からもICTの効果的な活用に取り組んだ。コロナ対応のための健康チェックや調査のためのアンケートなど担任の日常業務でICTの活用を図るとともに、業務そのものを見直し、会議でのICTの活用で負担軽減を図った。

##### (3) 業務改善の意識改革

教員も少人数の学級編制にはメリットを感じており、継続を希望するものが多い。そこで、授業時数増に対応しての負担を軽減するための業務改善に取り組む意識が向上し、行事の精選などが進んだ。

多可町立  
中町中学校

## 学校の概要

### 【加配教員DATA】

常勤（持ち時間 19 時間／週）

担任：3 年 1 組

担当教科：数学



月	火	水	木	金
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○

	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計
学級数	2	2	3	2	9
生徒数	70	56	78	9	213
教員数	19 人（内訳：学級担任 9 人、学級担任外で時間割に入っている教員 10 人）				

### 地域及び学校の状況

本校の重点目標に「確かな学力の育成に努める」を掲げている。中学 3 年生は、特別支援学級に在籍する 2 名を含めると 80 名いる。1 クラスに 40 席の机を配置しているため、空きスペースが少なく授業時の机間巡視による指導が難しい上に、特別な支援を要する生徒が 25 名在籍するため、個に応じた丁寧な指導が望まれる状態であった。そこで、少人数学級編制をすることで、個に応じた細かな指導や集中して授業が受けられる環境をつくり、学力の定着を図りたいと考えた。

## 具体的な実践事例

### 1 実践のねらい

- 教室内の学習機の配置に余裕を生むことで、落ち着いて学習に取り組むとともに、机間指導による教員からの学習支援が受けやすくし個に応じた学習を図る。
- 少人数学級編制による学級の係活動等を通して、生徒一人一人の個性が生きる集団づくりを推進する。

### 2 取組の工夫

#### (1) 学習面での取組

ユニバーサルデザインの考え方を取り入れて授業の流れや授業のめあての提示を推進し、主発問での対話時間を確保して主体的に学習に向かえる授業づくりを図る。

#### (2) 生徒指導面での取組

生徒たちとふれあう時間を確保することで、一人一人の生徒についての理解を深め、自分らしさを発揮できる活動の場や機会をつくるよう努める。

### 3 成果

#### (1) 学習状況

今までは数学と英語で新学習システムを活用していたが、少人数学級編制により全ての教科で少人数授業が実現した。このことで、一人一人に目が行き届きやすくなり、進捗状況が確認しやすくなった。また、教員が机間指導しやすくなったことで、生徒がよく質問するようになった。授業に集中する生徒が増えたことは大きな成果である。

#### (2) 学校生活の充実

少人数学級編制により、係活動において一人一人の役割がはっきりすることで責任を持って行動するようになった。また、担任が生徒としっかり向き合え、生活ノートへのコメントにも丁寧に返信を記入できるようになった。その中で生徒会役員を中心にリーダーが育ち、集団もリーダーをしっかりと支えるフォロワーとして急成長を遂げた。

さらに、中学生は大人になりきれない成長段階にあり人間関係のトラブルが多いがクラス増により人間関係を配慮したクラス替えが可能となった。このクラス替えにより別室登校をしていた生徒が教室復帰することができた。

#### 4 課題

##### (1) 授業時間の増加

本校は、自分の教科の授業時間以外に、他の教科のTTとして支援に入る形をとっている。単純に1クラス増えたことにより教員の授業時間数が増加し、他の教科のTTとして支援に回ることが今までと同じようにはいかなかった。

##### (2) 副担任の掛け持ち

各担任が生徒としっかり向き合う時間を確保するために、副担任が担任をバックアップしたいが、教員定数はそのままで学級を増やしているため、3年生普通学級担任3名、特別支援学級担任1名、学年付き教員2名の6名の構成上、副担任業務は掛け持ちをしなければならない。

#### 5 課題への対応

##### (1) 授業時間の増加への対応

教員の持ち時間数が許す限り全学年において授業のTTとして支援を展開してきたが、各教員の持ち時間増により、例年通りのペースでTTとしての支援が回りきらない状態になっている。例年通りにはできないが、町費学習支援員を活用してTT支援をカバーしている。

また、道徳において学年団によるローテーション授業を行ったり、体育科での合同授業を取り入れ、授業時数増の負担軽減を図っている。

##### (2) 副担任の掛け持ちへの対応

副担任業務を掛け持ちする3年生の学年付き職員の授業時数を他の教員に比べ軽減することで、学年業務に向かう時間を確保している。

#### 生徒アンケートより（複数回答あり）

##### 【少人数学級編制で良かったこと】

- ・教室の自席周りがゆったりして、静かになった（63%）
- ・発表が当たりやすく、先生に質問もしやすくて、勉強しやすくなった（47%）
- ・競うクラスが増えたことで体育祭や文化祭行事が盛り上がった（25%）

##### 【少人数学級編制で困ったこと】

- ・給食当番に欠席者があると、食器運搬や配膳作業がたいへん（32%）
- ・さみしくなった（15%）
- ・クラスが分かれて話をしない人が増えた（8%）

少人数授業のための加配教員を、少人数学級編制のための加配教員として活用する

相生市立  
双葉中学校

学校の概要

**【加配教員DATA】**  
 常勤（持ち時間18時間/週）  
 担任：3年A組  
 担当教科：国語



月	火	水	木	金
○	○	○	○	○
○		○	○	○
	○	○		
	○		○	
	○	○	○	○

	1年	2年	3年	特別支援	合計
学級数	4	4	4	2	14
生徒数	122	127	119	8	376
教員数	24人（内訳：学級担任 14人、学級担任外で時間割に入っている教員 10人）				

**地域及び学校の状況**  
 中学校は市の中心部に位置しており、校区内には相生市役所等の行政機関が集中し、山陽本線や国道2号線等の主要交通網もあることから便利な地域である。3年生は小6までは4学級編制で過ごしていた。中1も4学級編制になるものと思っていたところ、予想以上に私学等に進学する児童があったため、僅かのところで3学級編制になった。生徒は、中1から教室等手狭な状況で過ごす中で、教科指導や学級指導では落ち着きのなさが出るようになっていた。それに伴い、生徒や保護者、教職員からも、中3では4学級編制を望む声が出ていた。そんなとき、相生市教育委員会から本件について紹介をいただき、本年度、少人数学級編制を行うに至ったものである。

具体的な実践事例

1 実践のねらい

少人数授業のための加配教員を3年生の少人数学級編制に充てることで、3年生の学力向上と学校生活の安定を図る。最高学年の安定を学校全体の安定につなげる。

2 取組の工夫

(1) 学習面での取組

学級の人数が昨年度に比べて10人ほど減ることに伴い、これまで授業の中で行き届かなかった部分に留意してきめの細かい授業を行う。取組としては3つ。1つ目は、教室空間に余裕ができることから机間指導を増やすこと。その際、ただ単に机間指導するだけでなく、目的を持って机間指導をする。2つ目は、個別の指導を充実させること。ノート点検や課題プリント・作業などの様子を見て、つまずきを解消したり自己肯定感が得られるような助言を与えたりする。3つ目は、個を生かす授業をすること。ワークシートや発表から多様な意見を吸い上げるなど、個々が生かされるよう授業を工夫する。

(2) 生徒指導面での取組

3年生全体が落ち着いて学校生活を送られるよう、また上級生としての責任を果たす存在になるよう図る。取組としては3つ。1つ目は、これまでの人間関係を十分考慮した学級編制を行うこと。トラブルを避けるだけでなく最高学年に相応しい雰囲気になるよう、複数の目を見て編制を行う。2つ目は、学級指導を充実させること。担任がしっかり学級について、共に歩もうとする姿勢を持って深く関わる。3つ目は、一人一人を大切にして寄り添う指導をすること。生活ノート、面談、日々の声かけなどにより、一人一人の理解に努める。

### 3 成果

#### (1) 学習の理解度が高まり意欲的な生徒が増加した

教室の密が解消されたことにより、教室内で教員が動きやすくなった。机間指導等がしやすくなったことで、生徒たちの授業内容に対する理解度が高まった。理解度の高まりは、授業だけに止まらず、家庭学習においても意欲的な生徒が見られるようになった。また各学級の人数が減ったことにより、授業中の発言が取り上げられる回数が増えるなど生徒たちの学習面の取組について目が行き届きやすくなった。それによって、個々の生徒が持つ課題を授業に反映しやすくなった。生徒は自分のことを見てもらえているという実感から、主体的に学ぼうとする姿勢が今までより強く見られるようになった。また、教員と生徒との会話が多くなることで両者の距離感が近くなったことも、学校生活の様々な場面で生きてきている。

#### (2) 生徒指導上の問題が減少した

3学級40人編制から4学級30人編制になったことで、これまで以上に配慮した学級編制ができ、学級内の人間関係が向上することで、各学級の雰囲気は年度の初めから一変した。

また、運動会や文化祭などの行事においては、選手や係などすべきことがより明確になったことで、動きが定まって一人一人が生き生きしていた。自分事として捉えられた分、結果が伴うと嬉しかったようで3学級の時以上に盛り上がっていた。

日頃の生活では、優しい生徒や一生懸命に取り組む生徒が増えており、生徒指導上の事案は目に見えて減少している。昨年度、不登校で挙げていた生徒の中には学校に来ることができる生徒も出てきた。

### 4 課題

#### (1) 授業時間数の増加

学級増に伴い授業時数が増えることは、授業者である教員にとってはその分時間を取られることになり負担が増す。

#### (2) 時間割変更が難しくなる

特別教室の使用等に制限が増えるため、日々の時間割変更がしにくくなる。

### 5 課題への対応

#### (1) 授業時間数の増加への対応

やりにくさを感じながら一年間授業を続けることと、授業時数が増えたとしてもやりやすくなるのとどちらがいいかを考えたとき、教員の答えは揃っていた。幸い実技教科については0～1時間の増加なので大きな負担にはならなかった。5教科については3～4時間の増加になるので、担当教員にはできる限り校務分掌等で配慮した。

何より円満に日々の授業が行われていることは、生徒にとっても教員にとっても良かったようで、次年度2年生が学級減になる恐れがあることから、もしそうなるならば本年度のように弾力的学級編制を望むという声が上がっている。

#### (2) 時間割変更が難しくなることへの対応

時間割変更がある場合は、学年内でやり繰りするのが調整しやすいので、基本的には学年内で調整した。偏りが出る場合は、各学年の時間割担当が相互にやりとりして、早目に調整を図った。そうすることで、学年を超えた変更も可能になったが、頻繁に調整を図っている場面を見ることから、改善の余地があると思われる。

少人数授業のための加配教員を、少人数学級編制のための加配教員として活用する

洲本市立  
五色中学校

学校の概要

【加配教員 DATA】  
常勤（持ち時間 18 時間／週）  
担任：3 年 2 組  
担当教科：理科



月	火	水	木	金
	○	○		
	○			○
	○	○	○	○
○			○	○
○	○	○	○	○
○				○

	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計
学級数	2	2	3	2	9
生徒数	63	64	76	5	208
教員数	18 人（内訳：学級担任 9 人、学級担任外で時間割に入っている教員 9 人）				

**地域及び学校の状況**  
淡路島中西部に位置し、東に霊峰先山を仰ぎ、西は瀬戸内海に沈む美しい夕陽が見られる五色浜を臨む自然豊かな地域にある。地域は学校に理解があり生徒の活動にも協力的である。生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいるが、主体的に取り組む姿勢に物足りなさを感じる。特に、現 3 年はこれまで多人数の学級で活動しており、個に応じた指導が不足している。

具体的な実践事例

1 実践のねらい

- 「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、「対話」を重視した学習指導の推進。
- 人間的なふれあいを通して個々の生徒の良さや可能性をより発揮できるような指導の実現。
- 日々の生活指導、進路指導での担任教諭の負担を軽減。

2 取組の工夫

(1) 「対話」を重視した学習指導の推進の取組

学級の生徒数を少なくすることで、教育活動の様々な場面で生徒一人一人を観察するように努め、学習集団の特性に加え、学習状況や興味・関心等、生徒一人一人の実態の把握に努める。併せて、少人数の中で一斉学習や個別学習、ペア学習、グループ学習等の学習形態を計画的に工夫することに加え、個に応じた指導を充実させる。

(2) 生徒の良さや可能性をより発揮できるための取組

学級の生徒数を少なくすることで、個性を生かした計画的な学級経営を推進し、生徒一人一人が活躍できる機会をつくる。生徒一人一人の生活背景や内面の理解に努め日常的に声かけをする。進路指導においては、一人一人の能力・適性・実態を踏まえた進路指導を推進する。

(3) 教員の負担軽減のための取組

学級の生徒数を少なくすることで、学級担任が日常行っている業務に関して負担の軽減を図る。

3 成果

(1) 「対話」を重視した学習指導の推進の成果

学級の生徒数を少なくすることで、全ての教科において個に応じたきめ細かな指導による基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得が図れている。生徒一人一人が違ったことを進める、あるいは個性をより大事にして伸ばしていく教育を充実させるため一人一人の進捗や課題に応じて教員がフィードバックや助言することができる。



## (2) 生徒の良さや可能性をより発揮できるための成果

生徒一人一人が、達成感や自己有用感を高めることによって、学級を共感的で安心できる居場所とすることができる。生徒一人一人に温かくゆとりのある心で接することで、生徒の人格形成を助けることができる。進路指導においては、生徒の能力・適性、興味・関心、障害の状態や将来の進路希望等に基づき、保護者との連携のもと、個に応じたガイダンス機能を充実させることができる。

## (3) 担任の負担軽減の成果

担任教諭が行っている個人ノートの点検や各種集配、保護者との電話連絡、教育相談や個人懇談などの学級経営に関する業務負担を軽減することができる。

## 4 課題

### (1) 指導方法の工夫

学級規模を縮小しただけで従来と同じ指導をするのでは大きな効果を得られるものではない。少人数に適した指導を推進する必要がある。

### (2) 授業時数の増加

1学級増やすことで週29時間の授業増になり、これまでの新学習システムに比べて授業時数の増加が大きい。

### (3) 行事等での物足りなさ

体育大会での大縄跳びや綱引き、文化祭での合唱など、学級全体で一体感を感じる場面で、学級の生徒数が減少したことで物足りなさを感じる場面もある。

### (4) 継続性の問題

現3年生は、今年度突然の学級増であり、急な変更で生徒に戸惑いがあった。また、1、2年時に継続して取り組んできた生活班での活動についても運用方法の変更が必要になってきた。

## 5 課題への対応

### (1) 指導方法の工夫への対応

全教科を通じて、少人数での授業指導の質を高めるための研修、教科間の情報共有などを行い、より効果的な指導方法を研究する。

### (2) 授業数の増加への対応

時間割の工夫などで、教科によっては、従来の学級編制で行うなど運用面で工夫をする。

### (3) 行事等での物足りなさへの対応

生徒一人一人が活躍できる機会をつくり、それぞれの個性をいかしながら学級としてまとめていくことで、他者理解や生徒個々の充実感を高める。

### (4) 継続性への対応

少人数の学級編制を行う場合は、1年時から3年間継続して実施するのが望ましいと考えられる。そのために、校区内小学校と連携して、今後の生徒数の増減を予め把握し計画的に運用する。

## V 新学習システムあり方検討委員会について

### 1 設置要綱

(趣 旨)

第1条 本県では、平成13年度から、義務教育段階における個に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るため、国の指導方法の工夫改善加配等を活用して、新学習システムを推進している。

一方、国においては、①段階的に小学校のすべての学年での35人学級の導入（令和3～7年度）、②小学校高学年への教科担任制の導入（令和4年度）が検討されており、今後、国の指導方法の工夫改善加配が、35人学級導入のための基礎定数や教科担任制導入のための専科加配に振り分けられ、現状の新学習システムの推進内容に必要な加配教員が確保できないことが予想される。

このような国の動向を踏まえて、新学習システムあり方検討委員会（以下「あり方検討委員会」という。）を設置し、今後の推進内容について検討する。

(所掌事務)

第2条 あり方検討委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 新学習システムの評価・検証に関すること
- (2) 今後の新学習システムの推進内容に関すること
- (3) その他、義務教育段階の学習指導に関すること

(組 織)

第3条 あり方検討委員会は次にあげる委員で組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 教育行政関係者
- (3) 学校関係者

2 あり方検討委員会の中に小委員会（小学校部会、中学校部会）を置く。

(委員長等)

第4条 あり方検討委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は委員の互選によって定める。
- 3 委員長は、あり方検討委員会を統括し、議事進行にあたる。
- 4 委員長は予め副委員長を指名する。
- 5 委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、副委員長がその職務を代行する。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、令和4年3月31日までとする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(謝 金)

第6条 委員が会議の職務に従事したときは、別に定めるところにより謝金を支給する。ただし、県職員及び県費負担教職員にあつては支給しない。

(旅 費)

第7条 委員が会議の職務を行うために、会議に出席したときは、別に定めるところにより、旅費を支給する。旅費の額は、職員等の旅費に関する条例（昭和35年兵庫県条例第44号）に基づき支給する。

(庶 務)

第8条 あり方検討委員会の庶務は教育委員会事務局義務教育課において処理する。

(補 則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、あり方検討委員会の運営に必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、令和3年4月9日から施行する。

## 2 委員名簿

### 【令和3年度新学習システムあり方検討委員会】

	所 属	職 名	名 前	備 考
学識経験者	関西学院大学	教 授	佐藤 真	委 員 長
	兵庫教育大学大学院	准 教 授	安藤 福光	副委員長
	兵庫教育文化研究所	事務局長	村尾 克彦	
行政関係者	西宮市教育委員会学校教育課	指導主事	平林 千恵	
	養父市教育委員会教育課	課 長	安東 博之	
学校関係者	姫路市立城乾小学校	校 長	柳井 克文	小学校長会推薦
	西宮市立甲陵中学校	校 長	東川 富彦	中学校長会推薦
	宝塚市立中山桜台小学校	校 長	藤井 優惠	研究協力校 (5年・35人学級)
	多可町立中町南小学校	校 長	足立 徳昭	研究協力校 (専科教員として活用)
	豊岡市立五荘小学校	校 長	澤田 毅	大規模校 (5・6年8c1)
	洲本市立鮎原小学校	校 長	作 靖幸	研究協力校 (担任の負担軽減)
	宝塚市立高司中学校	校 長	清水 浩明	研究協力校 (1年・35人学級)
	相生市立双葉中学校	校 長	石堂 賀人	研究協力校 (3年・35人学級)
	丹波市立山南中学校	校 長	荻野 圭裕	研究協力校 (2年・35人学級)
	姫路市立白鷺小中学校	校 長	山口 偉一	義務教育学校

〈事務局〉 兵庫県教育委員会事務局義務教育課

【令和3年度新学習システムあり方検討委員会（小委員会）】

	所 属	職 名	名 前	研究内容
小学校部会	宝塚市立中山桜台小学校	校 長	藤井 優恵	学級担任として活用
	多可町立中町南小学校	校 長	足立 徳昭	専科教員として活用
	佐用町立佐用小学校	校 長	金元 重幸	学級担任として活用
	豊岡市立弘道小学校	校 長	田淵 重遠	担任の負担軽減
	丹波篠山市立城東小学校	教 頭	方山 直人	専科教員として活用
	洲本市立鮎原小学校	校 長	作 靖幸	担任の負担軽減
中学校部会	宝塚市立高司中学校	校 長	清水 浩明	学級担任として活用
	多可町立中町中学校	校 長	橋本 衛	学級担任として活用
	相生市立双葉中学校	校 長	石堂 賀人	学級担任として活用
	新温泉町立夢が丘中学校	校 長	田中 千尋	学級担任として活用
	丹波市立山南中学校	校 長	荻野 圭裕	学級担任として活用
	洲本市立五色中学校	教 頭	太田 周作	学級担任として活用

〈事務局〉兵庫県教育委員会事務局義務教育課

### 3 年間スケジュール

時期	あり方検討委員会	小委員会	備 考
R 3 5 月	<b>第1回新学習システムあり方検討委員会</b> ○検討内容 ○新学習システムの評価・検証に関する調査 日時：5月17日（月）14:00～16:00 場所：兵庫県立のじぎく会館		
6 月	↓		<b>研究協力校訪問調査</b> ○対象：研究協力校12校 ○内容：研究の進捗状況の把握 等
7 月			<b>新学習システムの評価・検証に関する調査</b> ○対 象：小・中学校 ○対象校：小100校、中50校 ○種 類：学校質問紙、教員質問紙、 児童生徒質問紙、保護者質問紙 ○内 容：新学習システムの教育効果の検証 等
8 月		<b>第1回小委員会（小学校部会、中学校部会）</b> ○研究協力校報告 ○取組上の工夫点や課題、課題への対応策 ○研究協力校報告書に記載するポイント 日時：8月11日（水）13:00～15:00 場所：オンライン	
10月	<b>第2回新学習システムあり方検討委員会</b> ○質問紙調査の結果報告 ○研究協力校における研究内容 ○今後の検討の方向性 日時：10月4日（月）14:00～16:00 場所：兵庫県学校厚生会館		
11月	↓	<b>第2回小委員会（小学校部会、中学校部会）</b> ○研究協力校報告書 日時：11月11日（木）14:00～16:00 場所：兵庫県学校厚生会館	
12月		<b>第3回新学習システムあり方検討委員会</b> ○検討委員会提言の内容検討 ○報告書の内容検討 ○新しい学習システムの内容の検討 日時：12月20日（月）15:00～17:00 場所：兵庫県学校厚生会館	
R 4 1 月	↓	→	<b>冊子配布</b> ○検討委員会からの提言 ○新しい学習システムの内容 ○新しい学習システムでの実践事例
4 月	<b>新しい学習システムの段階的な運用開始</b>		

## 4 委員会の開催状況

### ■令和3年度第1回新学習システムあり方検討委員会

日時 令和3年5月17日(月) 14:00～16:00

場所 兵庫県立のじぎく会館201

出席者 あり方検討委員会委員 15名(オンライン参加含む)  
事務局 8名

協議事項 (1) 検討内容について  
(2) 新学習システムの評価・検証に関する調査について  
(3) その他

### □令和3年度新学習システムあり方検討委員会第1回小委員会

日時 令和3年8月11日(水) 13:00～15:00

場所 ※オンラインによる開催

出席者 小委員会委員 12名(オンライン参加)  
事務局 2名

協議事項 (1) 研究協力校報告について  
(2) 取組上の工夫点や課題、課題への対応策について  
(3) 研究協力校報告書に記載するポイントについて

### ■令和3年度第2回新学習システムあり方検討委員会

日時 令和3年10月4日(月) 14:00～16:00

場所 兵庫県学校厚生会館 3階大会議室

出席者 あり方検討委員会委員 15名(オンライン参加含む)  
事務局 8名

協議事項 (1) 質問紙調査の結果報告  
(2) 研究協力校における研究内容  
(3) 今後の検討の方向性について  
(4) その他

### □令和3年度新学習システムあり方検討委員会第2回小委員会

日時 令和3年11月11日(月) 14:00～16:00

場所 兵庫県学校厚生会館 2階大会議室

出席者 小委員会委員 12名  
事務局 2名

協議事項 研究協力校報告書について  
(1) 全体協議  
(2) グループ別協議

### ■令和3年度第3回新学習システムあり方検討委員会

日時 令和3年12月20日(月) 15:15～17:00

場所 兵庫県学校厚生会館 2階大会議室

出席者 あり方検討委員会委員 15名  
事務局 8名

協議事項 (1) 検討委員会提言の内容検討  
(2) 報告書の内容検討  
(3) 新しい学習システムの内容検討



(2) 新学習システムの評価・検証に関する調査について

- 他のクラスの担任の先生にという表記について、単学級の学校規模の学校はどうすれば良いか。
- 兵庫型教科担任制については単学級であっても5年と6年で担任交換をしてくださいとお願いしている。小さい規模の学校でも問題はないのではないかと考えている。
- 他のクラスの担任の先生ということは、新学習システムであればフルの加配で授業をもたれていると思うので担任以外もあるのではないか。
- 基本フルの加配は少人数で入るので授業交換には直接関わらないのでこのような表記になっているが。あくまで担任の先生同士の交換授業という形なのでわかりにくいようであれば事務局で内容を検討する。
- 児童質問紙の質問1が「他のクラスの担任の先生」と「いろいろな先生」と表記が違っているのは何か意図があるのか。
- ここは統一性が取れていないのでもう一度検討する。
- 子ども達に聞くのであれば、Ⅱを少人数指導と同室複数指導に分ける方が良いのではないか。
- 生徒質問紙のクラスの分け方の質問で、もし習熟度別を望む声が多ければ、積極的に取り入れていくということなのか。
- 教員質問紙にも自由記述欄があれば現場の意見が良く伝わるのではないか。
- 今回のアンケートは過去に兵庫型教科担任制スタート時に行ったアンケートを基にしている。子どもが少人数指導と同室複数指導の違いをどこまで意識できているかというのもありこの聞き方になっている。また、できるところは今回のアンケート結果と過去のアンケート結果を比較できればと思うのでこの形で聞ければと考えている。
- クラス分けについては、新学習システムの要項に推進方法として記載している。その中で児童生徒の意識としてどうなのか、保護者がどのようなことを望んでいるのか、学校としての実態を把握する必要はある。アンケートの結果を見て新しいシステムに生かすかを検討する。
- 教員質問紙の自由記述欄については、今回意見をいただいたので事務局として検討していく。
- アンケートの説明部分に「回答内容が成績には関係しません」というのを入れたほうが良い。
- 教科を3つ選ぶ項目については順位にしたほうが良い。
- 中学校でも「専門の先生に詳しく教えてもらったかった教科」についても聞いた方が良いのではないか。
- 保護者Ⅰ－3・5のような場合、あてはまるものをすべて選ぶのではなくそれぞれについて意見を聞くのが保護者の実態がつかめる。
- 保護者に対しても「お子さんの成績に影響はありません」という文言を入れたほうが良い。
- 小学校中学校の先生に対しても「勤務評定には関係ありません」という文言を入れたほうが良い。



- 小学校の先生にも当てはまるものをすべて選ぶのではなくそれぞれについて意見を聞くのが良いのではないか。
- 中学校の先生にも少人数についての実践内容を聞いても良いのではないか。
- 小学校質問紙ではふさわしい教科については自由に聞いても良いのではないか。
- 勤務評定の項目について、現場の先生の意見を聞かせていただきたい。
- 必要なし
- 中学校学校質問紙のⅡ－エの指導力のある教師という書き方が気になるので検討していただきたい。

## 6 委員長まとめ

- (1) エビデンスベースで議論を進めなければならない
  - アンケートをとるが、現場の先生は負担感をもっている。この負担感をもたせないように実施するのが望ましい。
- (2) 国の検討後、必要な法制上の措置等を講ずることがある
  - これまで兵庫県では子どもにきめ細かな指導を行っていた。これがなくなるのは人権上いかがなものか。
- (3) 子どもも教員も学校全体で探究を進めていかなければならない
  - 新学習システムを含め少人数学級や GIGA スクール構想では個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指している。これで「つまずきの解消と意欲を高める学び」「習熟度に応じた学び」「社会性・人間性を養う学び」を学んでいく。その為には探究が必要となってくる。

## 令和3年度第2回新学習システムあり方検討委員会（議事概要）

- 1 日 時 令和3年10月4日（月）14：00～16：00
- 2 場 所 兵庫県学校厚生会館3階大会議室
- 3 出席者 ・委員 新学習システムあり方検討委員会委員 15名  
※うちオンライン 1名  
・事務局 8名

### 4 主な意見（協議部分）

#### (1) 質問紙調査結果について

- 義務教育学校では中学籍の教員（音楽・家庭）が前期課程で授業を行っており6年生では7科目で担任交換及び専科指導を行っているため既に教科担任制を敷いているのと変わらない。特に音楽は中学校を見据えた指導ができていますので非常に質が高い。アンケート結果について、ほぼ自分が感じている通りで意外性はなかった。多面的な児童理解については、効果があると出ているが教員それぞれが発見するだけで共通理解ができていなければむしろマイナス面が大きい。また、専科教員が授業改善にしっかり取り組んでいかなければならない。今後、少子化が進み専科が1人配置になった場合、学校の垣根を超えたシステムづくりが求められる。
- システムについていずれも高評価となり、これまで兵庫が行ってきたことが良い評価をうけている。記述については、保護者の部分の記述のページがとても多く思いが詰まったアンケートになっている。国では小学校の教科担任制に向け、働き方改革も含めて一定の縛りがかかっている部分もあるが、兵庫らしさを大事にして新しい学習システム検討していただきたい。
- 専科と兵庫型教科担任制により多様な先生と出会う場面が生まれる。若手教員が増え児童理解が難しい中で、多くの教員が関わり子どもの良さを多面的に見つめ保護者とも共有することが大切。
- 本校は加配を学級担任として活用している。どうしてもクラスの中に一緒になるとしんどい子ども達もいるときがあるが、クラス分けで別のクラスにすることができ有効に活用させていただいた。昨年度まで行っていた算数の少人数はできなくなったが、今回は少人数よりも学級増の方が有効であった。
- 兵庫型教科担任制との兼ね合いで、時間割を組む難しさは感じている。
- 兵庫県の特徴である新学習システムが6割ほどしか認知されていないことを残念に思う。新たなシステムでは上手くPRしていく必要がある。
- 加配教員の活用方法について、弾力的な学級編制の導入を望んでいることについては同感であり、新しいシステムに反映できればと思う。
- 教科担任制を実施していく上で、系統的な学習指導という部分は外せない。単に教科を入れ替えることが教科担任制と思っているふしがある。教科担任制とはどのようなものかしっかり理解した上で取り組まないと後々問題を残すことになる。
- クラス数で規模を分けると人数は20～40の幅があるので条件は違う。40に近い人数の場合、何とか弾力的に運用してクラス数を増やしたいが、その様な学校は教諭の配当数が少なく加配の先生を除くと担任を持てる者がいなくなる。研究では

学級を増やす活用を行っているが結果からも学校規模に応じて弾力的な使い方ができる形で、新しい学習システムを検討いただけるのが一番実用的になる。

□昨年度コロナ禍で、分散登校したときに不登校の子たちが登校しやすくなったという状況を思い出している。時代背景や世界的な規模で状況を考えると、40人学級をずっと続けていくということに、どこかで区切りをつけないといけない。

□2年前まで現場にいて高学年を担当した際に教科担任制を経験した。幸いすべて偶数クラスだったので、非常にやりやすかった。最初は若いころは少し不安に感じたが、風通しが良くなり色々な先生に見てもらえるメリットを感じた。また評価について、自分の持つ教科が少なくなれば時間がかけられ、しっかりと評価ができる。

□教科担任制は次年度同じ教科を持てなかったら教材のストック等ができず働き方改革にもつながらず意味がない。県教委としての条件整備と学校のマネジメントをうまくしないと先生方には負担になってしまう。

□中学校の現場としては、35人というのを早く実現していただけたらありがたい。

□新学習の課題として学級担任をすることができないという部分も厳しい。担任の数がそろわない学校が多く市内でも再任用の先生が担任をされている学校もある。

(2) 研究協力校における研究内容について（質問・意見なし）

(3) 今後の検討の方向性について

□それぞれの学校や子ども達の現状に合わせ、現場に裁量を持たせたプログラムの設定をしていただきたい。また小規模校などでも手が挙げられるようなプログラムなど今後検討していただきたい。

□小さい市町にとってはこの制度により学校運営が随分変わってくる。

□再任用の先生方に加配をしてもらうときに例えば60歳を超えた方に体育、教えたことのない外国語をやってもらうのはなかなか言いづらい。

## 5 委員長まとめ

○新しい時代にふさわしい質の高い教育について、第7次教職員の定数配置改善の前は25人ぐらいが一番教育効果は高いと言われていた。教育効果がどれぐらいあるかということ併せて考えていかないといけない。やれば良いという問題ではない。

○昔とは違うということを考えないといけない。1つは「教員の働き方改革」であり、この議論は中教審の前はなかった。今回は働き方改革の土台を設けて一体化して進んでいる。もう1つは、カリキュラム・マネジメントで、学習指導要領と同時に指導要録の改善の話が出て、一体化してPDCAが行われている。最も負担感があるのは評価の問題である。この問題について負担感をなるべく少なくして働き方改革を図るなどこれまでの新学習システムとは時代的に違う。昔とは頭のチェンジを図って考えないといけない。

○子ども達は小さな県民であり、将来を担う方々なので、そこに投資をするというのはこの社会に必要なってきている。新しい時代にふさわしい質の高い力をつけていくために、良いシステムができればと思う。若い人が教育現場を変えていかないと優秀な子どもを育てられないので、いい循環を作っていただきたい。

## 令和3年度第3回新学習システムあり方検討委員会（議事概要）

- 1 日 時 令和3年12月20日（月）15：15～17：00
- 2 場 所 兵庫県学校厚生会館2階大会議室
- 3 出席者 ・委員 新学習システムあり方検討委員会委員 15名  
・事務局 8名

### 4 主な意見（協議部分）

#### (1) 新学習システムあり方検討委員会提言について

- タイトルを「未来への力を切り拓く」に変更することを少し検討してほしい。
- 提言の県教委に対しての部分で、中学校には少人数指導できめ細かな指導という文言があるが小学校にも必要ではないか。
- 下の小学校で「市町組合教育委員会と連携して、配置方法を研究すること」というところは市町教委が行うべきことではないか。
- 提言上段の共通のところ、新しい学習指導要領が目指している資質・能力の育成ということ念頭に置いた授業について、授業の質の改善こそが質の高い教育につながっていく。それを兵庫県は、いち早く行っている、何らかの形で新しいシステムを検証するような場を持てば、県全体のレベルアップにつながっていくのではないか。
- 提言下段の教員の確保が難しい地域における加配教員の配置について、かなり市町教育委員会裁量の部分があり非常にありがたい。教員の確保が非常に難しいという課題についても言及されているのは良い。
- 複数校の兼務と中学校教員の活用などと書かれているが、中学校に在籍している者を小学校にも兼務辞令を発するということが良いか。
- 地域によっては教員が確保できないということで、現行の少人数についてはある程度の規模の学校にしか加配をつけていない。今回の専科では小さな学校でも実施しなければならず大きな課題と考えている。令和7年度に向け人材を確保するにはどうすれば良いか研究を進める中で、色々な選択肢があることを考えて提言の中に入れている。基本的には、中学校に加配をし、やりくりするというのではなく、こちらでその分の加配をして対応するという考え方である。

#### (2) 兵庫型学習システムについて

- ◎小学校高学年教科担任について、「相互にかけ合わせることで」という文言があり小学校からも中学校免許保有者が中学校に支援に行けばお互いWin-Winの関係が成り立っていくのではないか。市教委を中心に上手く市全体で考えていきたい。
- 一学年を上限に35人学級をとるとしたとき、1年生は35人学級にし、3年生は少人数を残すということは可能か。
- 中学校では35人学級編制が可能な規模について最低一人は常勤を配置している。基本的には常勤で配置した先生1名は違う使い方ができるので、少人数と学級担任という形の運用は可能かと思う。
- 中学校の教員が小学校の専科指導にあたることについて在籍は小学校、中学校いず

- れになるのか。また将来的には、義務教育学校や小中併設校等でなくても、近隣の小学校と中学校の間で行き来するという事について研究される可能性はあるか。
- 現在、外国語でも専門性を生かして複数校行っていたり形をとっている。ただ、先生方の所属感や1つの中学校に複数の小学校があるといった課題があるので、進めていながら徐々に考えていきたい。
  - 義務教育学校では、後期課程の中学部の方から前期課程の小学部の方に授業に行くことを数年ずっと続けているが抵抗感や作業量はそれほど感じない。昨年度、小学校籍の教員が中学校を担当していたが定期考査の作成や評価に関してはハードルが高いと感じることがあった。
  - 小・中学校では評価が非常に大きな問題になってくる。大学でも養成段階でも指導するが、養成・採用・研修は一体化して進めるので研修のことも考えないといけない。働き方改革にも通じないとこの問題は進んでいかないのではないか。兵庫県は採用試験の倍率を維持しているが全国的には全体で2倍を切る地方もある。そうになると、理数系を中心に、教科担任でやることは難しい。働き方がいいと若い人がその地域に採用試験を受けに来るので、兵庫県の教育環境、働く環境がいいということも含め考えていただきたい。
  - スケジュールのところで、具体的な推進について◎の複式が入ってないが、複式は書いてないが入っているということで良いか。
  - ◎の複式については、継続ということであえて載せていない。
  - 小中一貫や部活動補助は来年度以降ないという方向性か。
  - 小中一貫については、基本的に◎高学年教科担任の中で運用をお願いしたい。部活動の指導については、地域移行や部活動支援員配置の状況を鑑み新学習システムが始まった頃とかなり状況は変わっているということと、基本的に兵庫型学習システムの目標が授業改善であり部活動という言葉が表に出るのはそぐわないので、新たなシステムの実施に当たり整理統合を行った。
  - 学校現場から考えると、この加配で子ども達や教職員の働き方の部分を担っていた部分があるので丁寧な説明や今後の検討も必要なかと思う。また兼務については促進か今後検討か考え方をお聞かせ願いたい。
  - 小規模校の子ども達も専門性のある授業が受けられるように加配教員、非常勤でカバーできない部分は、専門性を持った中学校の先生に教えてもらうのが一つの方法ではないか。ただ、各市町の状況は違うので今後の状況を見ながら一緒に考えるが、選択肢としては、複数校兼務と中学校の教員の活用というのは出てくるのではないかと思う。
  - 授業担当例が基礎定数加配教員が2名いることを前提で作成されているが規模によっては1名のところもあるので対応した例示を作っていたらきたい。
  - 加配例示は学級規模を反映させたものに見直す。
  - 中学校の35人学級編制について、長期的にどの学年で配置するかということを考えておかないといけない。小規模の場合ほとんどの教科が一人または二人の担当クラスの学校になり授業時数が現状の職員では対応できないという形になってくる。
  - 来年、再来年は、35人学級編制がなしという形か。

- 国の目的加配であり、今年度は研究校数校なので対応できたが、どの学校でもとなると国の目的加配で対応することができない。国は教科担任で進んでいる。どうしても大変な場合は、市の方で対応していただきたい。
- 統合を予定している市町の教育委員会に十分な説明をお願いしたい。
- 英語専科の短時間勤務についてお聞きしたい。
- 英語専科の配置は週当たりの時間数に応じた配置というのが基本となる。
- 常勤の先生が二人配置され、分かれて兼務していただくのが一番良いと思う。
- 今後、23時間15分非常勤講師先生の配置について教えていただきたい。
- 学事課の方で今後、配置を進めるが、基本的には、来年と再来年については今いる人でできるかと思う。ただ、令和6年度以降は、中学校も含めて配置基準が大きく変わる可能性がある。
- 今年度、研究指定校でメリットとデメリット、成果や課題を把握していただいているが、今後も見直しを行うことでこの研究はスムーズに進んでいくのではないか。
- 土日の休日の部活の指導者について何か教えていただきたい。
- 令和5年度からの地域移行については、現在議論をしている。令和4年度後半ぐらいには、一定の形を出せるのではないかとと思う。
- 中学校の先生が小学校の高学年の教科担任をすることについて小中が離れていたり小学校が複数あつたりする場合どの様になるのかももう少し教えて頂きたい。
- 各市町の実情に応じてのところがあり、最終形を示すことは難しいが、私は小だけ私は中だけと縛られるのではなく様々な形の働き方が必要になってくる。
- 交換授業のパターンに、受け持ちの時間数が違うところがあるが良いのか。
- 小学校は時間数を合わせなければいけない文化があるが、中学校はそうでもない。時間数が少ない場合、重い校務分掌を持つといった部分がある。小学校でもこういった考え方は必要と考え、時間数が違うパターンをここに入れている。

### (3) その他について

- 小学校で少人数指導を残していくことはできないのか。

## 5 委員長まとめ

- 1つ目は、持続可能な公立学校をいかにして、つくり上げるかということが、これから求められてくる。柔軟に発想するということがまず重要であり、私たち自身がこれから、いかに頭を柔軟にできるかが大切になる。
- 2つ目は、これまでのようなコンテンツで内容習得ではなく、いかにして、独特な持ち味を生かすかということ、第一に考えていかなければいけない。多様性にいかに柔軟に応じるかということで、学習をいかに個性化できるかということを考えていただきたい。
- 3つ目は、この検討委員会について何年か後にエビデンスベースの検証をすることが重要かと思う。ぜひ、検証をそれぞれの地域ごとにも進めていただき変えるところと継続するところの検証も続けていただきたい。

# 新学習システムの評価・検証に関する調査

## 基礎資料

- 質問紙調査単純集計結果
- 実施要項
- 調査の流れ
- 児童質問紙調査
- 生徒質問紙調査
- 小学校保護者質問紙調査
- 中学校保護者質問紙調査
- 小学校教員質問紙
- 中学校教員質問紙
- 小学校学校質問紙
- 中学校学校質問紙

質問紙調査 単純集計結果

児童		保護者		教員		管理職	生徒			保護者			教員			管理職	合計
小5	小6	小5	小6	小5	小6		中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3		
2844	3013	2593	2733	99	100		1592	1586	1531	1480	1441	1337	49	50	50		
5857		5326		199		575	4709			4258			149			256	21329

基本 情報	実施 形態	調査項目		教科	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	無回答	
		専科教員が担当している教科名		回答数	18	91	98	51	141	183	124	142	38	121		
				全体割合	9.0%	45.7%	49.2%	25.6%	70.9%	92.0%	62.3%	71.4%	19.1%	60.8%		
				小5教員	10.1%	46.5%	53.5%	26.3%	71.7%	91.9%	61.6%	71.7%	15.2%	60.6%		
				小6教員	8.0%	45.0%	45.0%	25.0%	70.0%	92.0%	63.0%	71.0%	23.0%	61.0%		
		調査項目		教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語	未実施	無回答	
		少人数授業をしている教科名		回答数	26	14	102	16	3	4	7	18	86	13		
				全体割合	17.4%	9.4%	68.5%	10.7%	2.0%	2.7%	4.7%	12.1%	57.7%	8.7%		
				中1教員	20.4%	8.2%	69.4%	10.2%	4.1%	6.1%	8.2%	14.3%	69.4%	2.0%		
				中2教員	12.0%	8.0%	62.0%	14.0%	2.0%	2.0%	4.0%	12.0%	58.0%	14.0%		
中3教員	20.0%			12.0%	74.0%	8.0%	0.0%	0.0%	2.0%	10.0%	46.0%	10.0%				
単純分割		回答数	9	4	28	3	0	0	1	7	32					
		全体割合	6.0%	2.7%	18.8%	2.0%	0.0%	0.0%	0.7%	4.7%	21.5%	0				
		中1教員	8.2%	2.0%	22.4%	2.0%	0.0%	0.0%	2.0%	6.1%	26.5%	0				
		中2教員	4.0%	2.0%	12.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	24.0%	0				
		中3教員	6.0%	4.0%	22.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	14.0%	0				
習熟度分割		回答数	1	0	30	0	0	0	0	0	11					
		全体割合	0.7%	0.0%	20.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.4%	0				
		中1教員	0.0%	0.0%	8.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.1%	0				
		中2教員	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	0				
		中3教員	2.0%	0.0%	32.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0				
同室複数		回答数	19	12	48	15	3	4	6	12	47					
		全体割合	12.8%	8.1%	32.2%	10.1%	2.0%	2.7%	4.0%	8.1%	31.5%	0				
		中1教員	14.3%	8.2%	42.9%	10.2%	4.1%	6.1%	6.1%	10.2%	42.9%	0				
		中2教員	8.0%	8.0%	32.0%	14.0%	2.0%	2.0%	4.0%	8.0%	28.0%	0				
		中3教員	16.0%	8.0%	22.0%	6.0%	0.0%	0.0%	2.0%	6.0%	24.0%	0				
調査項目		学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	無回答				
担当している学年のクラス数		回答数	86	94	67	50	24	13	8	3	3					
		全体割合	24.7%	27.0%	19.3%	14.4%	6.9%	3.7%	2.3%	0.9%	0.9%					
		小教割合	29.6%	33.2%	22.6%	11.6%	2.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
		小5教員	27.3%	35.4%	20.2%	15.2%	1.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
		小6教員	32.0%	31.0%	25.0%	8.0%	3.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
		中教割合	18.1%	18.8%	14.8%	18.1%	13.4%	7.4%	5.4%	2.0%	2.0%					
		中1教員	20.4%	18.4%	14.3%	14.3%	16.3%	6.1%	4.1%	4.1%	2.0%					
		中2教員	18.0%	20.0%	14.0%	20.0%	10.0%	8.0%	8.0%	0.0%	2.0%					
中3教員	16.0%	18.0%	16.0%	20.0%	14.0%	8.0%	4.0%	2.0%	2.0%							



児童		保護者		教員		管理職	生徒			保護者			教員			管理職	合計
小5	小6	小5	小6	小5	小6		中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3		
2844	3013	2593	2733	99	100		1592	1586	1531	1480	1441	1337	49	50	50		
5857		5326		199		575	4709			4258			149			256	21329

基本情報	調査項目	児童生徒数	20人以下	21~25	26~30	31~35	36人以上										無回答	
	担当しているクラスの児童生徒数	回答数	18	52	66	103	109											0
		全体割合	5.2%	14.9%	19.0%	29.6%	31.3%											0
		児童割合	6.0%	18.6%	21.1%	29.6%	24.6%											0.0%
		小5児童	9.1%	21.2%	19.2%	28.3%	22.2%											0.0%
		小6児童	3.0%	16.0%	23.0%	31.0%	27.0%											0.0%
		生徒割合	4.0%	10.1%	16.1%	29.5%	40.3%											0.0%
		中1生徒	2.0%	12.2%	12.2%	30.6%	42.9%											0.0%
		中2生徒	6.0%	6.0%	20.0%	26.0%	42.0%											0.0%
		中3生徒	4.0%	12.0%	16.0%	32.0%	36.0%											0.0%
調査項目	時間	21未満	21以上24未満	24以上27未満	27以上												無回答	
1週間あたりの持ち時間	回答数	17	90	75	17												0	
	全体割合	8.5%	45.2%	37.7%	8.5%												0.0%	
	小5教員	10.1%	42.4%	37.4%	10.1%												0.0%	
	小6教員	7.0%	48.0%	38.0%	7.0%												0.0%	
調査項目	時間	15時間未満	15時間以上18時間未満	18時間以上													無回答	
上記のうち自分の担任するクラスの持ち時間	回答数	9	95	95													0.0%	
	全体割合	4.5%	47.7%	47.7%													0.0%	
	小5教員	4.0%	45.5%	50.5%													0.0%	
	小6教員	5.0%	50.0%	45.0%													0.0%	
調査項目	増減	減	同じ	増													無回答	
担当している学年のクラス数の比較 (4年生時との比較)	回答数	39	153	7													0	
	全体割合	19.6%	76.9%	3.5%													0.0%	
	小5教員	20.2%	76.8%	3.0%													0.0%	
	小6教員	19.0%	77.0%	4.0%													0.0%	
調査項目	学級数	知っている	知らない														無回答	
教科担任制 兵庫型教科担任制の認知度	回答数	5944	3635														5	
	全体割合	62.0%	37.9%														0.1%	
	小保割合	62.6%	37.3%														0.1%	
	小5保護者	61.1%	38.8%														0.1%	
	小6保護者	63.9%	36.0%														0.1%	
	中保割合	61.3%	38.7%														0.0%	
	中1保護者	64.2%	35.8%														0.0%	
	中2保護者	60.2%	39.8%														0.0%	
中3保護者	59.5%	40.5%														0.0%		

児童		保護者		教員		管理職	生徒			保護者			教員			管理職	合計
小5	小6	小5	小6	小5	小6		中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3		
2844	3013	2593	2733	99	100		1592	1586	1531	1480	1441	1337	49	50	50		
5857		5326		199		575	4709			4258			149			256	21329

調査項目	評価	よい	どちらかといふほどよい	どちらかといふほどよくない	よくない									無回答	
		回答数	12391	6876	687	174									
全体割合	<b>61.5%</b>	<b>34.1%</b>	<b>3.4%</b>	<b>0.9%</b>										<b>0.1%</b>	
児童割合	<b>63.2%</b>	<b>30.6%</b>	<b>4.7%</b>	<b>1.5%</b>										<b>0.1%</b>	
小5児童	63.4%	30.0%	4.9%	1.6%										0.1%	
小6児童	62.9%	31.1%	4.6%	1.4%										0.0%	
小保割合	<b>58.1%</b>	<b>37.6%</b>	<b>3.4%</b>	<b>0.6%</b>										<b>0.3%</b>	
小5保護者	57.7%	37.4%	3.9%	0.8%										0.2%	
小6保護者	58.5%	37.8%	3.0%	0.3%										0.4%	
生徒割合	<b>65.7%</b>	<b>30.6%</b>	<b>2.7%</b>	<b>0.9%</b>										<b>0.0%</b>	
中1生徒	65.9%	30.2%	3.1%	0.8%										0.0%	
中2生徒	66.3%	30.3%	2.3%	1.1%										0.0%	
中3生徒	65.1%	31.5%	2.6%	0.8%										0.0%	
中保割合	<b>58.8%</b>	<b>38.5%</b>	<b>2.3%</b>	<b>0.3%</b>										<b>0.1%</b>	
中1保護者	58.8%	38.5%	2.3%	0.2%										0.2%	
中2保護者	58.4%	38.9%	2.3%	0.5%										0.0%	
中3保護者	59.2%	38.1%	2.5%	0.2%										0.0%	
調査項目	評価	そう思う	どちらかと思ふほど思う	どちらかと思ふほど思ふ	よくない	わからない								無回答	
教科担任制	他のクラスの担任に教えてもらうことについて	回答数	2917	5119	1345	671	999								132
		全体割合	<b>26.1%</b>	<b>45.8%</b>	<b>12.0%</b>	<b>6.0%</b>	<b>8.9%</b>								<b>1.2%</b>
		児童割合	<b>30.2%</b>	<b>45.4%</b>	<b>16.6%</b>	<b>7.8%</b>	<b>0.0%</b>								<b>0.1%</b>
		小5児童	31.0%	46.1%	15.8%	7.1%	0.0%								0.1%
		小6児童	29.4%	44.8%	17.4%	8.4%	0.0%								0.0%
		小保割合	<b>21.6%</b>	<b>46.2%</b>	<b>7.0%</b>	<b>4.1%</b>	<b>18.8%</b>								<b>2.4%</b>
		小5保護者	21.2%	45.8%	7.3%	3.8%	19.3%								2.7%
	小6保護者	22.0%	46.5%	6.8%	4.3%	18.3%								2.2%	
	分かる授業が増えた	回答数	3471	4751	1186	467	1172								136
		全体割合	<b>31.0%</b>	<b>42.5%</b>	<b>10.6%</b>	<b>4.2%</b>	<b>10.5%</b>								<b>1.2%</b>
		児童割合	<b>40.9%</b>	<b>41.8%</b>	<b>12.6%</b>	<b>4.5%</b>									<b>0.1%</b>
		小5児童	44.1%	40.1%	10.9%	4.7%									0.2%
		小6児童	37.8%	43.5%	14.3%	4.3%									0.1%
		小保割合	<b>20.2%</b>	<b>43.2%</b>	<b>8.4%</b>	<b>3.8%</b>	<b>22.0%</b>								<b>2.4%</b>
小5保護者		18.9%	43.9%	8.3%	3.8%	22.4%								2.6%	
小6保護者	21.5%	42.5%	8.4%	3.7%	21.6%								2.2%		

児童		保護者		教員		管理職	生徒			保護者			教員			管理職	合計
小5	小6	小5	小6	小5	小6		中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3		
2844	3013	2593	2733	99	100		1592	1586	1531	1480	1441	1337	49	50	50		
5857		5326		199		575	4709			4258			149			256	21329

調査項目	評価	そう思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	よくない	わからない									無回答
他のクラスの担任に教えてもらうことについて	回答数	4366	3633	606	356										6
	全体割合	48.7%	40.5%	6.8%	4.0%										0.1%
	生徒割合	52.4%	35.3%	7.4%	4.7%										0.1%
	中1生徒	55.2%	34.1%	7.2%	3.3%										0.1%
	中2生徒	52.1%	36.6%	6.7%	4.5%										0.1%
	中3生徒	49.8%	35.2%	8.4%	6.4%										0.2%
	中保割合	44.6%	46.3%	6.0%	3.1%										0.0%
	中1保護者	47.0%	45.0%	4.9%	3.2%										0.0%
	中2保護者	43.4%	46.7%	6.7%	3.1%										0.0%
	中3保護者	43.2%	47.3%	6.5%	3.1%										0.0%
児童の学習への理解が深まる	回答数	1078	2301	446	201	1172									128
	小保割合	20.2%	43.2%	8.4%	3.8%	22.0%									2.4%
	小5保護者	18.9%	43.9%	8.3%	3.8%	22.4%									2.6%
	小6保護者	21.5%	42.5%	8.4%	3.7%	21.6%									2.2%
児童が発言や質問がしやすくなる	回答数	628	1800	1025	407	1336									130
	小保割合	11.8%	33.8%	19.2%	7.6%	25.1%									2.4%
	小5保護者	10.5%	32.7%	20.1%	8.1%	25.8%									2.8%
	小6保護者	13.0%	34.8%	18.4%	7.2%	24.4%									2.1%
児童が気軽に話せる先生が増える	回答数	2850	1964	148	64	192									108
	小保割合	53.5%	36.9%	2.8%	1.2%	3.6%									2.0%
	小5保護者	54.9%	35.1%	2.9%	1.0%	3.9%									2.2%
	小6保護者	52.2%	38.6%	2.7%	1.4%	3.4%									1.9%
児童のことをよく分かってもらえる	回答数	1889	2237	365	182	536									117
	小保割合	35.5%	42.0%	6.9%	3.4%	10.1%									2.2%
	小5保護者	36.3%	40.0%	7.4%	3.6%	10.2%									2.5%
	小6保護者	34.7%	43.9%	6.3%	3.2%	9.9%									1.9%
調査項目	内容	指導方法工夫改善	教材開発	系統的な学習指導	負担軽減	多面的な児童理解									無回答
小学校教員の実践内容（教科担任制）	回答数	133	144	101	133	177									0
	小教員割合	66.8%	72.4%	50.8%	66.8%	88.9%									0.0%
	小5教員	62.6%	68.7%	43.4%	63.6%	88.9%									0.0%
	小6教員	71.0%	76.0%	58.0%	70.0%	89.0%									0.0%

児童		保護者		教員		管理職	生徒			保護者			教員			管理職	合計
小5	小6	小5	小6	小5	小6		中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3		
2844	3013	2593	2733	99	100		1592	1586	1531	1480	1441	1337	49	50	50		
5857		5326		199		575	4709			4258			149			256	21329

専科指導	調査項目	教科	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	無回答
	専門の先生により詳しく教えてもらいたい(もらいたかった・ふさわしい) 教科【第1希望】	回答数	1120	559	1370	3631	1193	1480	745	486	1289	4769	24
全体割合		6.7%	3.4%	8.2%	21.8%	7.2%	8.9%	4.5%	2.9%	7.7%	28.6%	0.1%	
児童割合		7.3%	4.7%	11.4%	17.1%	10.1%	7.3%	8.4%	6.0%	15.7%	11.9%	0.1%	
小5児童		6.4%	4.7%	8.6%	15.6%	10.9%	7.2%	8.6%	8.2%	18.5%	11.0%	0.2%	
小6児童		8.1%	4.6%	14.0%	18.6%	9.3%	7.3%	8.2%	3.9%	13.1%	12.8%	0.1%	
小保割合		7.7%	2.4%	1.2%	32.4%	2.7%	4.9%	0.9%	0.6%	1.6%	45.6%	0.1%	
小5保護者		7.7%	2.3%	1.0%	32.2%	2.7%	5.2%	0.8%	0.7%	1.6%	45.6%	0.1%	
小6保護者		7.6%	2.4%	1.3%	32.6%	2.7%	4.5%	1.0%	0.5%	1.5%	45.6%	0.1%	
小教員割合		1.0%	0.0%	1.0%	0.0%	5.5%	58.8%	8.0%	3.0%	1.5%	21.1%	0.0%	
小5教員		1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	56.6%	8.1%	3.0%	1.0%	25.3%	0.0%	
小6教員		1.0%	0.0%	2.0%	0.0%	6.0%	61.0%	8.0%	3.0%	2.0%	17.0%	0.0%	
生徒割合		6.0%	3.4%	13.5%	19.0%	8.8%	5.8%	3.8%	2.0%	6.0%	31.5%	0.3%	
中1生徒		6.5%	4.8%	17.5%	19.7%	9.2%	6.4%	3.8%	2.9%	6.3%	22.6%	0.3%	
中2生徒		6.5%	2.6%	11.3%	19.9%	9.3%	5.2%	3.8%	1.5%	5.7%	33.9%	0.4%	
中3生徒		5.1%	2.7%	11.7%	17.4%	7.8%	5.8%	3.9%	1.5%	5.9%	38.3%	0.1%	
小管理職		0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	6.1%	70.3%	1.4%	0.9%	0.0%	20.5%	0.0%	
調査項目		教科	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	無回答
専門の先生により詳しく教えてもらいたい(もらいたかった・ふさわしい) 教科【第2希望】	回答数	1285	781	1428	2699	2217	2049	1364	1047	1226	2527	43	
	全体割合	7.7%	4.7%	8.6%	16.2%	13.3%	12.3%	8.2%	6.3%	7.4%	15.2%	0.3%	
	児童割合	6.1%	5.4%	11.1%	11.7%	12.9%	11.1%	10.8%	9.7%	10.0%	11.0%	0.2%	
	小5児童	5.9%	5.0%	9.1%	10.8%	11.7%	10.8%	12.1%	12.3%	10.4%	11.6%	0.2%	
	小6児童	6.4%	5.7%	13.0%	12.5%	14.1%	11.4%	9.6%	7.2%	9.6%	10.4%	0.1%	
	小保割合	10.0%	4.8%	2.8%	23.7%	11.5%	14.8%	4.1%	2.8%	6.2%	19.2%	0.3%	
	小5保護者	10.3%	5.1%	2.7%	22.3%	11.7%	15.2%	4.7%	3.2%	5.9%	18.8%	0.2%	
	小6保護者	9.8%	4.5%	2.9%	25.1%	11.2%	14.3%	3.5%	2.3%	6.5%	19.5%	0.4%	
	小教員割合	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	15.1%	28.1%	22.1%	12.6%	1.5%	18.6%	0.0%	
	小5教員	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	15.2%	30.3%	23.2%	10.1%	2.0%	17.2%	0.0%	
	小6教員	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	15.0%	26.0%	21.0%	15.0%	1.0%	20.0%	0.0%	
	生徒割合	8.3%	4.5%	13.2%	15.9%	15.7%	9.4%	6.2%	5.1%	6.4%	14.9%	0.4%	
	中1生徒	8.2%	4.3%	13.6%	13.8%	13.6%	11.1%	7.5%	6.2%	6.5%	14.9%	0.3%	
	中2生徒	9.1%	4.1%	14.8%	16.8%	15.4%	8.1%	5.2%	5.2%	6.8%	13.9%	0.4%	
	中3生徒	7.5%	5.0%	11.2%	17.2%	18.2%	9.0%	5.9%	3.9%	5.9%	15.9%	0.4%	
	小管理職	0.3%	0.2%	0.3%	0.3%	14.1%	19.7%	30.8%	11.3%	0.7%	22.3%	0.0%	

児童		保護者		教員		管理職	生徒			保護者			教員			管理職	合計
小5	小6	小5	小6	小5	小6		中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3		
2844	3013	2593	2733	99	100			1592	1586	1531	1480	1441	1337	49	50		
5857		5326		199		575	4709			4258			149			256	21329

専 科 指 導	調査項目	教科	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	無回答
	専門の先生により詳しく教えてもらいたい（もらいたかった・ふさわしい） 教科【第3希望】	回答数	1542	893	1439	1462	2279	1676	1464	1380	1448	2957	126
		全体割合	9.3%	5.4%	8.6%	8.8%	13.7%	10.1%	8.8%	8.3%	8.7%	17.7%	0.8%
		児童割合	7.3%	5.7%	8.4%	9.2%	10.8%	9.9%	9.8%	10.8%	10.6%	16.9%	0.6%
		小5児童	7.0%	6.8%	7.6%	9.1%	9.5%	9.4%	10.6%	12.4%	10.8%	16.0%	0.9%
		小6児童	7.5%	4.7%	9.1%	9.3%	12.0%	10.4%	9.1%	9.4%	10.4%	17.7%	0.4%
		小保割合	11.4%	6.3%	6.2%	7.0%	15.2%	11.8%	7.3%	5.0%	8.6%	20.3%	1.1%
		小5保護者	10.3%	6.1%	6.4%	7.4%	14.0%	12.1%	7.8%	5.6%	9.3%	20.2%	0.9%
		小6保護者	12.4%	6.5%	6.0%	6.7%	16.3%	11.4%	6.9%	4.4%	7.9%	20.3%	1.2%
		小教員割合	1.0%	0.5%	1.0%	1.5%	24.1%	5.5%	18.6%	19.6%	4.0%	23.6%	0.5%
		小5教員	1.0%	0.0%	2.0%	2.0%	28.3%	7.1%	17.2%	20.2%	2.0%	20.2%	0.0%
		小6教員	1.0%	1.0%	0.0%	1.0%	20.0%	4.0%	20.0%	19.0%	6.0%	27.0%	1.0%
		生徒割合	10.8%	4.6%	13.1%	11.5%	14.4%	9.0%	7.9%	7.0%	7.2%	13.8%	0.7%
		中1生徒	10.6%	4.3%	12.7%	10.3%	11.4%	10.1%	7.9%	8.5%	8.7%	14.8%	0.7%
		中2生徒	11.9%	4.8%	12.4%	12.5%	15.5%	9.3%	7.1%	6.1%	6.4%	13.2%	0.8%
中3生徒	9.8%	4.8%	14.2%	11.8%	16.3%	7.5%	8.6%	6.5%	6.5%	13.5%	0.5%		
小管理職	0.2%	1.0%	0.2%	0.7%	19.5%	6.4%	16.2%	19.0%	3.5%	33.4%	0.0%		

児童		保護者		教員		管理職	生徒			保護者			教員			管理職	合計
小5	小6	小5	小6	小5	小6		中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3		
2844	3013	2593	2733	99	100		1592	1586	1531	1480	1441	1337	49	50	50		
5857		5326		199		575	4709			4258			149			256	21329

調査項目	内容	指導方法工夫改善	教材開発	系統的な学習指導	負担軽減	多面的な児童理解							無回答
		小学校教員の実践内容（少人数授業）	回答数	162	129	89	137	171					
	小教員割合	81.4%	64.8%	44.7%	68.8%	85.9%							0.0%
	小5教員	83.8%	60.6%	39.4%	66.7%	85.9%							0.0%
	小6教員	79.0%	69.0%	50.0%	71.0%	86.0%							0.0%
調査項目	内容	つまずき対応	発言機会	教員間協力	共通理解	多面的な児童理解							無回答
中学校教員の実践内容（少人数授業）	回答数	118	78	57	87	85							0
	中教員割合	79.2%	52.3%	38.3%	58.4%	57.0%							0.0%
	中1教員	73.5%	49.0%	36.7%	61.2%	57.1%							0.0%
	中2教員	82.0%	52.0%	40.0%	58.0%	56.0%							0.0%
	中3教員	82.0%	56.0%	38.0%	56.0%	58.0%							0.0%
調査項目	評価	よい	どちらかと言えばよい	どちらかと言えばよい	よくない								無回答
少人数授業 少人数・同室複数指導で勉強することについて	回答数	12670	6134	923	392								31
	全体割合	62.9%	30.4%	4.6%	1.9%								0.2%
	児童割合	53.7%	33.4%	8.8%	4.0%								0.2%
	小5児童	54.4%	33.2%	8.6%	3.7%								0.1%
	小6児童	53.1%	33.6%	8.9%	4.2%								0.2%
	小保割合	72.1%	26.2%	1.1%	0.3%								0.2%
	小5保護者	71.9%	26.2%	1.3%	0.3%								0.3%
	小6保護者	72.2%	26.3%	1.0%	0.3%								0.2%
	生徒割合	54.2%	36.4%	6.4%	2.9%								0.1%
	中1生徒	52.9%	36.9%	7.2%	2.8%								0.2%
	中2生徒	53.5%	35.8%	7.3%	3.3%								0.1%
	中3生徒	56.2%	36.5%	4.7%	2.5%								0.1%
	中保割合	73.6%	25.1%	1.2%	0.2%								0.0%
	中1保護者	75.7%	23.1%	1.1%	0.1%								0.0%
	中2保護者	73.1%	25.9%	0.9%	0.1%								0.0%
	中3保護者	71.8%	26.3%	1.5%	0.2%								0.1%
調査項目	方法	単純	習熟度										無回答
少人数の分割方法（希望）	回答数	2214	6733										20
	全体割合	24.7%	75.1%										0.2%
	生徒割合	30.2%	69.6%										0.3%
	中1生徒	33.5%	66.3%										0.2%
	中2生徒	30.4%	69.3%										0.3%
	中3生徒	26.5%	73.3%										0.3%
	中保割合	18.6%	81.2%										0.2%
	中1保護者	20.7%	79.1%										0.2%
中2保護者	17.0%	82.9%										0.1%	
中3保護者	18.1%	81.7%										0.2%	

児童		保護者		教員		管理職	生徒			保護者			教員			管理職	合計
小5	小6	小5	小6	小5	小6		中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3		
2844	3013	2593	2733	99	100		1592	1586	1531	1480	1441	1337	49	50	50		
5857		5326		199		575	4709			4258			149			256	21329

調査項目	評価	そう思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	よくない	わからない								無回答
興味ややる気が高まった	回答数	4011	4729	1242	600	466								135
	全体割合	35.9%	42.3%	11.1%	5.4%	4.2%								1.2%
	児童割合	28.3%	43.9%	18.7%	8.9%									0.2%
	小5児童	30.6%	44.2%	17.5%	7.5%									0.1%
	小6児童	26.1%	43.6%	19.9%	10.1%									0.3%
	小保割合	44.2%	40.5%	2.7%	1.5%	8.7%								2.3%
	小5保護者	43.8%	40.8%	2.7%	1.7%	8.4%								2.5%
	小6保護者	44.6%	40.2%	2.7%	1.4%	9.1%								2.1%
授業中に発表や質問がしやすくなった	回答数	6830	5687	1894	1088	260								133
	全体割合	43.0%	35.8%	11.9%	6.8%	1.6%								0.8%
	児童割合	33.1%	33.2%	20.6%	13.0%	0.0%								0.2%
	小5児童	33.7%	33.5%	20.1%	12.5%	0.0%								0.1%
	小6児童	32.5%	32.9%	21.0%	13.4%	0.0%								0.3%
	小保割合	53.9%	35.0%	3.0%	1.0%	4.9%								2.2%
	小5保護者	53.7%	34.2%	3.2%	1.0%	5.4%								2.5%
	小6保護者	54.2%	35.7%	2.9%	1.0%	4.4%								1.9%
	生徒割合	42.9%	39.9%	11.2%	5.8%	0.0%								0.1%
	中1生徒	44.3%	38.9%	11.6%	5.2%	0.0%								0.1%
	中2生徒	41.4%	40.3%	11.7%	6.6%	0.0%								0.1%
中3生徒	43.1%	40.6%	10.3%	5.8%	0.0%								0.2%	
児童の学習への理解が深まる	回答数	3101	1812	84	31	183								115
	全体割合	58.2%	34.0%	1.6%	0.6%	3.4%								2.2%
	小5保護者	58.7%	33.4%	1.5%	0.4%	3.4%								2.5%
	小6保護者	57.7%	34.6%	1.6%	0.8%	3.4%								1.8%
児童が気軽に話せる先生が増える	回答数	2791	2009	130	42	237								117
	全体割合	52.4%	37.7%	2.4%	0.8%	4.4%								2.2%
	小5保護者	53.8%	36.3%	2.2%	0.8%	4.2%								2.6%
	小6保護者	51.1%	39.0%	2.6%	0.8%	4.6%								1.8%
児童のことをよく分かってもらえる	回答数	2933	1837	102	56	279								119
	全体割合	55.1%	34.5%	1.9%	1.1%	5.2%								2.2%
	小5保護者	55.2%	34.0%	2.2%	0.9%	5.0%								2.6%
	小6保護者	54.9%	34.9%	1.6%	1.2%	5.5%								1.9%

児童		保護者		教員		管理職	生徒			保護者			教員			管理職	合計
小5	小6	小5	小6	小5	小6		中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3		
2844	3013	2593	2733	99	100		1592	1586	1531	1480	1441	1337	49	50	50		
5857		5326		199		575	4709			4258			149			256	21329

調査項目	評価	丁度良い	多い方が良い	少ない方が良い	どちらともいえない									無回答			
3 5 人 学 級 編 制  今のクラスの人数について	回答数	10350	1264	6949	1923											12	
	全体割合	50.5%	6.2%	33.9%	9.4%												0.1%
	児童割合	55.6%	10.2%	24.8%	9.3%												0.1%
	小5児童	51.7%	12.2%	26.3%	9.8%												0.0%
	小6児童	59.4%	8.4%	23.4%	8.7%												0.1%
	小保割合	43.1%	2.7%	46.4%	7.7%												0.1%
	小5保護者	42.0%	3.0%	46.6%	8.2%												0.2%
	小6保護者	44.2%	2.4%	46.2%	7.1%												0.0%
	生徒割合	59.3%	7.5%	22.2%	11.0%												0.1%
	中1生徒	54.8%	7.5%	26.5%	11.1%												0.1%
	中2生徒	60.9%	6.9%	20.8%	11.3%												0.0%
	中3生徒	62.2%	7.9%	19.1%	10.7%												0.1%
	中保割合	44.2%	3.9%	41.5%	10.4%												0.0%
	中1保護者	38.4%	2.8%	49.0%	9.8%												0.1%
	中2保護者	45.6%	4.4%	38.9%	11.2%												0.0%
	中3保護者	49.0%	4.6%	36.1%	10.3%												0.0%
	小教員割合	31.2%	0.5%	65.8%	2.5%												0.0%
	小5教員	29.3%	1.0%	66.7%	3.0%												0.0%
	小6教員	33.0%	0.0%	65.0%	2.0%												0.0%
	中教員割合	40.9%	3.4%	53.7%	2.0%												0.0%
中1教員	38.8%	4.1%	57.1%	0.0%												0.0%	
中2教員	40.0%	2.0%	54.0%	4.0%												0.0%	
中3教員	44.0%	4.0%	50.0%	2.0%												0.0%	



児童		保護者		教員		管理職	生徒			保護者			教員			管理職	合計
小5	小6	小5	小6	小5	小6		中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3		
2844	3013	2593	2733	99	100		1592	1586	1531	1480	1441	1337	49	50	50		
5857		5326		199		575	4709			4258			149			256	21329

調査項目	人数	20人以下	30人くらい	35人くらい	40人以上										無回答
		回答数	4378	11993	4245	682									
全体割合	<b>20.5%</b>	<b>56.2%</b>	<b>19.9%</b>	<b>3.2%</b>											<b>0.1%</b>
児童割合	<b>22.2%</b>	<b>47.4%</b>	<b>23.9%</b>	<b>6.4%</b>											<b>0.2%</b>
5年児童	24.1%	46.5%	22.8%	6.5%											0.2%
6年児童	20.4%	48.3%	24.9%	6.2%											0.2%
小保割合	<b>23.9%</b>	<b>66.5%</b>	<b>9.2%</b>	<b>0.2%</b>											<b>0.2%</b>
5年保護者	25.0%	66.1%	8.6%	0.1%											0.2%
6年保護者	22.9%	66.8%	9.8%	0.3%											0.1%
生徒割合	<b>15.1%</b>	<b>46.2%</b>	<b>32.8%</b>	<b>5.7%</b>											<b>0.2%</b>
1年生徒	16.7%	44.9%	32.0%	6.2%											0.2%
2年生徒	14.1%	47.2%	31.9%	6.6%											0.3%
3年生徒	14.6%	46.5%	34.7%	4.2%											0.1%
中保割合	<b>17.1%</b>	<b>64.0%</b>	<b>18.0%</b>	<b>0.7%</b>											<b>0.1%</b>
1年保護者	18.6%	63.1%	17.8%	0.4%											0.1%
2年保護者	16.9%	64.0%	18.1%	0.9%											0.1%
3年保護者	15.6%	65.1%	18.2%	0.9%											0.1%
小教員割合	<b>41.7%</b>	<b>57.3%</b>	<b>1.0%</b>	<b>0.0%</b>											<b>0.0%</b>
5年教員	44.4%	54.5%	1.0%	0.0%											0.0%
6年教員	39.0%	60.0%	1.0%	0.0%											0.0%
中教員割合	<b>18.8%</b>	<b>74.5%</b>	<b>6.7%</b>	<b>0.0%</b>											<b>0.0%</b>
1年教員	12.2%	79.6%	8.2%	0.0%											0.0%
2年教員	24.0%	68.0%	8.0%	0.0%											0.0%
3年教員	20.0%	76.0%	4.0%	0.0%											0.0%
小管理職	<b>35.8%</b>	<b>62.1%</b>	<b>2.1%</b>	<b>0.0%</b>											<b>0.0%</b>
中管理職	<b>18.4%</b>	<b>74.6%</b>	<b>7.0%</b>	<b>0.0%</b>											<b>0.0%</b>
調査項目	方法	少→全35	少→①35	35→少	実情に応じて										無回答
あり方	回答数	204	9	38	154										0
	全体割合	<b>50.4%</b>	<b>2.2%</b>	<b>9.4%</b>	<b>38.0%</b>										<b>0.0%</b>
	中教員割合	<b>52.3%</b>	<b>1.3%</b>	<b>6.0%</b>	<b>40.3%</b>										<b>0.0%</b>
	中1教員	57.1%	2.0%	10.2%	30.6%										0.0%
	中2教員	50.0%	0.0%	6.0%	44.0%										0.0%
	中3教員	50.0%	2.0%	2.0%	46.0%										0.0%
	中管理職	<b>49.2%</b>	<b>2.7%</b>	<b>11.3%</b>	<b>36.7%</b>										<b>0.0%</b>

児童		保護者		教員		管理職	生徒			保護者			教員			管理職	合計
小5	小6	小5	小6	小5	小6		中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3		
2844	3013	2593	2733	99	100		1592	1586	1531	1480	1441	1337	49	50	50		
5857		5326		199		575	4709			4258			149			256	21329

あり方	調査項目	あり方	継続	盲聾会授業交換	学校の実情	すべきでない											無回答	
	国による教科担任制導入後の本県の教科担任制のあり方	回答数	137	143	293	2												0
		小管理職	23.8%	24.9%	51.0%	0.3%												0.0%
	調査項目	あり方	高少人数	高少・専	高少専補	指少人数	指少・専	指少人専補										無回答
	国による35人学級編制が6年生まで完了したのちの加配教員活用の在り方	回答数	31	56	79	27	76	306										0
		小管理職	5.4%	9.7%	13.7%	4.7%	13.2%	53.2%										0.0%
調査項目	あり方	国に合わせて	出来るだけ早く														無回答	
5・6年生への35人学級編制導入時期	回答数	116	459														0	
	小管理職	20.2%	79.8%														0.0%	
学校運営上の課題	調査項目	課題	加配教員	固定化	34年生	56年生											その他	
	学校運営上の課題（小学校）	回答数	112	242	379	346												108
		小管理職	19.5%	42.1%	65.9%	60.2%												0.0%
学校運営上の課題	調査項目	課題	加配教員	教科のバランス	学級担任	業務負担											その他	
	学校運営上の課題（中学校）	回答数	71	72	199	98												45
		中管理職	27.7%	28.1%	77.7%	38.3%												0.0%

新学習システムの評価・検証に関する調査 実施要項

1 調査の目的

新学習システムの評価・検証を行うため、管理職、学級担任、児童生徒、保護者を対象とした質問紙調査を実施し、新学習システムのあり方を検討するための資料とする。

2 調査時期

令和3年7月

3 調査協力校（神戸市を除く）

- (1) 児童質問紙【小学校5～6年生】100校
  - ・各市町2校（大規模市は4校）を抽出 ※各学年1クラスで実施
  - ・抽出にあたっては、学校規模等のバランスに配慮
- (2) 生徒質問紙【中学校1～3年生】50校
  - ・各市町1校（大規模市は2校）を抽出 ※各学年1クラスで実施
- (3) 保護者質問紙【児童生徒質問紙を実施したクラスの保護者】
- (4) 教員質問紙【児童生徒質問紙を実施したクラスの学級担任】
- (5) 学校質問紙【小・中・義務教育学校の管理職】全校

4 調査事項

- (1) 児童質問紙、生徒質問紙、保護者質問紙
  - ・「兵庫型教科担任制」の推進による学習や生活に関する意識等
  - ・適切な学級規模等、学習集団に対する意識等
- (2) 教員質問紙
  - ・新学習システムによる学習指導や児童生徒への学力・生活面の影響等について
- (3) 学校質問紙
  - ・新学習システムに関する学校運営や指導体制等について

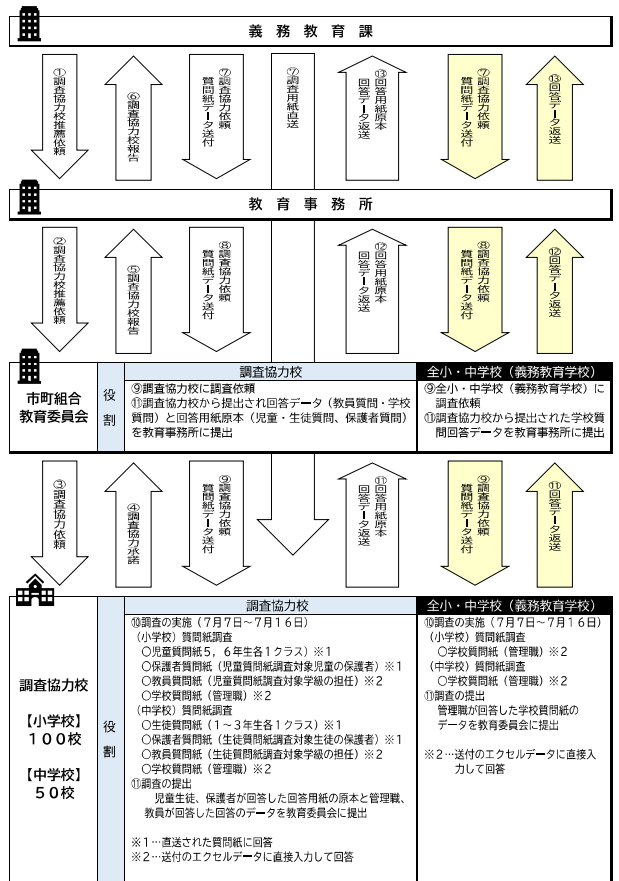
5 提出について

原本をそのまま提出する ※集計作業は事務局において実施する。

6 その他

上記の内容について、義務教育学校においては児童質問紙を前期課程、生徒質問紙を後期課程で実施する。

新学習システムの評価・検証に関する調査の流れ



児童質問紙調査

この質問紙の回答は機械で読み取ります。濃く丁寧な字で枠からはみ出ないように記入してください。

この調査は、他のクラスの担任の先生に教えてもらうこと、少ない人数で勉強したり、教室に2人以上の先生がいて勉強したりすること、1クラスあたりの人数のことについて、小学校5、6年生のみなのですが、どのように思っているかを調べます。（皆さんの成績には関係しません）ご協力をお願いします。

次の質問について、あてはまることを選び、右の回答欄にカタカナで記入してください。

- 1 他のクラスの担任の先生に教えてもらうことについて、質問に答えてください。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---
- 2 他のクラスの担任の先生に教えてもらって、勉強への興味ややる気が高くなったと思いますか。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---
- 3 他のクラスの担任の先生に教えてもらって、よく分かる授業がふえたと思いますか。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---
- 4 専門の先生に、より詳しく教えてもらいたい教科の順番を上から3つ選んでください。（すでに教えてもらっている教科もふくみます）
 

1番	2番	3番
ア 国語	イ 書写	ウ 社会
エ 算数	オ 理科	カ 音楽
キ 図工	ク 家庭	ケ 体育
コ 外国語（英語）		

II クラスを2つのグループに分けて少ない人数で勉強したり、教室に2人以上の先生がいて勉強したりするなどのかたちで勉強することについて、質問に答えてください。

- 1 このかたちで勉強することについて、どう思いますか。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---
- 2 このかたちで勉強して、勉強への興味ややる気が高くなったと思いますか。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---
- 3 このかたちで勉強して、授業中に発表や質問がしやすくなったと思いますか。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

III クラスの人数について、質問に答えてください。

- 1 今のあなたのクラスの人数のことを、どう思いますか。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---
- 2 クラスの人数は、どれくらいが良いと思いますか。あなたの考えに一番近いもの一つを選んでください。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

IV 他のクラスの担任の先生に教えてもらうこと、少ない人数で勉強したり、教室に2人以上の先生がいて勉強したりすること、1クラスあたりの人数のことについて、意見があれば自由に書いてください。（自由記述）

生徒質問紙調査

この質問紙の回答は機械で読み取ります。濃く丁寧な字で枠からはみ出ないように記入してください。

この調査は、小学生の時に他の担任の先生に教えてもらったこと、少ない人数で勉強したり、教室に2人以上の先生がいて勉強したりすること、クラスの人数のことについて、中学生のみなのですが、どのように思っているかを調べます。（皆さんの成績には関係しません）ご協力をお願いします。

次の質問について、あてはまることを選び、右の回答欄にカタカナで記入してください。

- I 小学校5、6年生の時に、他の担任の先生に勉強を教えてもらったことについて、質問に答えてください。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---
- 2 小学校の5、6年生の時に担任の先生以外のいろいろな先生から勉強を教えてもらうことは、中学生になって教科によって先生が変わることに、早く慣れることにつながるとは思いますか。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---
- 3 小学校の5、6年生の時に、専門の先生に、より詳しく教えてもらった教科の順番を上から3つ選んでください。（実際に教えてもらった教科もかきみます）
 

1番	2番	3番
ア 国語	イ 書写	ウ 社会
エ 算数	オ 理科	カ 音楽
キ 図工	ク 家庭	ケ 体育
コ 外国語（英語）		

II クラスを2つのグループに分けて少ない人数で勉強したり、1つの教室に2人以上の先生がいて勉強したりするなどのかたちで勉強することについて、質問に答えてください。

- 1 このかたちで勉強することについて、どう思いますか。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---
- 2 数学で、クラスを2つに分けて少ない人数で勉強する場合は、どのような分け方が良いと思いますか。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---
- 3 このかたちで勉強して、授業中に発表や質問がしやすくなったと思いますか。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

III クラスの人数について、質問に答えてください。

- 1 今のあなたのクラスの人数のことを、どう思いますか。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---
- 2 クラスの人数は、どれくらいが良いと思いますか。あなたの考えに一番近いもの一つを選んでください。
 

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

IV クラスを2つのグループに分けて少ない人数で勉強したり、1つの教室に2人以上の先生がいて勉強したりするなどのかたちで勉強することについて意見があれば自由に書いてください。（自由記述）

## 小学校保護者質問紙調査

学校名	お子様の学年
-----	--------

※この質問用紙の回答は機械で読み取ります。濃く丁寧な字で枠からはみ出ないように記入をお願いします。

保護者の皆様へ  
このアンケートは、兵庫県で実施している、小学校3、4年生の35人学級編制や小学校5、6年生の「兵庫県教科担任制」などの新学習システムの評価・検証を行い、今後の推進内容の参考にするための調査です。お手数をおかけしますが、ご協力をお願いします。なお、回答いただきました調査票は、学校へ提出いたします。

次の質問について、あてはまることを選び、右の回答欄にカタカナで記入してください。

I 「兵庫県教科担任制」について、質問に答えてください。

1 兵庫県で、小学校5、6年生を対象に、他のクラスの担任が授業を担当する教科担任制と、少ない人数で学習したり複数の教員で学習したりする少人数授業を組み合わせた「兵庫県教科担任制」を実施していることについてご存じですか。  
ア 知っている イ 知らない

2 他のクラスの担任が授業を担当することをどう思いますか。1つ選んでください。  
ア よい イ どちらかといえばよい ウ どちらかといえばよくない エ よくない

3 他のクラスの担任が授業を担当することで考えられる効果についてどう思いますか。①～⑤について当てはまるものを1つ選んでください。  
① 児童の学習意欲が高まる ② 児童の学習への理解が深まる  
③ 児童が発言や質問をしやすくなる ④ 児童が気軽に話せる先生がふえる  
⑤ 児童のことをよく分かっている  
①～⑤それぞれについて  
ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ どちらかといえばそう思わない  
エ そう思わない オ わからない

4 少ない人数で学習したり複数の教員で学習したりする少人数授業をどう思いますか。  
ア よい イ どちらかといえばよい ウ どちらかといえばよくない エ よくない

5 少ない人数で学習したり複数の教員で学習したりする少人数授業をすることで考えられる効果についてどう思いますか。①～⑤について当てはまるものを1つ選んでください。  
① 児童の学習意欲が高まる ② 児童の学習への理解が深まる  
③ 児童が発言や質問をしやすくなる ④ 児童が気軽に話せる先生がふえる  
⑤ 児童のことをよく分かっている  
①～⑤それぞれについて  
ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ どちらかといえばそう思わない  
エ そう思わない オ わからない

II 専科教員により詳しく教えてもらいたい教科の順に3つ選んでください。  
(すでに教えてもらっている教科もふくみます)  
ア 国語 イ 書写 ウ 社会 エ 算数 オ 理科 カ 音楽  
キ 図工 ク 家庭 ケ 体育 コ 外国語(英語)

III クラスの人数について、質問に答えてください。  
1 今のお子様のクラスの人数のことを、あなたはどう思いますか。  
ア 今の人数でちょうどよい イ 今の人数より多い方がいい ウ 今の人数より少ない方がいい エ どちらともいえない

2 クラスの人数は、どれくらいが良いと思いますか。あなたの考えに一番近いものを一つ選んでください。  
ア 20人以下 イ 30人くらい ウ 35人くらい エ 40人以上

IV 小学校における教科担任制・35人学級編制・少人数授業についてご意見があればお書きください。(自由記述)

## 中学校保護者質問紙調査

学校名	お子様の学年
-----	--------

※この質問用紙の回答は機械で読み取ります。濃く丁寧な字で枠からはみ出ないように記入をお願いします。

保護者の皆様へ  
このアンケートは、兵庫県で実施している、小学校5、6年生の「兵庫県教科担任制」や中学校の少人数授業などの新学習システムの評価・検証を行い、今後の推進内容の参考にするための調査です。お手数をおかけしますが、ご協力をお願いします。なお、回答いただきました調査票は、学校へ提出いたします。

次の質問について、あてはまることを選び、右の回答欄にカタカナで記入してください。

I 「兵庫県教科担任制」について、質問に答えてください。

1 兵庫県で、小学校5、6年生を対象に、他のクラスの担任が授業を担当する教科担任制と、少ない人数で学習したり複数の教員で学習したりする少人数授業を組み合わせた「兵庫県教科担任制」を実施していることについてご存じですか。  
ア 知っている イ 知らない

2 他のクラスの担任が授業を担当することをどう思いますか。1つ選んでください。  
ア よい イ どちらかといえばよい ウ どちらかといえばよくない エ よくない

3 小学校5、6年生で他のクラスの担任が授業を担当することにより、中学生になって、教科によって先生が変わることに、早く慣れることにつながると思いますか。  
ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ どちらかといえばそう思わない エ そう思わない

4 少ない人数で学習したり複数の教員で学習したりする少人数授業をどう思いますか。  
ア よい イ どちらかといえばよい ウ どちらかといえばよくない エ よくない

5 数学でクラスを2つに分けて少ない人数で勉強する場合は、どのような分け方が良いと思いますか。  
ア 出席番号の前半と後半など、勉強の理解度とは関係のない分け方  
イ 標準コースと基礎コースなど、勉強の理解度に応じた分け方

II クラスの人数について、質問に答えてください。  
1 今のお子様のクラスの人数のことを、あなたはどう思いますか。  
ア 今の人数でちょうどよい イ 今の人数より多い方がいい ウ 今の人数より少ない方がいい エ どちらともいえない

2 クラスの人数は、どれくらいが良いと思いますか。あなたの考えに一番近いものを一つ選んでください。  
ア 20人以下 イ 30人くらい ウ 35人くらい エ 40人以上

III 小学校における教科担任制・35人学級編制・少人数授業についてご意見があればお書きください。(自由記述)

## 小学校教員質問紙

学校名	担当学年
-----	------

このアンケートは、本県で加配教員を活用して実施している、小学校3、4年生の35人学級編制や小学校5、6年生の「兵庫県教科担任制」などの新学習システムの評価・検証を行い、今後の推進内容の参考にするための調査です。お手数をおかけしますが、ご協力をお願いします。

のセルに回答をお願いします。

I 担当している学年の状況について、質問に答えてください。

1 現在、あなた以外の教員が教科等の担任をしている教科をすべて選んでください。

国語	書写	社会	算数	理科
音楽	図工	家庭	体育	外国語

2 あなたが、担当している学年のクラス数、学級担任をしているクラスの人数、週あたりの持ち時間及び自分の担任するクラスの持ち時間は何時間ですか。

① 学年のクラス数	クラス
② 学級担任をしているクラスの人数	人
③ 1週間当たりの授業持ち時間	時間
④ ③のうち自分の担任するクラスの持ち時間	時間

3 あなたが担当している学年のクラス数は、4年生の時と比べると、どうなっていますか。  
右のプルダウンから選んでください

II 兵庫県教科担任制について、質問に答えてください。

1 教科担任制について、あなたの実践の内容として、あてはまるものを全て選んでください。

教員の専門性を発揮して、指導方法を工夫・改善をしている
教材研究を深化させ、児童の興味・関心に応じた教材開発をしている
他学年の学習内容を踏まえた系統的な学習指導ができています
指導する教科数が減ることにより、負担軽減を図ることができています
他のクラスの児童にも積極的に関わることで、多面的な児童理解ができています

2 少人数授業について、あなたの実践の内容として、あてはまるものを全て選んでください。

児童のつまずきを早期に発見し、対応できている
授業中に、一人一人の児童に発言の機会を多く与えている
教員間で協力して、創意工夫した魅力ある授業や分かる授業を創造している
学習進度や指導形態等について、教員間で共通理解を図っている
多くの教員が関わることで、多面的な児童理解ができています

## III 専科教員による授業がふさわしいと思う教科の順に3つ選んでください。

右のプルダウンから選んでください。

1番
2番
3番

【選択肢】  
国語、書写、社会、算数、理科、音楽、図工、家庭、体育、外国語

IV クラスの人数について、質問に答えてください。

1 今の担任しているクラスの人数のことを、どう思いますか。  
右のプルダウンから選んでください。

2 クラスの人数は、どれくらいが良いと思いますか。あなたの考えに一番近いものを下のプルダウンから選んでください。

V 新学習システムについて、ご意見があれば記入してください。

中学校教員質問紙	学校名	担当学年
----------	-----	------

このアンケートは、本県で加配教員を活用して実施している、小学校3、4年生の35人学級編制や小学校5、6年生の「兵庫型教科担任制」などの新学習システムの評価・検証を行い、今後の推進内容の参考にするための調査です。お手数をおかけしますが、ご協力をお願いします。

のセルに回答をお願いします。

- I あなたが、担当している学年の状況について、質問に教えてください。
- 1 あなたが、担当している学年のクラス数、学級担任をしているクラスの人数について、教えてください。

① 学年のクラス数		クラス
② 学級担任をしているクラスの数		人

- 2 あなたのクラスの少人数授業での授業形態について該当する欄に○を記入してください。  
※1つの教科で複数選択可 ※少人数授業を実施していない教科は全て空欄

ア 出席番号の前半と後半など、勉強の理解度とは関係のない分け方で少人数指導  
イ 標準コースと基礎コースなど、勉強の理解度に応じた分け方で少人数指導  
ウ 1つの教室で2人以上の教員で指導する同室複数指導

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語
ア									
イ									
ウ									

- II 少人数授業について、あなたの実践の内容として、あてはまるものを全て選んでください。
- |                                    |
|------------------------------------|
| 生徒のつまずきを早期に発見し、対応できている             |
| 授業中に、一人一人の生徒に発言の機会を多く与えている         |
| 教員間で協力して、創意工夫した魅力ある授業や分かる授業を創造している |
| 学習進度や指導形態等について、教員間で共通理解を図っている      |
| 多くの教員が関わることで、多面的な生徒理解ができている        |

- III クラスの人数について、質問に教えてください。
- 1 今の担任しているクラスの人数のことを、どう思いますか。  
右のプルダウンから選んでください。
- 2 クラスの人数は、どれくらいが良いと思いますか。あなたの考えに一番近いものを下のプルダウンから選んでください。

- IV (現在の加配教員の人数が変わらない条件のもと) 加配教員の活用方法について、あなたの考えに最も近いものをア～エから1つ選んでください。

- ア 少人数授業より中学校全学年への35人学級の導入を優先すべき  
イ 少人数授業より中学校1年生への35人学級の導入を優先すべき  
ウ 35人学級の導入より少人数授業での活用を進めるべき  
エ 学校の実情に応じて、少人数授業と35人学級の導入を選ぶようにすべき

- V 新学習システムについて、ご意見があれば記入してください。

小学校学校質問紙	学校名
----------	-----

このアンケートは、本県で加配教員を活用して実施している、小学校3、4年生の35人学級編制や小学校5、6年生の「兵庫型教科担任制」などの新学習システムの評価・検証を行い、今後の推進内容の参考にするための調査です。お手数をおかけしますが、ご協力をお願いします。  
※このアンケートは、添付した資料を参考に、管理職が回答願います。

のセルに回答をお願いします。

- I 兵庫型教科担任制について、質問に教えてください。
- 1 国による教科担任制導入後の本県における教科担任制のあり方について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。
- ア 現在の枠組み(国・算・理・社から2教科以上)での担任による授業交換を継続すべき  
イ 音楽、体育など技能教科も含めた担任による授業交換を実施すべき  
ウ 担任による授業交換は学校の実情に応じて実施すべき  
エ 担任による授業交換は実施すべきではない

- 2 国による35人学級編制が6年生まで完了した後の加配教員の活用のあり方について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。  
※担任補助：加配教員の持ち時間を減らして、その時間を担任の業務軽減に充てる
- ア 現在のように、高学年の少人数授業のために活用すべき  
イ 高学年の少人数授業や専科指導のために活用すべき  
ウ 高学年の少人数授業、専科指導、担任補助のために活用すべき  
エ 学校が指定した学年で、少人数授業のために活用すべき  
オ 学校が指定した学年で、少人数授業や専科指導のために活用すべき  
カ 学校が指定した学年で、少人数授業、専科指導、担任補助のために活用すべき

- II 35人学級編制の導入について、質問に教えてください。
- 1 小学校5、6年生への35人学級編制の導入時期について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(添付資料を参考に回答願います。)
- ア 国の導入スケジュールにあわせて導入すべき  
イ 国の導入スケジュールを待たずに、できるだけ早く導入すべき
- 2 クラスの人数は、どれくらいが良いと思いますか。あなたの考えに一番近いものを1つ選んでください。
- ア 20人以下  
イ 30人ぐらい  
ウ 35人ぐらい  
エ 40人以上

- III 専科教員による授業がらさわしいと思う教科の順に3つ選んでください。
- |                                |    |
|--------------------------------|----|
| 選択肢                            | 1番 |
| 国語、書写、社会、算数、理科、音楽、図工、家庭、体育、外国語 | 2番 |
|                                | 3番 |

- IV その他、学校運営上の課題について、質問に教えてください。  
次の内容について、貴校の課題となっているものをすべて選んでください。
- |                              |
|------------------------------|
| 新学習システムの加配教員が見つからない          |
| 学年を担当する教員が固定化される傾向にある        |
| 3、4年生の児童への学習指導の体制が手薄になる傾向がある |
| 5、6年生の学級担任への業務負担が重くなる傾向にある   |
| その他※内容を下に記入                  |

中学校学校質問紙	学校名
----------	-----

このアンケートは、本県で加配教員を活用して実施している、小学校5、6年生の「兵庫県教科担任制」や中学校の少人数授業などの新学習システムの評価・検証を行い、今後の推進内容の参考にするための調査です。お手数をおかけしますが、ご協力をお願いします。  
※このアンケートは、添付した資料を参考に、管理職が回答願います。

のセルに回答をお願いします。

I 35人学級編制の導入について、質問に答えてください。

1 中学校への35人学級編制の導入について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

(添付資料を参考に回答願います。)

- ア 少人数授業より中学校全学年への35人学級の導入を優先すべき
- イ 少人数授業より中学校1年生への35人学級の導入を優先すべき
- ウ 35人学級の導入より少人数授業での活用を進めるべき
- エ 学校の実情に応じて、少人数授業と35人学級の導入を選べるようにすべき

2 クラスの人数は、どれくらいが良いと思いますか。あなたの考えに一番近いものを1つ選んでください。

- ア 20人以下
- イ 30人ぐらい
- ウ 35人ぐらい
- エ 40人以上

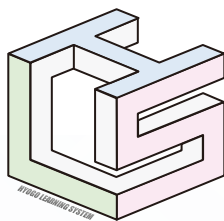
II その他、学校運営上の課題について、質問に答えてください。

次の内容について、貴校の課題となっているものをすべて選んでください。

- |   |
|---|
| <input type="checkbox"/> 新学習システムの加配教員が見つからない                    |
| <input type="checkbox"/> 教職員の教科のバランスの関係で、新学習システムで推進したい内容ができていない |
| <input type="checkbox"/> 新学習システムの担当教員を学級担任にすることができない            |
| <input type="checkbox"/> 学級担任への業務負担が重くなる傾向にある                   |
| <input type="checkbox"/> その他※内容を下に記入                            |

--





新学習システムあり方検討委員会 報告書

すべての子ども達の可能性を引き出す  
「兵庫型学習システム」の推進

令和4(2022)年1月発行  
編集発行 兵庫県教育委員会